

大館市文化財調査報告書 第7集

# 大館市内遺跡詳細分布調査報告書(3)

2013・3

秋田県大館市教育委員会

## 序

本市には、これまでに発見された 288 か所の遺跡が登録されております。先人の遺産である埋蔵文化財は、地域はもとより我が国の歴史や文化を正しく理解するうえで欠くことのできない重要な資料であり、貴重な文化遺産として保護し、未来へ引き継いでいかななくてはなりません。

本報告書は、平成 23 年度から平成 24 年度まで実施した、遺跡詳細分布調査の結果をまとめたものです。遺跡の分布調査及び試掘確認調査は、各種の開発事業と埋蔵文化財保護との調整を図るための基礎となるものであり、今回の調査では新たに 4 遺跡の存在が確認されました。

本報告書が文化財の保存と普及及び啓発活動、並びに埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後となりましたが、調査及び本報告書刊行にあたり、御理解、御援助をいただきました関係各位に厚く感謝申し上げますとともに、今後とも、なお一層の御指導、御協力をお願い申し上げます。

平成 25 年 3 月

大館市教育委員会

教育長 高 橋 善 之

## 例 言

1. 本書は、大館市教育委員会が実施した市内遺跡詳細分布調査の報告書である。
2. 調査は、平成 23 ～ 24 年度の国・県の文化財保存事業補助金を受け、実施した。調査と整理の体制は第 1 章に記した。
3. 本書の作成にあたり、遺跡周辺図、遺構位置図、遺構図の作成は、滝内亨(大館郷土博物館主査)、嶋影壮憲(同主任)、高橋ユキ子(同臨時職員)、田畑志帆(同臨時職員)が行った。野外調査の写真撮影は滝内、嶋影が担当した。遺物写真撮影は、滝内が担当した。
4. 本書は、滝内、嶋影が執筆し、滝内が編集した。
5. 本書に使用した地形図は、国土地理院発行の 1 / 25,000 地形図・1 / 50,000 地形図、並びに秋田県教育委員会発行の秋田県遺跡地図(北秋田地区版)、大館市役所発行の「都市計画図 1 / 2,500」である。
6. 本調査で出土した遺物並びに記録類は、大館市教育委員会郷土博物館で保管している。
7. 整理作業には、秋田県緊急雇用創出等臨時対策基金事業を活用した。
8. 調査及び報告書作成にあたっては、下記の方々から御指導、御協力をいただきました。記して感謝申し上げます(順不同、敬省略)。

板橋範芳、大野淳也、鷹嘴勇二、高橋昭悦

秋田県教育庁生涯学習課、秋田県埋蔵文化財センター、秋田県北秋田地域振興局農林部農村整備課、大館市市民部市民課、大館市産業部地域振興課、大館市産業部農林課、大館市建設部土木課、大館市建設部下水道課、大館市消防本部消防総務課、大館市土地改良区、社会福祉法人比内ふくし会、合資会社石戸谷建設、有限会社小笠原測量設計事務所、川村建設工業株式会社、佐藤建設株式会社、有限会社サーベイ秋田、株式会社シムコ、平和建設株式会社、有限会社吉田興業、株式会社ダイヤ、株式会社ワールドプラン社

## 凡 例

1. 本書遺構図等における各基準は、下記のとおりである。なお、その都度スケール・方位・凡例等を示す。

### 略記号・縮尺

調査位置図	1 : 500	1 : 1,000	1 : 2,000
竪穴住居跡・竪穴状遺構・竪穴建物跡 (S I)	1 : 40		
土坑・落とし穴状遺構 (S K)	1 : 20		
溝跡 (S D)	1 : 40		
柱穴様ピット (S P)			
自然流路 (N R)			
土層柱状図	1 : 40	1 : 80	

なお、調査位置図において、テストピットは番号のみを付し、トレンチは番号の前にTの記号を付して表記した。

### 図の方位

北は図面天方向に合致する。例外についてはその都度方位を示す。

### 遺構図等の標高

遺構平面図・断面図等の標高値は、海拔高度による。単位はメートル。

遺物写真図版の縮尺は、任意である。

2. 一覧表における遺構の規模のうち、確認面、底面の項については、長径×短径で表した。単位はメートル。

3. 本書における遺物の分類基準は、大館市文化財調査報告書4に準拠する。本書に掲載した遺物の分類基準の概要は以下のとおりである。

### 土器 (P)

- 2群 縄文時代前・中期円筒土器群
- 3群 陸奥大木系土器群
- 4群 北陸系土器群
- 5群 縄文時代後・晩期土器群
- 6群 弥生時代の土器
- 7群 土師器
- 8群 陶磁器類

### 石器 (S)

- 1群 石器
  - 1類 ポイント類
  - 2類 石錐類
  - 3類 ナイフ・スクレイパー類
  - 4類 部分的な刃部をもつ剥片類
  - 5類 石斧類
  - 6類 擦石・敲石類
  - 7類 砥石・石皿・台石類
- 2群 剥片
- 3群 石核
- 4群 礫

# 目 次

序	i
例言	ii
凡例	iii
目次	iv
第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査要項	1
3 調査の方法	3
第2章 大館地区の調査	8
1 雪沢地区①	8
2 花岡地区	10
3 柄沢地区	12
4 粕田遺跡	17
5 大披地区	20
6 芦田子上岱遺跡	23
7 大館野遺跡隣接地	35
8 二井田地区	38
9 雪沢地区②	40
10 福館橋桁野遺跡隣接地	42
第3章 比内地区の調査	47
1 味噌内地区	47
2 鎌谷地沢遺跡	50
3 真館Ⅱ遺跡	57
第4章 田代地区の調査	68
1 菅谷地遺跡	68
2 山田地区	75
3 大川目元渡遺跡	78
4 本郷Ⅳ遺跡隣接地	86
5 中茂屋遺跡隣接地	88
6 中茂屋遺跡	92
7 大川目元渡遺跡隣接地	98
8 大岱中岱遺跡隣接地	102
報告書抄録	104

# 第1章 調査の概要

## 1 調査の目的

大館市内には、旧石器時代から近世までの遺跡が存在しており、現在 288 箇所の遺跡が登録されている。大館市教育委員会は、平成 15 年度より文化財保存事業補助金を受け、貴重な埋蔵文化財を保護し、各種開発行為との円滑な調整を図るために、市内に所在する遺跡の所在・確認調査を実施している。これまでの調査で 19 遺跡 29 地区、延べ 48 箇所について調査を実施し、周知の遺跡の現況・範囲・数の把握や今後開発が予想される地域における未発見の遺跡の新規登録などにより、市内に所在する遺跡に関する詳細な基礎資料の整備に努めてきた。

今回（平成 23～24 年度）の調査は、周知の遺跡及び遺跡存在可能性地における各種開発行為について、事前の事業照会と協議を重ね、土地所有者の協力が得られた表 1・図 1～4 の箇所について調査を実施した。調査を実施した地区の遺跡名、所在地、調査面積、調査期間等は表 1 に示すとおりである。

## 2 調査要項

### (1) 調査体制

教 育 長	高 橋 善 之	
教 育 次 長	大 友 隆 彦	(平成 24 年 3 月 31 日まで)
教 育 次 長	石 井 隆	(平成 24 年 4 月 1 日より)
生涯学習課長	名 村 伸 一	(平成 24 年 3 月 31 日まで)
生涯学習課長	齊 藤 博 樹	(平成 24 年 4 月 1 日より)
郷土博物館長	松 田 誠 行	(平成 24 年 3 月 31 日まで)
郷土博物館長	若 宮 司	(平成 24 年 4 月 1 日より)
文化財保護係長	岸 匡 也	
文化財保護係	滝 内 亨	(調査担当)
同	嶋 影 壮 憲	(調査担当)
調 査 補 助 員	高 橋 光 大	(平成 24 年 9 月 1 日より)

### (2) 調査期間

現地調査	自：平成 23 年 6 月 11 日	至：平成 24 年 12 月 18 日
整理作業	自：平成 23 年 11 月 17 日	至：平成 25 年 3 月 31 日
調査面積	4,083 m <sup>2</sup>	

表1 詳細分布調査一覧

事業	登載 番号	遺跡（地区名）	調査地	調査対象 面積(m <sup>2</sup> )	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査期間	報告
平成23年度							
畜舎造成	15-66	菅谷地遺跡	早口字菅谷地34番2	1,400	1,400	6/11～6/16	4-1
携帯電話無線基地 局		雪沢地区①	雪沢字籠谷郷山下32番1	18	5	7/30	2-1
		花岡地区	花岡町字長森69番3	80.5	5	7/30	2-2
墓園拡張		柄沢地区	柄沢字小柄沢68番1ほか	9,924	270	8/17～9/9	2-3
市道整備	4-8	粕田遺跡	花岡町字大森上岱地内	180	5.5	8/19	2-4
公共下水道		山田地区	山田字茂屋下羽立地内 山田字茂屋前田地内	353	20	8/30・11/24	4-2
		味噌内地区	比内町味噌内字牛ヶ首地 内	393	12	9/15・16	3-1
携帯電話無線基地 局		大披地区	大披字上野台66番1	320	10	10/25	2-5
農地集積加速化基 盤整備事業	4-49	芦田子上岱遺跡	芦田字上上岱21番ほか	12,000	375	11/17～12/1	2-6
養豚企業誘致	15-67	大川目元渡遺跡	岩瀬字大川目元渡338番	12,000	267.5	11/25～12/2	4-3
鶏糞処理施設建設	12-50	鎌谷地沢遺跡	八木橋字鎌谷地沢26番29	4,000	381	12/3～12/24	3-2
計					2,751		
平成24年度							
携帯電話無線基地 局建設	4-5	大館野遺跡隣接地	粕田字筑紫森10番3	100	10	5/18	2-7
	15-46	本郷IV遺跡隣接地	早口字上屋敷92番2	100	10	5/18	4-4
福祉施設建設	12-52	真館Ⅱ遺跡	比内町新館字真館22番ほ ほか	9,900	375	7/10～8/1	3-3
携帯電話無線基地 局建設		二井田地区	二井田字上四羽出3番1	135	12	8/23	2-8
公共下水道	15-62	中茂屋遺跡隣接地	山田字茂屋前田地内 山田字茂屋屋布後地内	424	28	8/8～8/9	4-5
		中茂屋遺跡	山田字茂屋屋布後地内	95	95	9/20～10/6	4-6
養豚企業誘致	15-67	大川目元渡遺跡隣 接地	岩瀬字大川目元渡338番	20,000	250	10/24～11/17	4-7
消防救急デジタル 無線基地局建設	15-27	大岱中岱遺跡隣接 地	早口字大岱中岱9番23	120	10	11/20	4-8
		雪沢地区②	雪沢字小滝沢13番1	120	12	11/20	2-9
市道整備	4-13	福館橋桁野遺跡隣 接地	釈迦内字長者森4番3ほか 釈迦内字福館54番3ほか	3,995	150	9/11～9/20	2-10
農地集積加速化基 盤整備事業	4-49	芦田子上岱遺跡	芦田字上上岱21番ほか	260,000	380	11/6～11/9 11/21～12/18	2-6
計					1,332		
合計					4,083		

### 3 調査の方法

#### (1) 野外調査

野外作業は、調査対象地に任意でテストピット・トレンチを設定し、盛土、攪乱土、耕作土をバックホーまたは人力で除去した後、遺物包含層を人力で掘削する方法で実施した。出土遺物は、遺構毎ないしテストピット・トレンチ毎、層位毎に取り上げた。また、一部の調査ではテストピット・トレンチの形状については、トータルステーションシステムを用いて計測・記録した。

#### (2) 整理作業

整理作業については、遺物の水洗、分類、注記の一次整理の後、遺物の細分類、接合等の二次整理を行った。また、並行して野外調査で得られた記録類の整理等も行った。遺物写真の撮影については、株式会社ワールドプラン社の協力を得た。なお、遺物の整理作業には秋田県緊急雇用創出等臨時対策基金事業を活用した。



図1 調査遺跡位置図（大館地区 1：50,000）

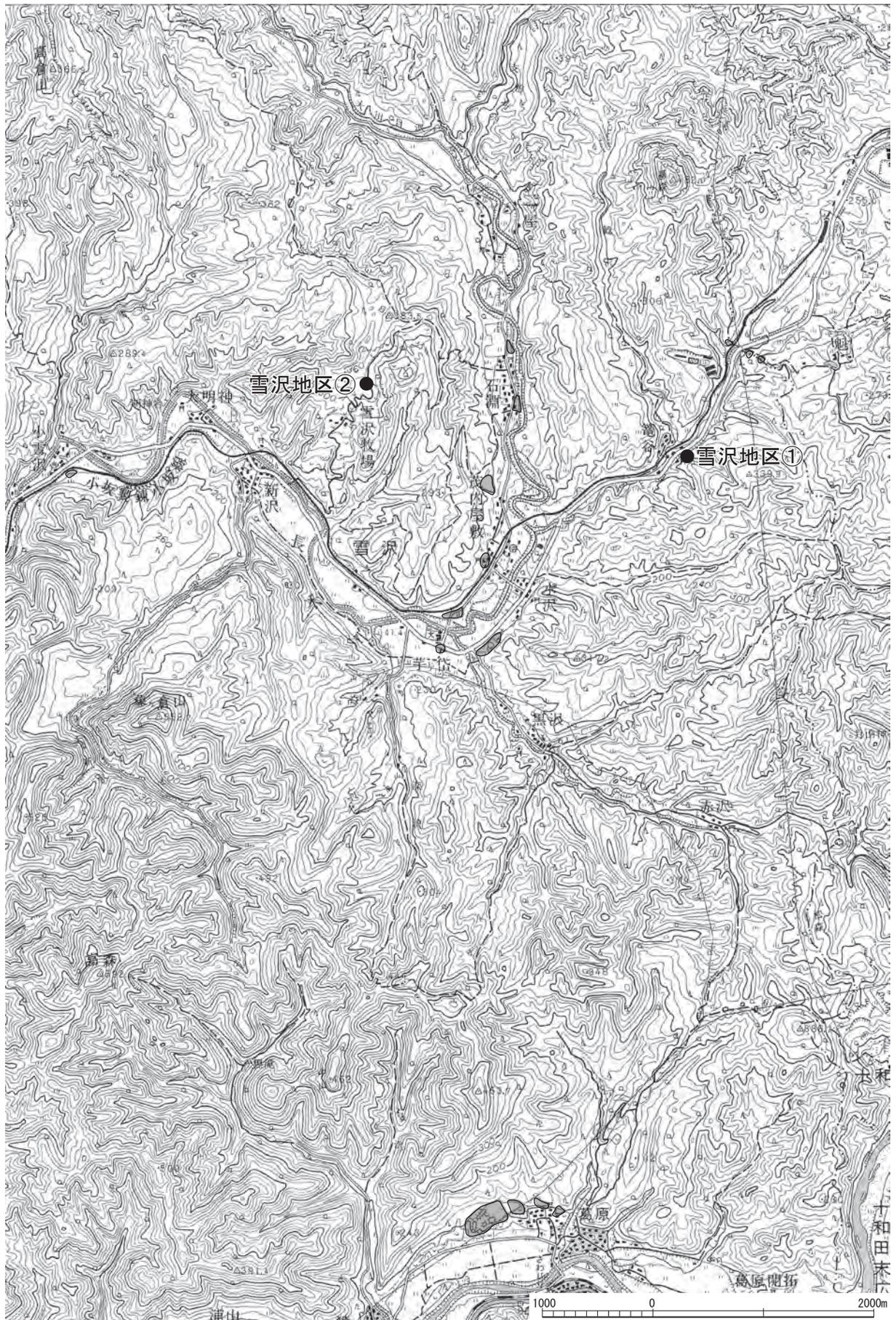


図2 調査遺跡位置図（大館地区東部 1：50,000）



図3 調査遺跡位置図 (比内地区 1 : 50,000)



## 第2章 大館地区の調査

### 1 雪沢地区①（携帯電話無線基地局）

#### (1) 調査地の位置と周辺的环境

調査を実施した地区は、JR大館駅より東へ約13km、大館市東部の標高173mの段丘上に位置する。本地区は、大館盆地の東側を流れる長木川の流域にあたる。調査地の地番は雪沢字箆谷郷山下32番1で、平成23年度に実施した。

大館市内の遺跡の多くは丘陵を開析する沢の流域に分布する。調査地付近にはその沢の一つが横断しており、遺跡の所在する可能性がある地区であることから調査を行った。

#### (2) 調査の内容

今回の調査は、携帯電話無線基地局が建設される地区18㎡について実施した。1m×5mのトレンチを設定して調査を実施した。トレンチは、人力にて表土及び黒色土を除去した後、底面と壁面を精査し、埋蔵文化財の有無を調査した。基本層序は基盤をなす褐色粘土層上に腐植土層が堆積する単純なものである。以下に基本層序を示す。

- I層 表土。
- II層 明黄褐色火山灰。
- III層 黒色の色調を示す腐植土層である。
- IV層 黒褐色の色調を示す土層。III層とV層の漸移層である。
- V層 褐色粘土層。

#### (3) 調査の結果

調査の結果、遺構・遺物は確認されず、調査地内には埋蔵文化財は分布しないと判断された。したがって、保護措置は不要と考えるのが妥当と判断した。

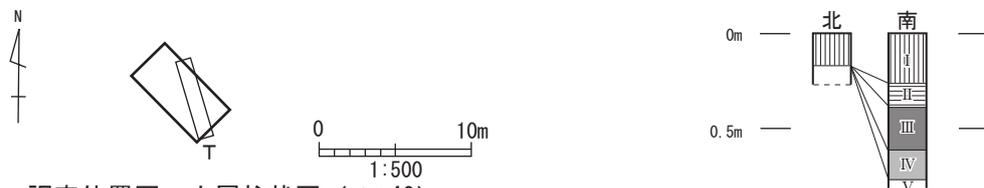


図5 調査位置図、土層柱状図（1:40）



調査区近景

調査状況

調査状況

図版1 調査状況

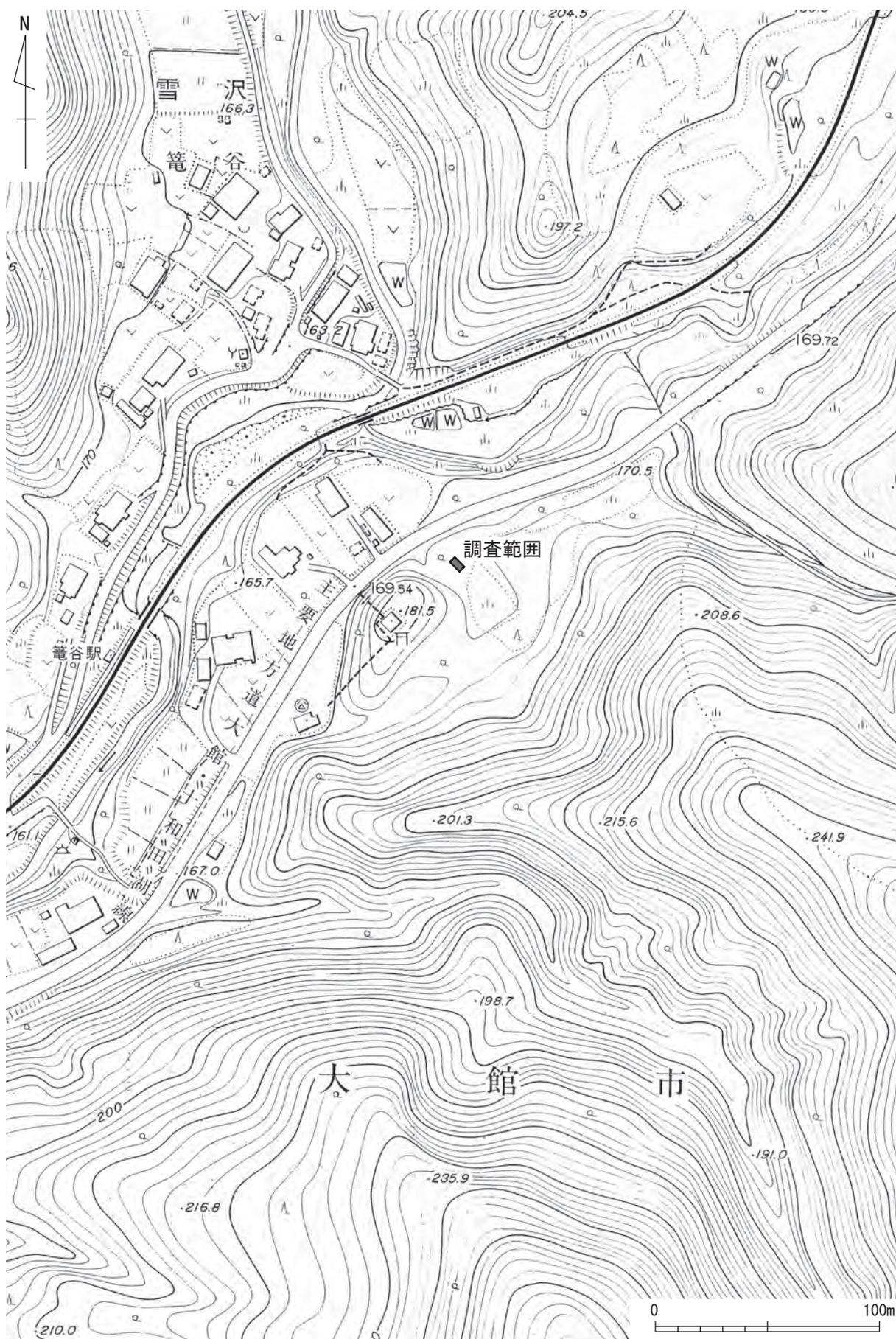


図6 調査地区と周辺の地形 (1:2,500)

## 2 花岡地区（携帯電話無線基地局）

### (1) 調査地の位置と周辺環境

調査を実施した地区は、JR白沢駅より西へ約3.3km、大館盆地北部の標高80mの台地上に位置する。本地区は、大館盆地の北側を流れる花岡川の流域にあたる。調査地の地番は花岡町字長森69番3で、平成23年度に実施した。

大館市内の遺跡の多くは丘陵を開析する川・沢の流域に分布する。調査地付近にはその川の一つが縦断しており、遺跡の所在する可能性がある地区であることから調査を行った。

### (2) 調査の内容

今回の調査は、携帯電話無線基地局が建設される地区80.5㎡について実施した。1m×5mのトレンチを設定して調査を実施した。トレンチは、人力にて表土及び黒色土を除去した後、底面と壁面を精査し、埋蔵文化財の有無を調査した。基本層序は基盤をなすにぶい黄橙色土層上に表土が堆積する単純なものである。以下に基本層序を示す。

I層 表土。

II層 にぶい黄橙色土層。

### (3) 調査の結果

調査の結果、遺構・遺物は確認されず、調査地は過去の土地造成による削平を受けていると考えられる。以上のように地形・土層等からみて、今回の調査対象地内には埋蔵文化財が存在する可能性は低く、保護措置は不要と考えるのが妥当と判断した。

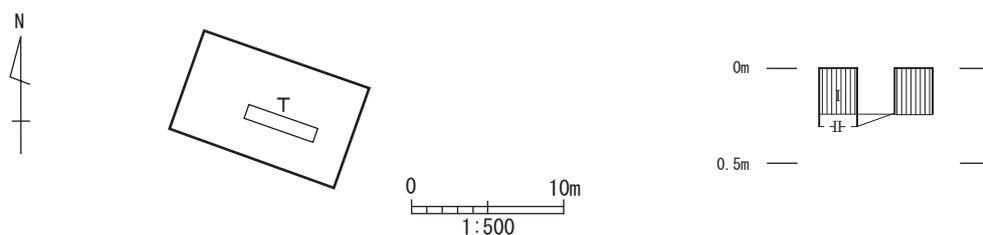


図7 調査位置図、土層柱状図（1:40）



図版2 調査状況

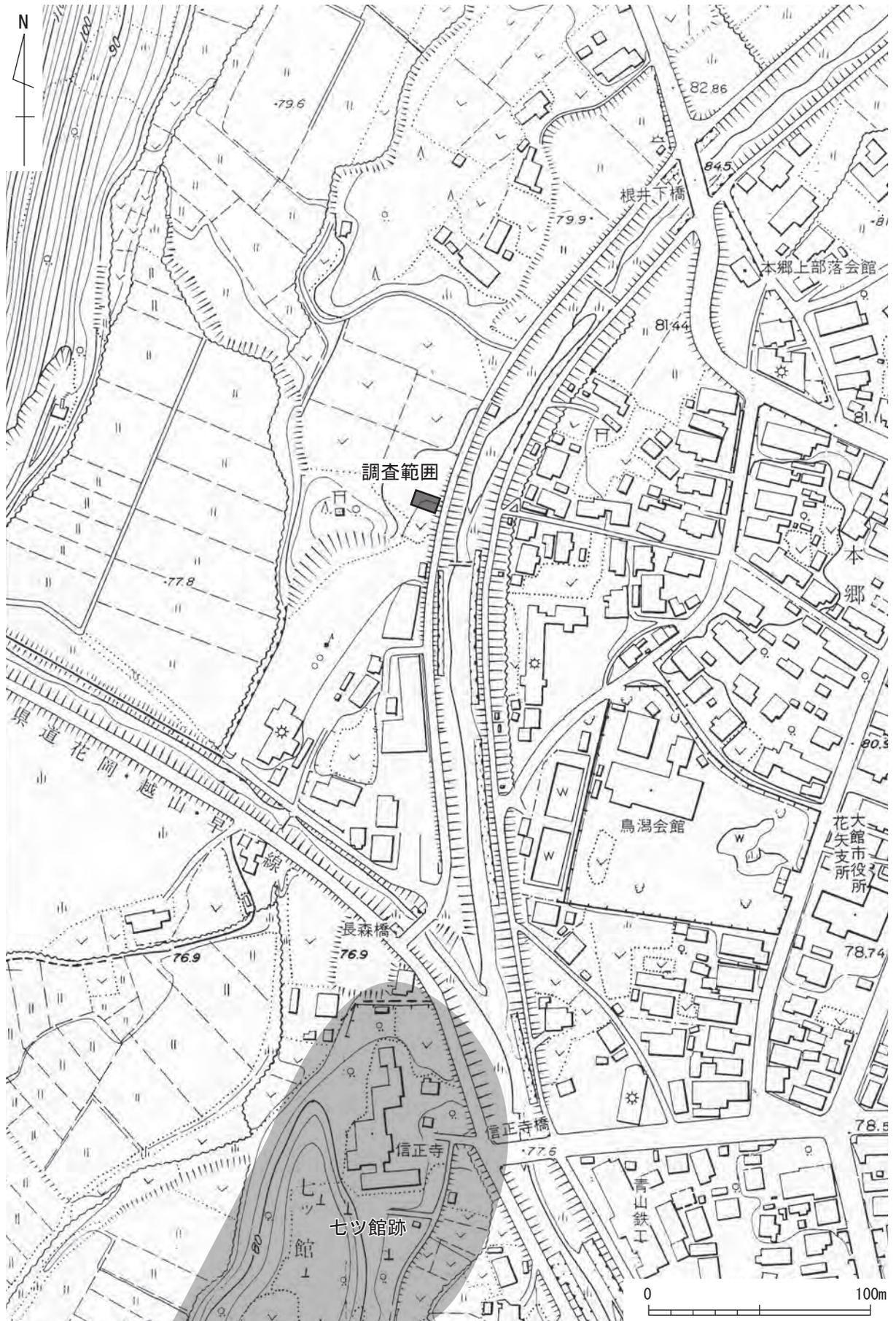


図8 調査地区と周辺の地形 (1:2,500)

### 3 柄沢地区（墓園拡張）

#### (1) 調査地の位置と周辺の環境

調査を実施した地区は、JR東大館駅より東へ約2.3km、大館盆地東部の標高76～79mの台地上に位置する。本地区は、大館盆地の東部を流れる柄沢川の流域にあたる。調査地の地番は柄沢字小柄沢68番1ほかで、平成23年度に実施した。

大館市内の遺跡の多くは丘陵を開析する川・沢の流域に分布する。調査地付近にはその川の一つが縦断しており、遺跡の所在する可能性がある地区であることから調査を行った。

#### (2) 調査の内容

今回の調査は、墓園が造成される地区9,924㎡について実施した。調査区内に、1m×11～45mのトレンチを設定し、調査を実施した。トレンチは、重機を用いて盛土及び黒色土を除去した後、人力にて底面と壁面を精査し、埋蔵文化財の有無等を調査した。基本層序は、基盤をなす灰黄褐色～褐色砂質土層上に黒色土が堆積する単純なものである。以下に基本層序を示す。

I層 表土及び耕作土。

II層 黒色の色調を示す腐植土層である。

III層 黒褐色の色調を示す土層。II層とIV層の漸移層である。

IV層 灰黄褐色～褐色砂質土層。

#### (3) 調査の結果

調査の結果、遺構・遺物は確認されず、調査地内の大半は、土地改良、耕作等による削平が灰黄褐色～褐色砂質土層まで達していた。以上のように地形・土層等からみて、今回の調査対象地内には埋蔵文化財が存在する可能性は低く、保護措置は不要と考えるのが妥当と判断した。



図9 調査地区と周辺の地形 (1:2,500)

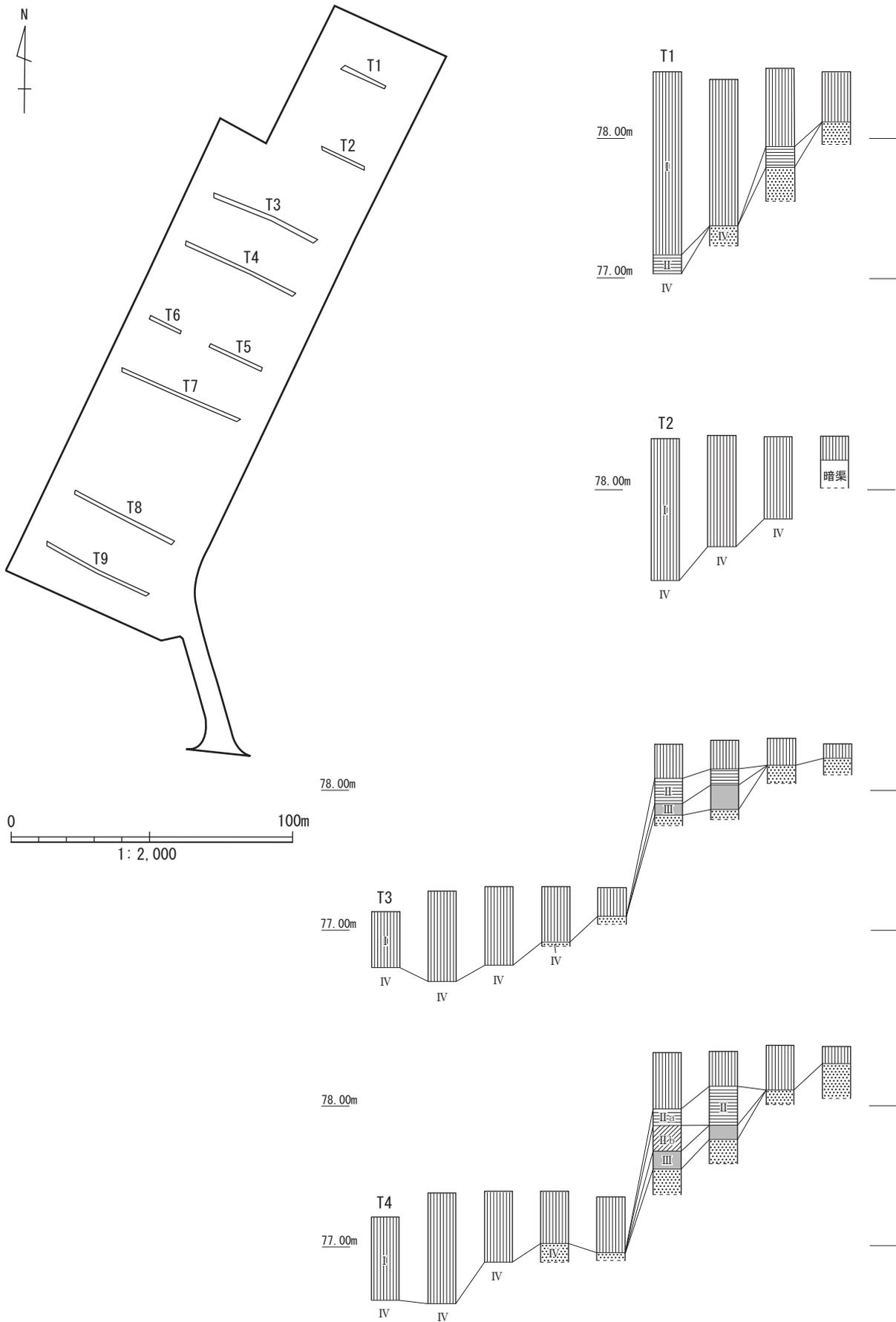


図10 調査位置図、土層柱状図(1) (1:40)

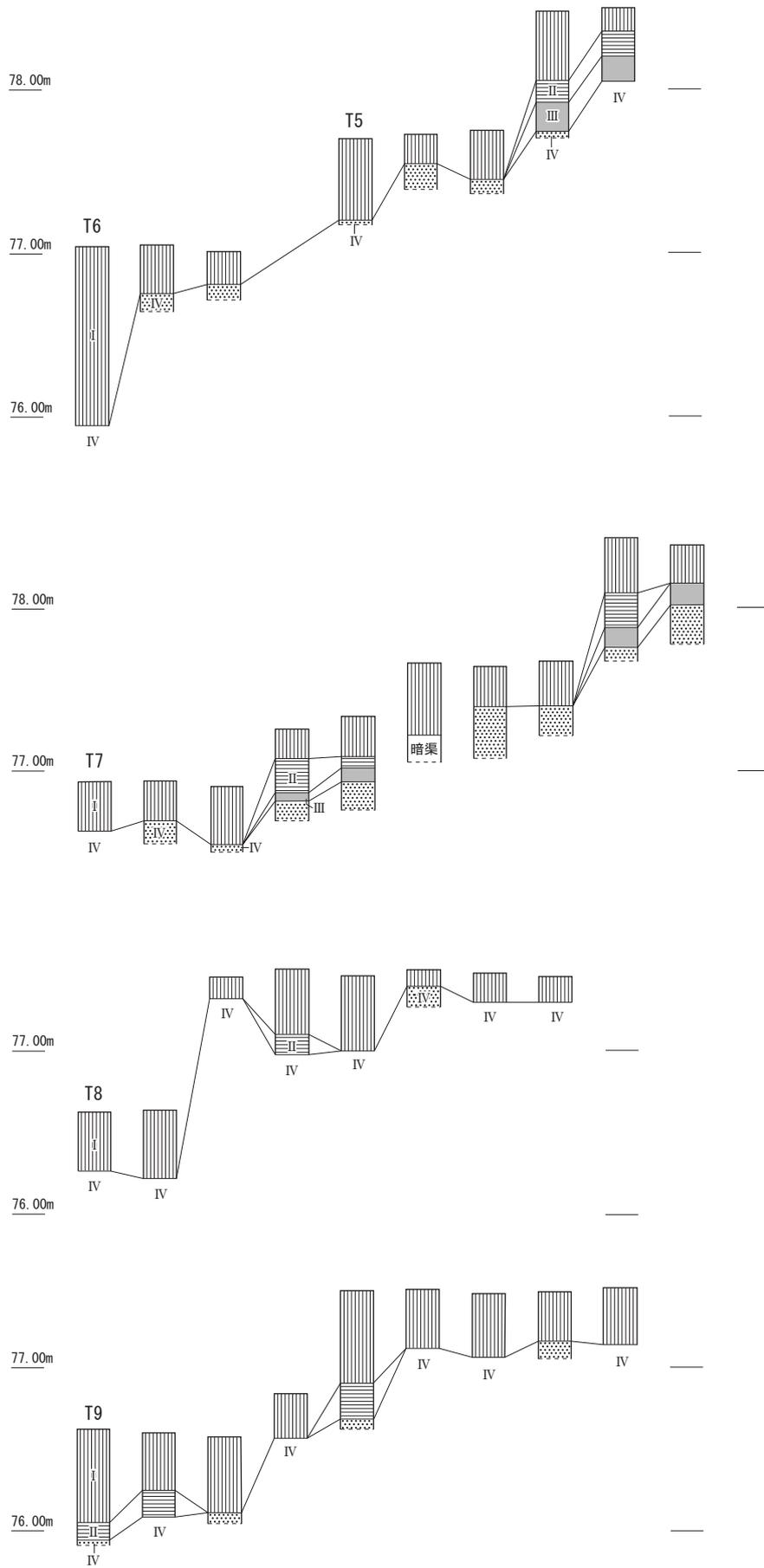


图11 土層柱状图(2) (1 : 40)



調査区近景



T 1 調査状況



T 2 調査状況



T 3 調査状況



T 4 調査状況



T 5 調査状況



T 7 調査状況



T 8 調査状況

図版3 調査状況

## 4 粕田遺跡（市道整備）

### (1) 遺跡の位置と周辺環境

粕田遺跡は、JR白沢駅より西へ約1.7km、大館盆地北部に位置する。本遺跡は、大館盆地の北部を流れる粕田川の流域にあたり、周辺には北東約0.9kmのところの中羽立遺跡と両堤遺跡、東約0.9kmに大館野遺跡、南東約1.2kmに福館跡と福館橋桁野遺跡、南西約1.3kmに根井下遺跡、十三森遺跡、七ッ館跡が分布する。

本遺跡は、昭和48年度に土砂採取工事中、市教委により発見された弥生時代と平安時代の集落跡（秋田県教育委員会登載番号204-4-8）である。遺跡の推定面積は約32,000㎡、位置は今回調査区で、北緯40度20分20秒、東経140度34分17秒、標高は海拔95mである。

本遺跡は昭和48年度に実施された市教委の発掘調査により、弥生～平安時代にかけての密度の濃い複合遺跡であることが明らかとなっている。

### (2) 調査の内容

今回の調査は、市道が改良工事される地区180㎡について実施した。調査区内に、1m×2～3mのテストピットを設定し、調査を実施した。テストピットは、重機を用いて盛土及び黒色土を除去した後、人力にて底面と壁面を精査し、埋蔵文化財の有無及び遺物包含層の状況等を調査した。基本層序は、基盤をなす褐色粘土層上に黒色土が堆積する単純なものである。以下に基本層序を示す。

I層 表土。

II層 黒色土層。

III層 褐色粘土層。

### (3) 調査の結果

調査の結果、遺構・遺物は確認されず、調査地は過去の道路造成による削平を受けていると考えられる。以上のように地形・土層等からみて、今回の調査対象地内には遺跡が存在する可能性は低く、本発掘調査は不要と判断した。

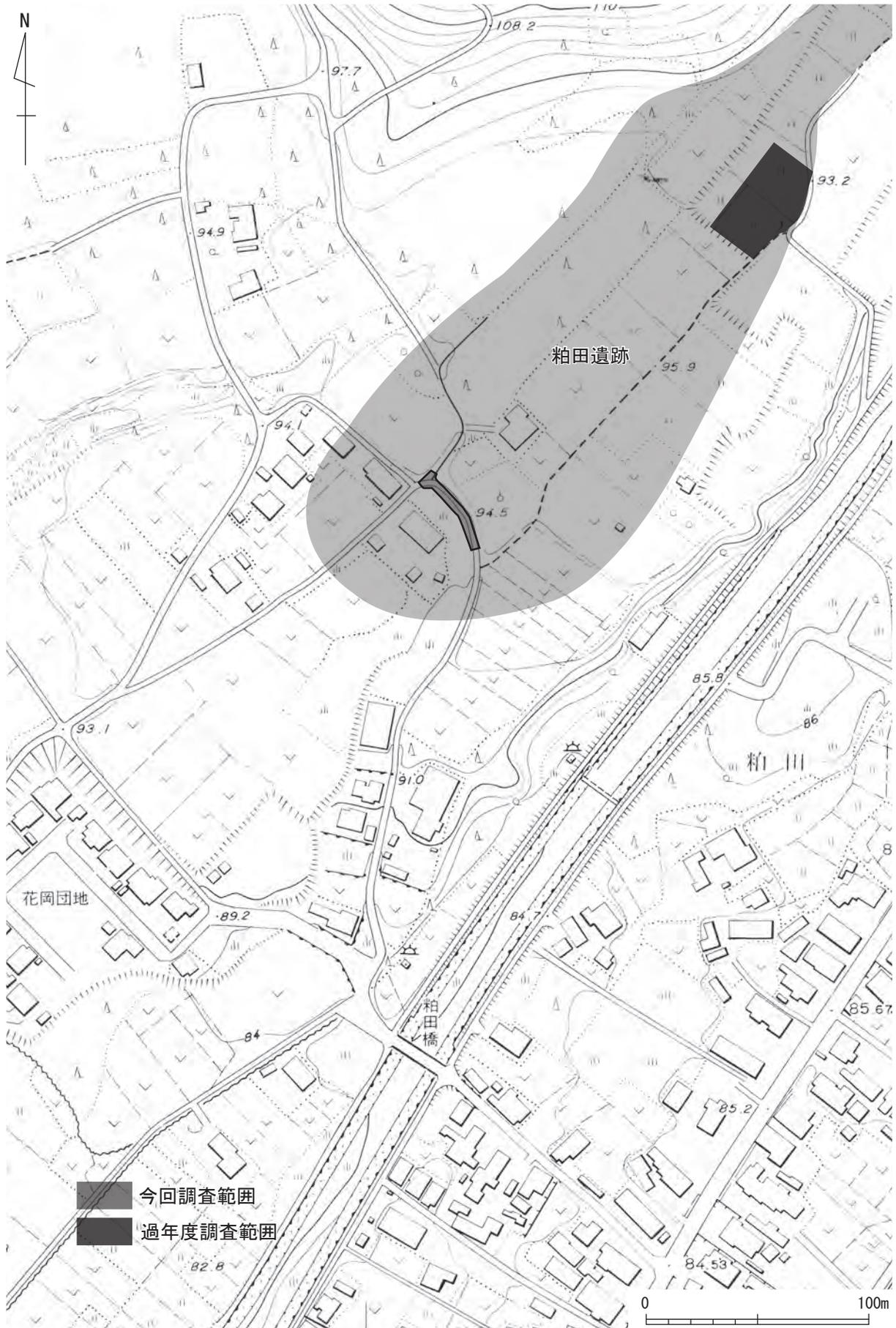


図12 調査地区と周辺の地形 (1:2,500)

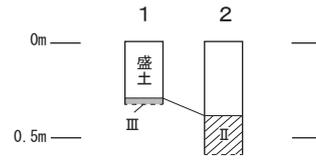
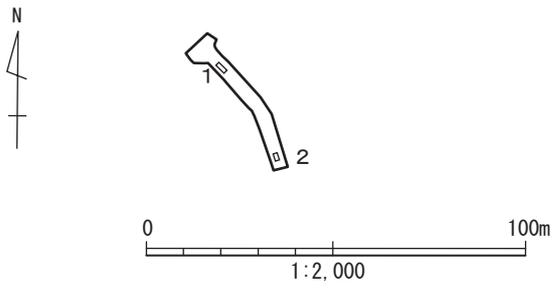


図 13 調査位置図、土層柱状図 (1 : 40)



調査区近景



調査区近景



1 調査状況



2 調査状況

図版 4 調査状況

## 5 大披地区（携帯電話無線基地局）

### (1) 調査地の位置と周辺環境

調査を実施した地区は、大館二井田工業団地から西に約5km、大館市城南西部の標高50mの段丘上に位置する。本地区は、大館盆地の南側を流れる引欠川の流域にあたる。調査地の地番は大披字上野台66番1で、平成23年度に実施した。調査地周辺の同台地上には、北約400mの台地北端部に大披館、南約500mに林ノ上遺跡、南西約500mに曲沢遺跡が分布する。

大館市内の遺跡の多くは丘陵を開析する川・沢の流域に分布する。調査地付近にはその川の一つが縦断しており、遺跡の所在する可能性がある地区であることから調査を行った。

### (2) 調査の内容

今回の調査は、携帯電話無線基地局が建設される地区320㎡について実施した。調査区内に、2m×5mのトレンチを設定し、調査を実施した。トレンチは、重機を用いて盛土及び黒色土を除去した後、人力にて底面と壁面を精査し、埋蔵文化財の有無等を調査した。また、埋没家屋が存在する可能性があるため、工事掘削深度の220cmまで掘削し確認した。調査地内の基本層序は、基盤をなす黄褐色火山灰層上に表土が堆積する単純なものである。以下に基本層序を示す。

I層 表土及び耕作土。

II層 黄褐色火山灰層。

III層 黄褐色火山灰層。II層より明るい。

柱穴様ピット1基と黒色土の落込み2箇所が確認されたが、ピットは、耕作土面から掘り込んでおり近代のものである。また、黒色土の落込み2箇所は、II層の堆積時に由来する自然の落ち込みであった。以上、遺構及び遺物は確認されなかった。

### (3) 調査の結果

調査の結果、遺構・遺物は確認されず、調査地は、土地改良、耕作等による削平がII層まで達していた。以上のように地形・土層等からみて、今回の調査対象地内には埋蔵文化財が存在する可能性は低く、保護措置は不要と考えるのが妥当と判断した。

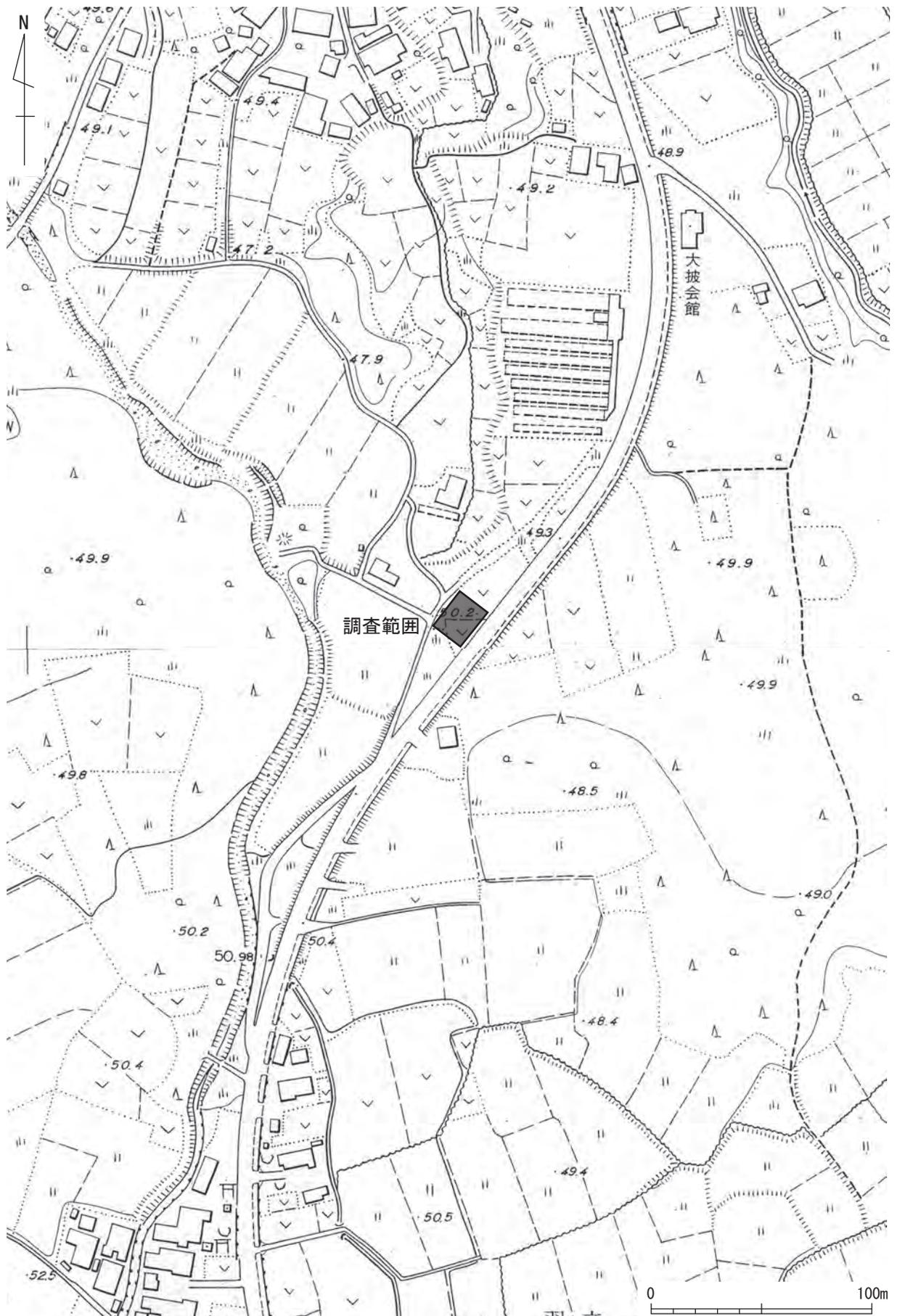


図14 調査地区と周辺の地形 (1 : 2,500)

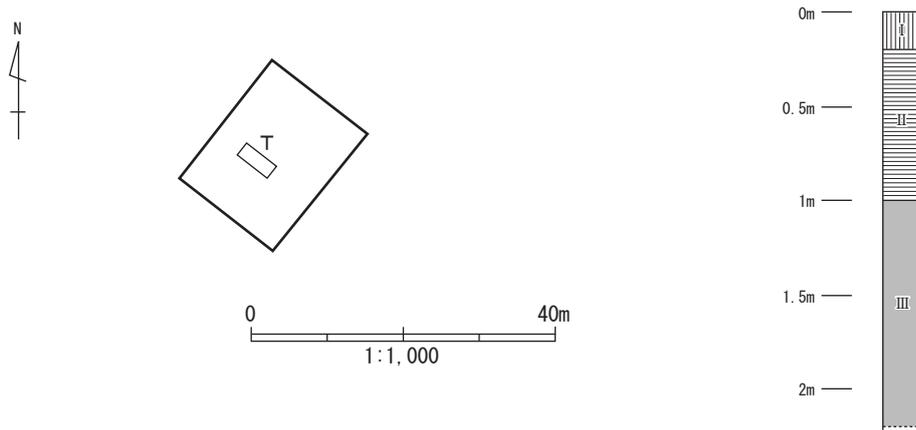


図15 調査位置図、土層柱状図（1：40）



調査区近景



重機による掘削



調査状況



調査状況

図版5 調査状況

## 6 芦田子上岱遺跡（農地集積加速化基盤整備事業）

### (1) 遺跡の位置と周辺環境

芦田子上岱遺跡は、JR大館駅より北東へ約3.5km、大館盆地東部を開析する沢の中流域に位置する。本遺跡は、盆地の東側を流れる長木川の流域にあたり、周辺には南東約1kmのところ到大茂内遺跡と諏訪台遺跡、諏訪台D遺跡が分布する。

本遺跡は、昭和63年度に市教委が実施した分布調査により発見された縄文時代及び平安時代の遺物包含地（秋田県教育委員会登録番号204-4-49）である。遺跡の推定面積は約87,000㎡、位置は北緯40度18分10秒、東経140度35分32秒、標高は海拔78～101mである。

本遺跡における本発掘調査の履歴はない。

### (2) 調査の内容

調査は平成23・24年度に実施し、遺跡の主体部と推定される約38,000㎡と遺跡南西側の水田部分約222,000㎡について実施した。

調査は、遺跡範囲内にはおおむね20m毎に、遺跡範囲外の地区には任意にテストピット（以下「TP」）を設定して実施した。TPの大きさは3×5mないし2m×5mとした。TPは、人力にて表土及び黒色土を除去した後、底面と壁面を精査し、埋蔵文化財の有無及び遺物包含層の状況等を調査した。

なお、平成23年度の調査では、工事で表土（17cm）までしか削らないことと、調査地の水田は次年度も作付けが行われ、田植えに支障をきたすため、掘削の深さは30～50cmほどまでとした。

調査地内の基本層序は基盤をなす黒褐色～褐色ローム層上に黒色土が堆積する単純なものである。以下に基本層序を示す。

I層 表土及び耕作土。

II層 黒色の色調を示す土層である。一部の箇所ではa・b層に細分される。

II a層 黒色の色調を示す土層。礫が多く混じる。耕地整理された際の盛土とみられる。

II b層 黒色の色調を示す土層。旧表土とみられる。

III層 にぶい黄褐色～暗褐色の色調を示す土層。十和田a火山灰の可能性が考えられる。

IV層 黒色の色調を示す腐植土層で、本来の遺物包含層である。

V層 暗褐色の色調を示す土層。IV層とVI層の漸移層である。

VI層 黒褐色～褐色の色調を示す砂礫層。

調査の結果、遺構は、TP39から時期不明の溝跡2条、TP42から縄文時代の土坑2基を確認した。遺物は、TP42から縄文土器片1点、弥生土器片1点、TP43から縄文土器片1点、TP38・45・48から近世陶磁器片が計4点、TP36・37・39・42・43・47から計15点の石器類が出土した。

なお、遺跡北西側隣接地の、ため池付近から土師器片1点、石器1点、剥片8点、石核3点のほか、炉壁や流動滓などの製鉄関連遺物59点が表面採集された。

### (3) 遺構

### 土坑1 (図22)

**遺構** T P 42 を調査中に黒色土の落ち込みを発見した。調査区外の北東へ広がる。平面形は円形を呈すると推測される。確認面での規模は径0.9 m、深さ0.3 mほどである。遺物は出土しなかった。

**覆土** 黒色土に粒状のロームなどが混じる。

### 土坑2 (図22)

**遺構** T P 42 を調査中に黒色土の落ち込みを発見した。調査区外の北西へ広がる。平面形は長楕円形を呈すると推測されるが、全体形は不明で、深さ0.4 mほどである。遺物は出土しなかった。

**覆土** 上層は黒色土に粒状のロームなどが混じり、下層はVI層主体で黒色土が粒状に混じる。

## (4) 遺物 (図版9)

今回の調査で得られた遺物は、縄文土器片2点(1・2)、弥生土器片1点(3)、土師器片1点、近世陶磁器片4点、石器2点(4)、剥片12点(5～7)、石核9点(8)、礫4点と製鉄関連遺物の鉄滓33点、炉壁19点、羽口7点の合計94点である。

土器は、2群に分類したのは2点で、前期に位置づけられる(1・2)。6群に分類したのは1点で、鉢の口縁部小破片である(3)。石器は、1群4類に分類した部分的に刃部を持つ剥片の2点である(4)。

## (5) 調査の結果

今回の調査は、芦田子上岱遺跡の主体部と思われる箇所について実施し、本遺跡の全容解明が期待された。しかし、水田部分は遺物包含層が残存せず、遺構もT P 39から溝跡2条、T P 42から縄文時代の土坑2基が確認されたのみである。遺物も近世陶磁器を含め18点を得たにすぎない。水田として利用された際、遺物包含層が削平されたものと考えられる。今回の調査結果により、水田部分において、遺跡は消失したものと判断される。また、III層(十和田a火山灰の二次堆積層)が確認されている箇所がいくつかみられるが、IV層以下からもほとんど遺物は出土していない。このことから、元々遺跡が存在していなかった部分もかなりの面積を占めているものとみられる。地権者の話によれば、本遺跡は、かつて土器を採取することはできたが、近年ではほとんど採取することはできなくなったとのことである。

なお、今回の調査範囲外となっている遺跡北西側隣接地の、ため池付近から遺物が表採されたため、付近に遺構が存在していることが予想される。

一方、今回は遺跡南側の水田部分も一部調査したが、いずれのT Pからも遺構は確認されず、遺物もT P 47から剥片1点、T P 45・48から近世陶磁器片3点を得たのみで、遺跡のエリアに入るとは考えがたく、埋蔵文化財が存在する可能性は低いと判断した。

以上の結果から、土坑が検出されたT P 42周辺の遺跡北部エリアは、工事立会等々の保護措置が必要と判断し、それ以外の範囲については、保護措置は不要と考えるのが妥当と判断した。

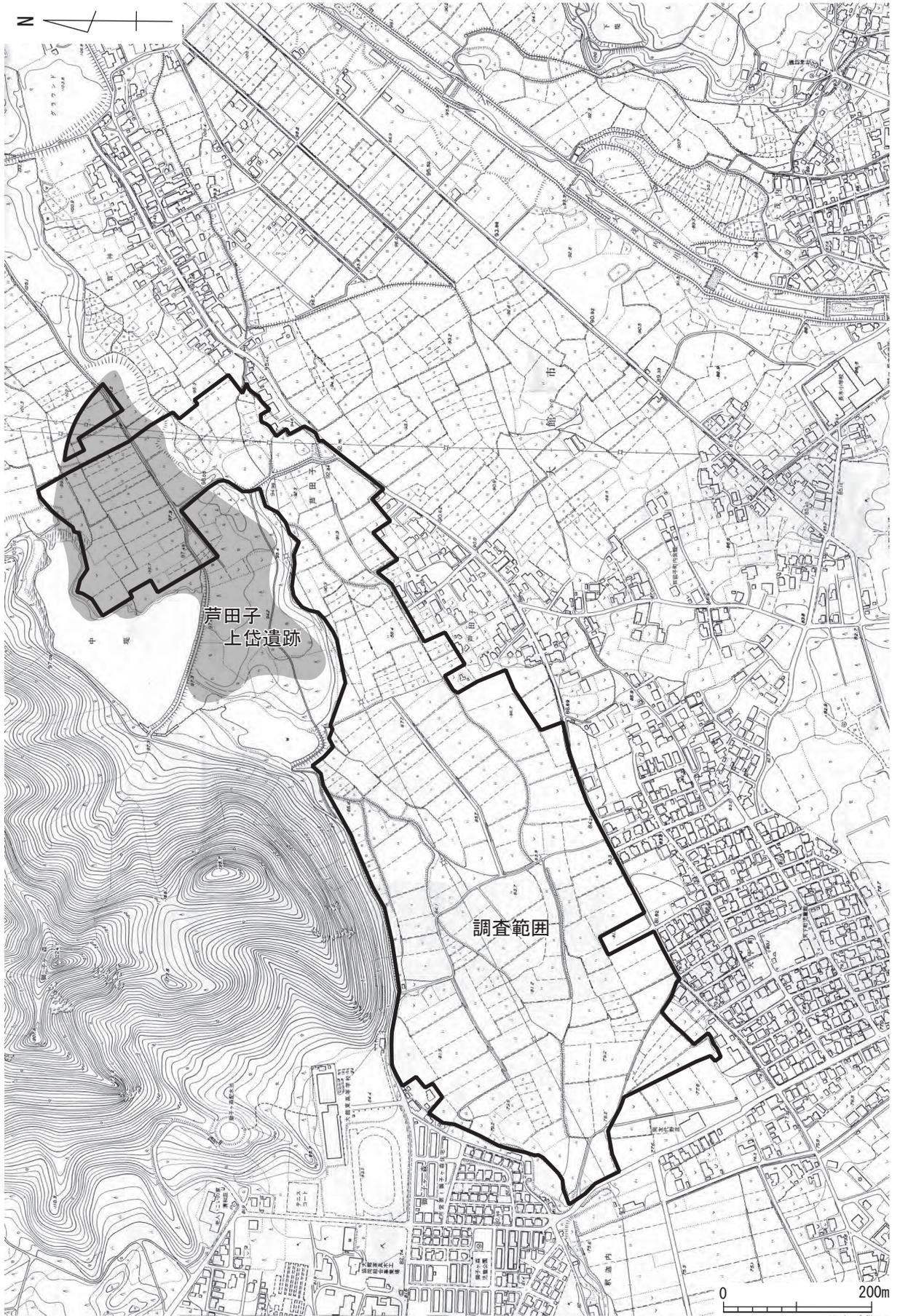


図 16 調査地区と周辺の地形 (1 : 7,500)

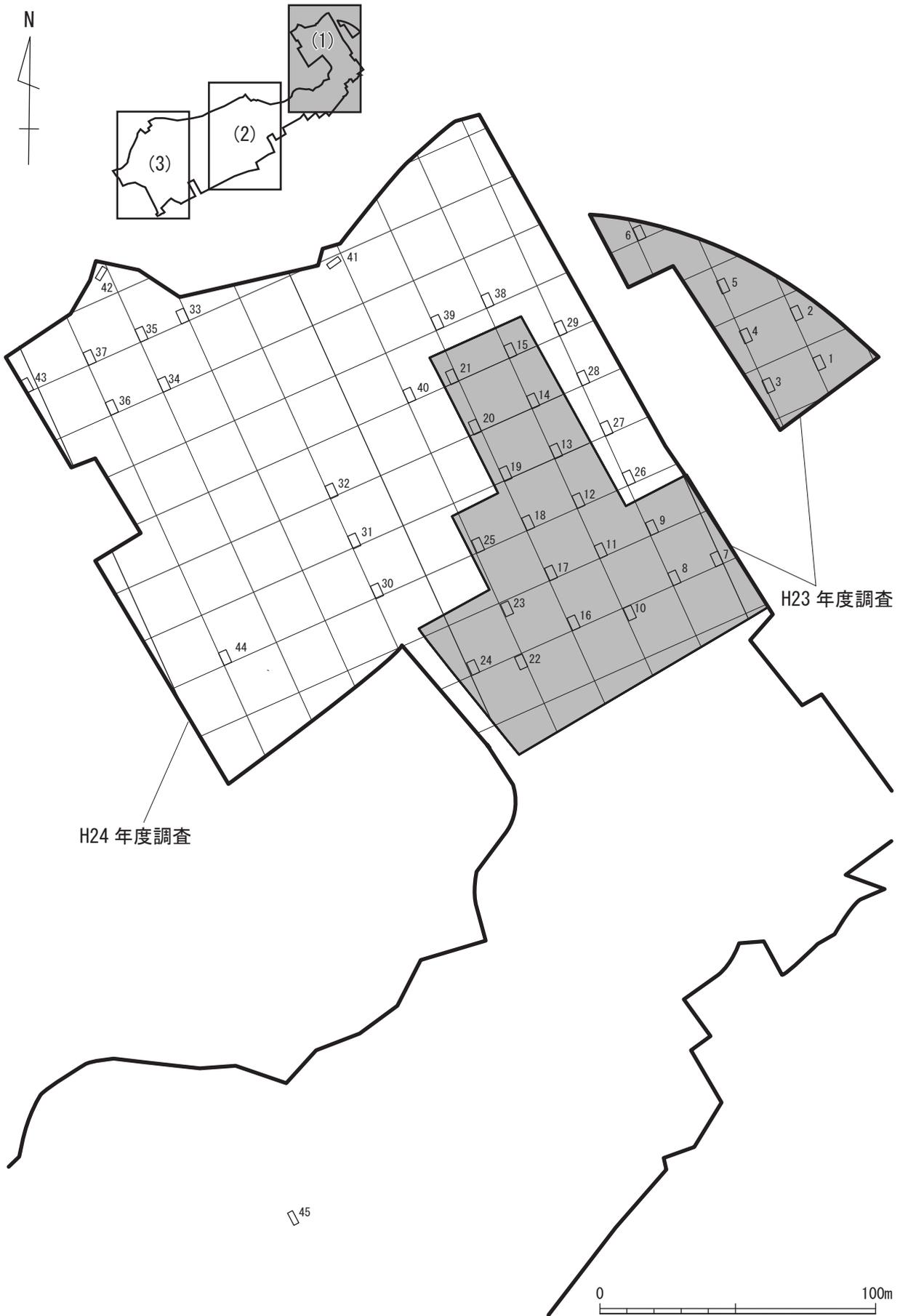


図 17 調査位置図 (1) (1 : 2,000)

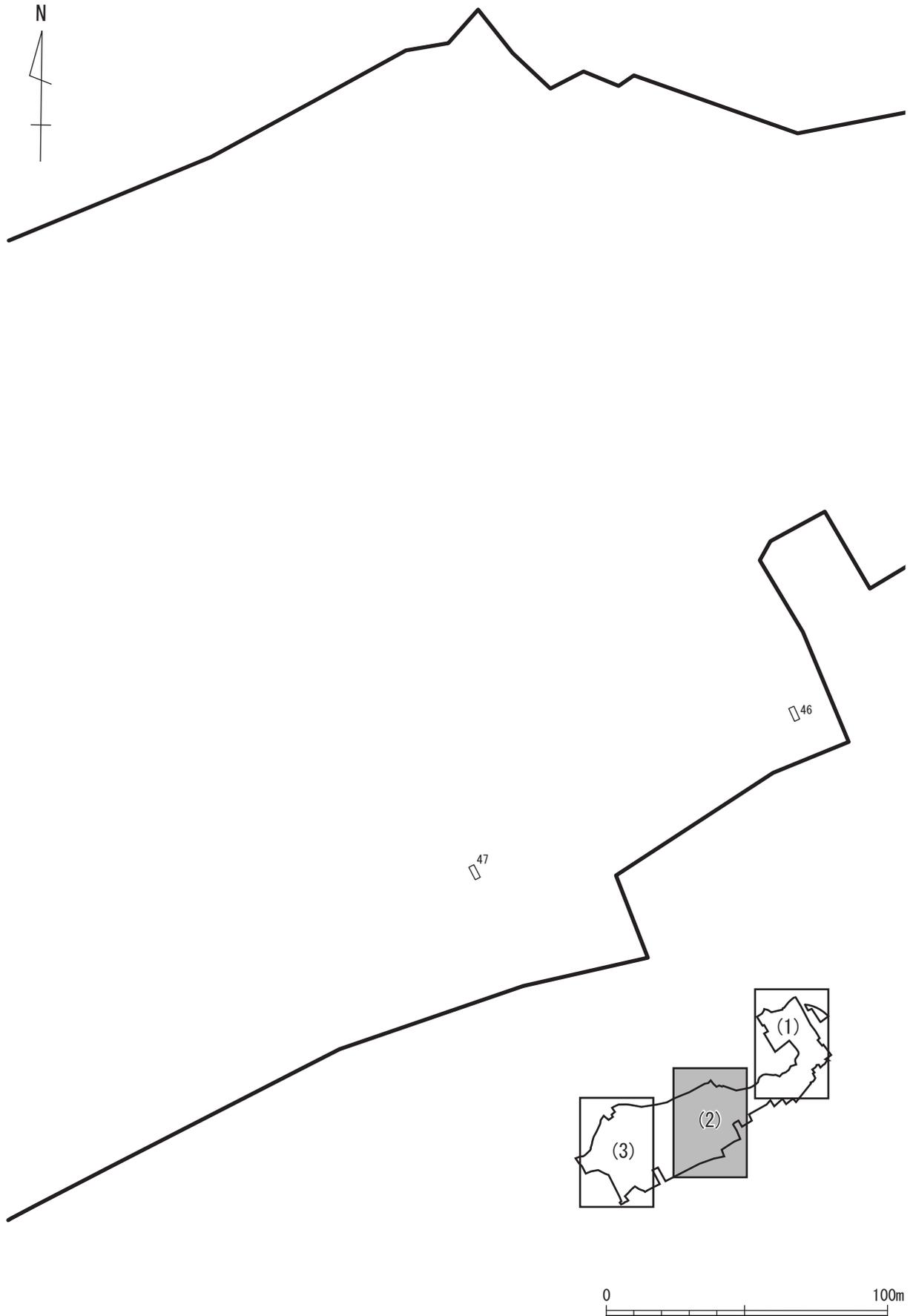


図 18 調査位置図 (2) (1 : 2,000)

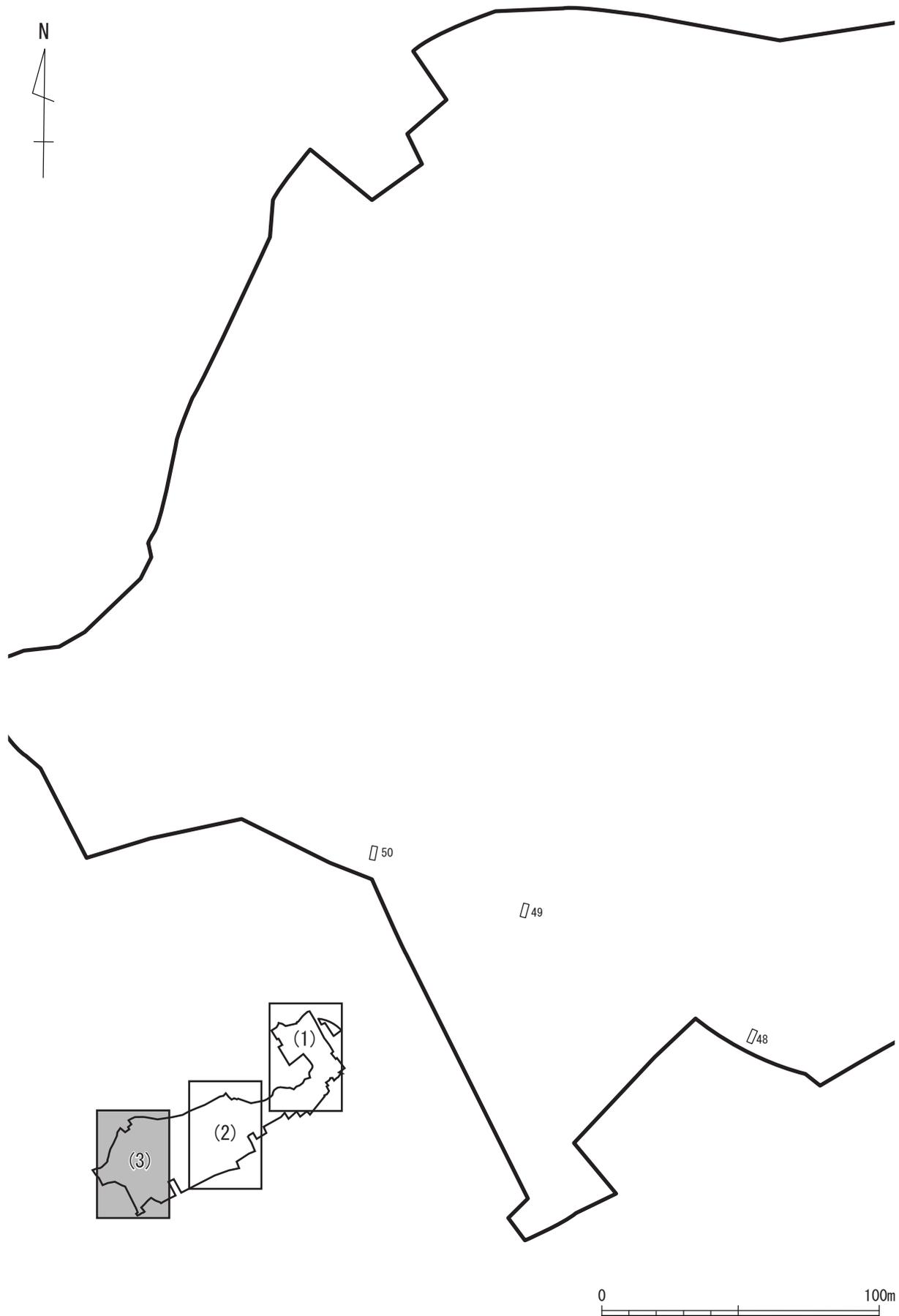


図 19 調査位置図 (3) (1 : 2,000)

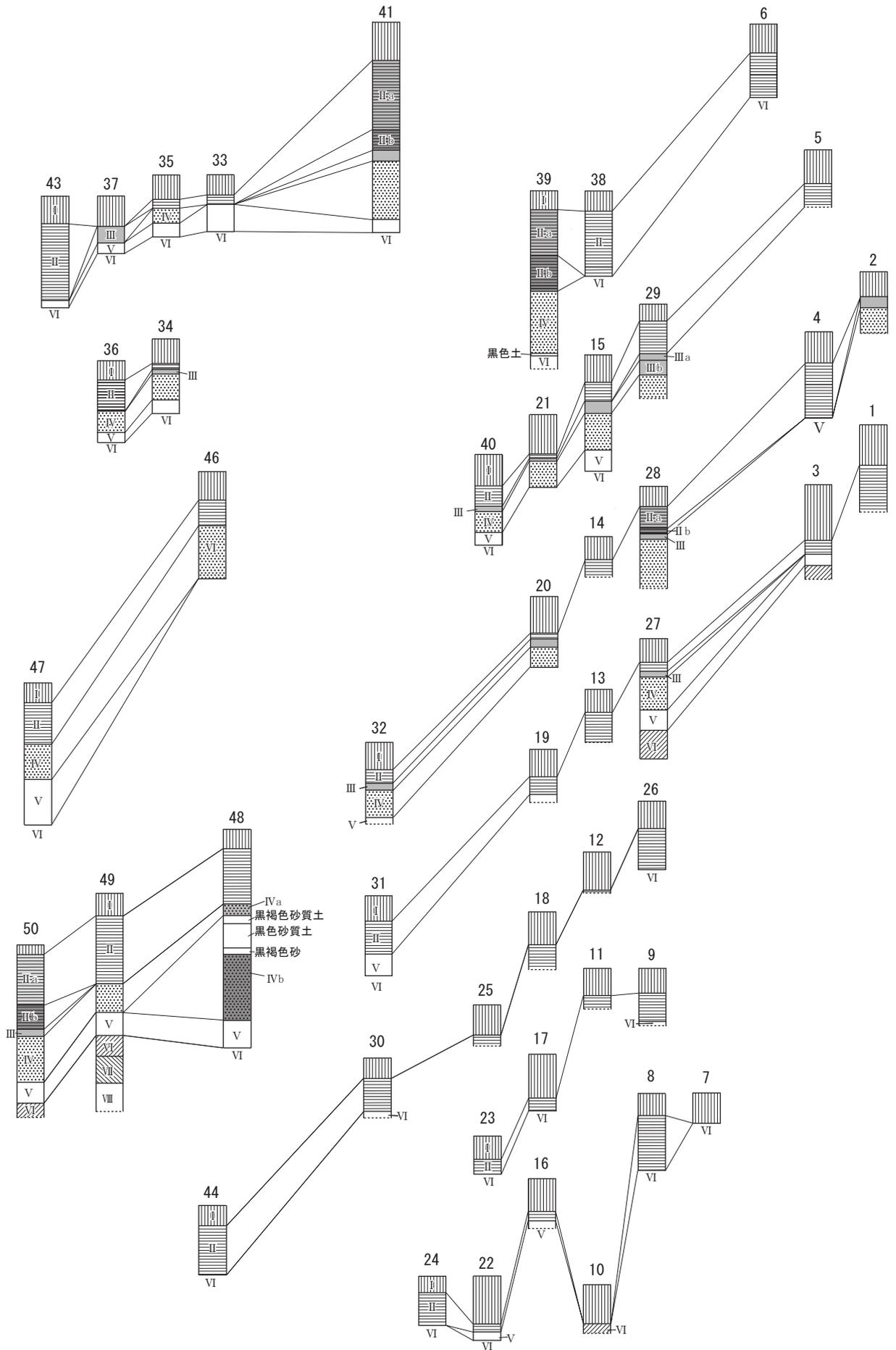


图 20 土層柱状图 (1 : 40)

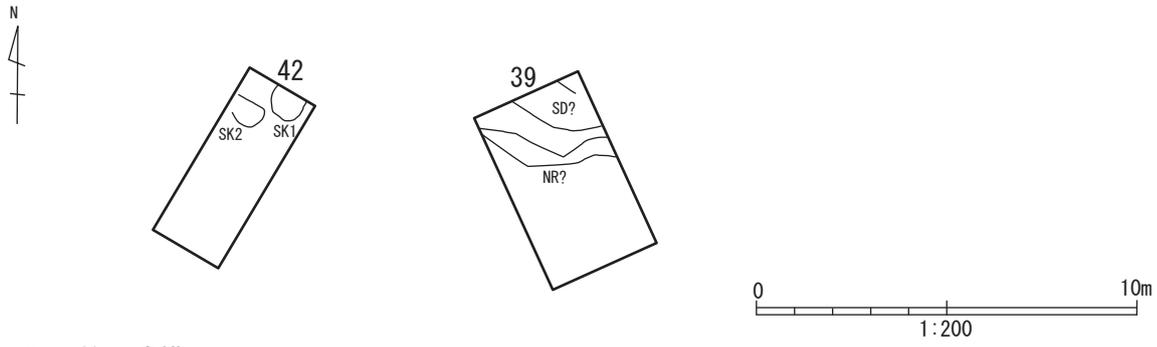
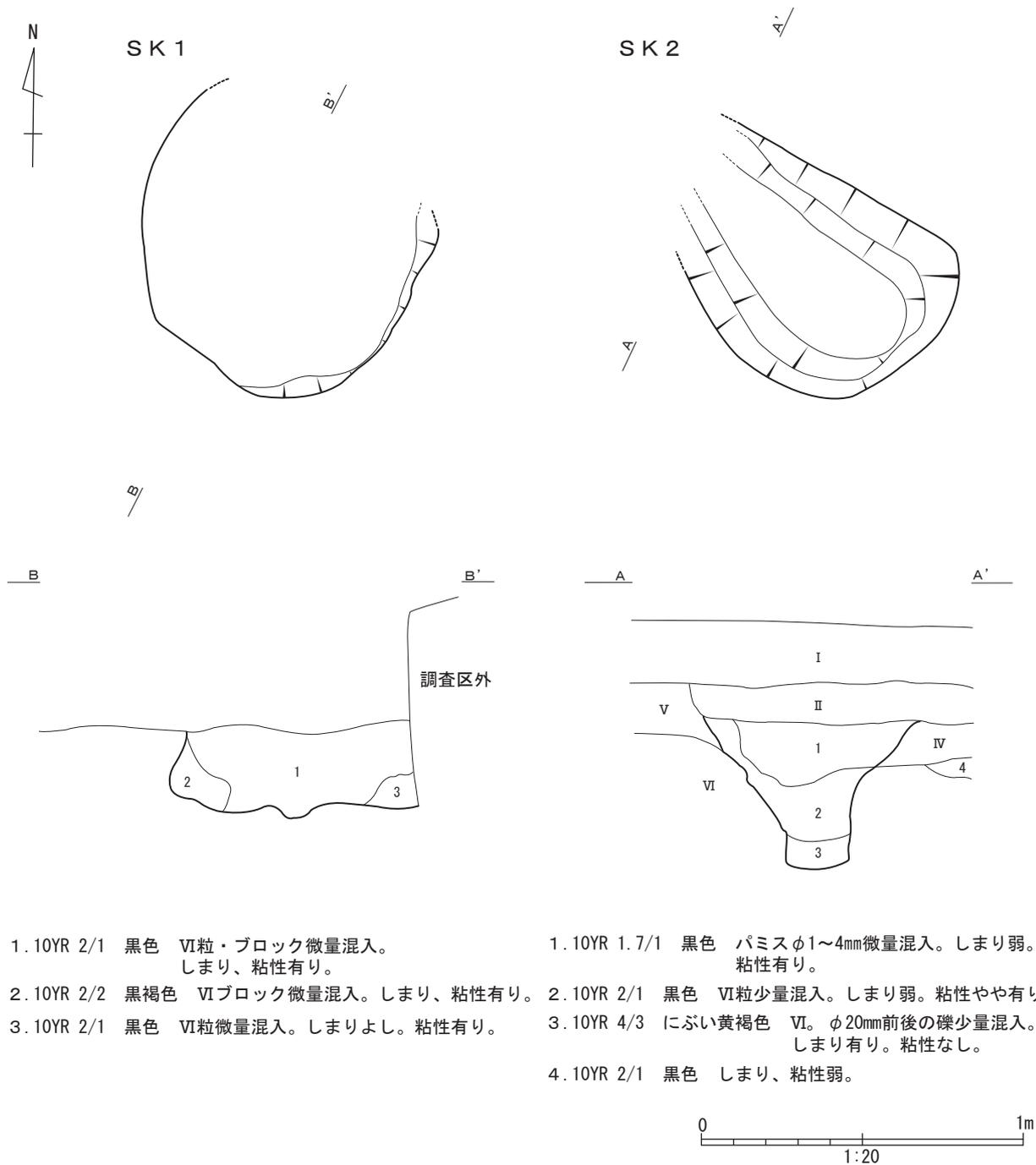


図21 検出遺構図



- |  |   |
|--|---|
| <p>1. 10YR 2/1 黒色 VI粒・ブロック微量混入。しまり、粘性有り。</p> <p>2. 10YR 2/2 黒褐色 VIブロック微量混入。しまり、粘性有り。</p> <p>3. 10YR 2/1 黒色 VI粒微量混入。しまりよし。粘性有り。</p> | <p>1. 10YR 1.7/1 黒色 パミスφ1~4mm微量混入。しまり弱。粘性有り。</p> <p>2. 10YR 2/1 黒色 VI粒少量混入。しまり弱。粘性やや有り。</p> <p>3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 VI。φ20mm前後の礫少量混入。しまり有り。粘性なし。</p> <p>4. 10YR 2/1 黒色 しまり、粘性弱。</p> |
|--|---|

図22 土坑1・2

表2 種別遺構一覧

土坑	溝跡	計
2	2	4

表3 遺構一覧

番号	位置	平面形	規模			長軸 (N-W)
			確認面	底面	深さ	
SK1	TP42	円形?	0.90×-	-	0.28	-
SK2	TP42	長楕円形?	0.72×-	0.34×-	0.44	22°

表4 出土遺物一覧

調査区	分類					P					S					鉄滓	炉壁	羽口	合計
	2	6	7	8	計	1/4	2	3	4	計	1	2	3	4	計				
TP36								1		1								1	
TP37						1		3	2	6								6	
TP38				1	1													1	
TP39								1		1								1	
TP42	1	1			2		3			3								5	
TP43	1				1			1	2	3								4	
TP45				2	2													2	
TP47							1			1								1	
TP48				1	1													1	
表面採集			1		1	1	8	3		12	33	19	7					72	
合計	2	1	1	4	8	2	12	9	4	27	33	19	7					94	



芦田子上岱遺跡近景



調査区近景（遺跡東部）

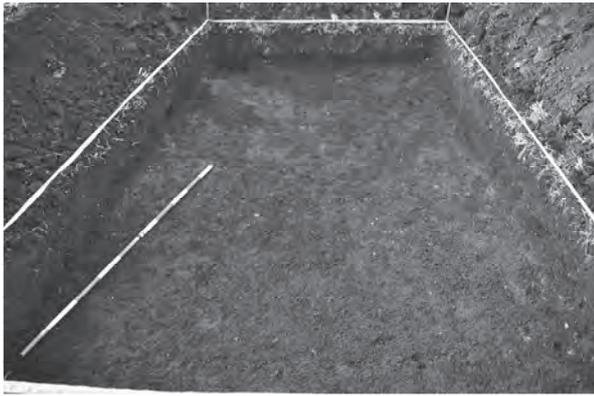


48~50調査区近景



1調査状況

図版6 調査状況(1)



3 調査状況



6 調査状況



7 調査状況



9 調査状況



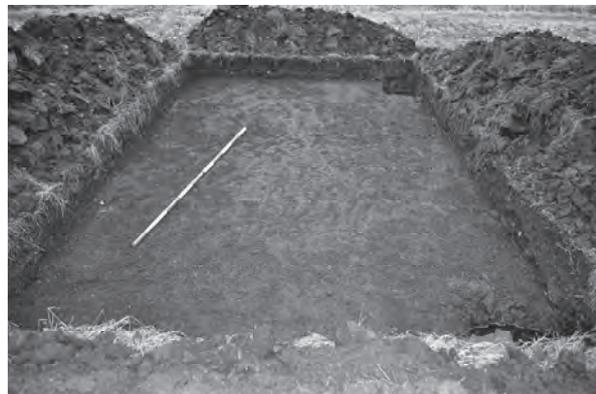
10 調査状況



12 調査状況



14 調査状況



23 調査状況

図版7 調査状況(2)



24調査状況



25調査状況



26調査状況



28調査状況



30調査状況



32調査状況



33調査状況



36調査状況

図版8 調査状況(3)



37調査状況



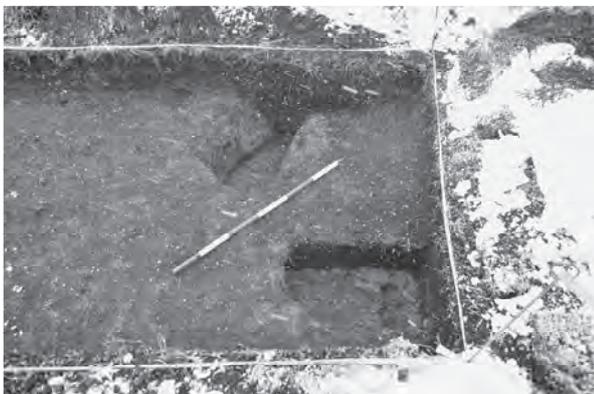
39調査状況



41調査状況



42調査状況



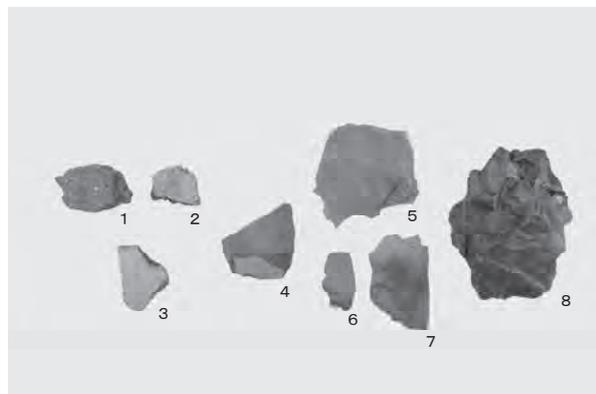
土坑 1・2



44調査状況



48調査状況



出土遺物

図版9 調査状況(4)と出土遺物

## 7 大館野遺跡隣接地（携帯電話無線基地局）

### (1) 調査地の位置と周辺的环境

大館野遺跡は、J R 白沢駅より西へ約 600 m、下内川右岸の広大な台地上に所在する。本遺跡は、古くから知られる縄文～中世の集落跡（秋田県教育委員会登録番号 204-4-5）である。遺跡周辺には、北約 1.6 k m に県指定史跡矢立廃寺跡、西約 0.1 k m に中羽立遺跡、西約 0.5 k m に粕田遺跡、南約 0.8 k m に福館橋桁野遺跡が分布している。

本遺跡は、大館市教育委員会が昭和 62 ～平成元年度に発掘調査を実施している。この調査により、平安時代の竪穴住居跡約 60 軒、掘立柱建物跡 20 棟のほか、土坑、製鉄炉跡などが確認されている。調査地の地番は粕田字筑紫森 10 番 3 で、遺跡南部の隣接地にあたり、標高は海拔 88 m、遺跡との比高差は 10 ～ 12 m である。

### (2) 調査の内容

今回の調査は、携帯電話無線基地局が建設される地区 100 m<sup>2</sup>について実施した。2 m × 5 m のトレンチを設定して調査を実施した。トレンチは、重機にて表土及び黒色土を除去した後、底面と壁面を精査し、埋蔵文化財の有無を調査した。基本層序は基盤をなす褐色粘質土層上に腐植土層が堆積する単純なもので、その上に厚く盛土がなされていた。以下に基本層序を示す。

- I 層 表土。黒色土。
- II 層 盛土。
- III 層 黒色粘質土。旧表土。
- IV 層 黒褐色土。III 層と V 層の漸移層である。
- V 層 褐色粘質土。

### (3) 調査の結果

調査の結果、遺構・遺物は確認されず、調査地内には埋蔵文化財は分布しないと判断された。したがって、保護措置は不要と考えるのが妥当と判断した。



図 23 調査地区と周辺の地形 (1 : 2,500)

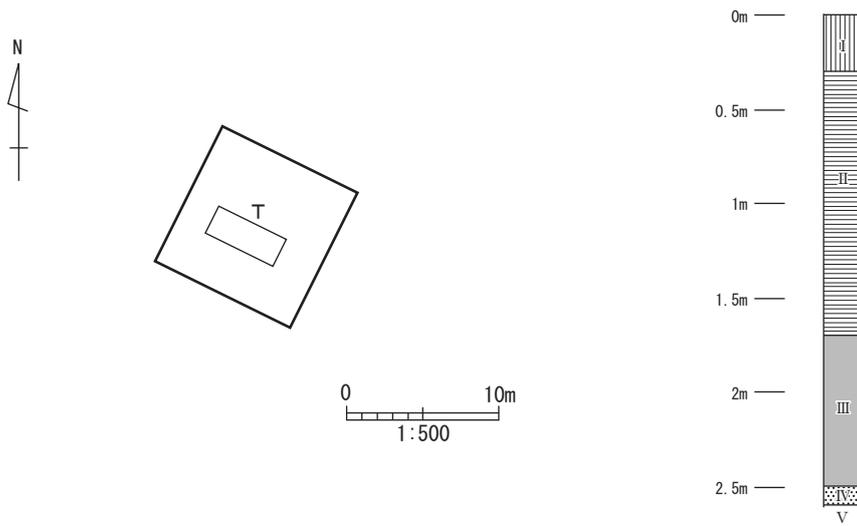


図 24 調査位置図、土層柱状図（1：40）



調査区遠景



調査区近景



調査状況



調査状況

図版10 調査状況

## 8 二井田地区（携帯電話無線基地局）

### (1) 調査地の位置と周辺環境

調査を実施した地区は、JR大館東駅から南西約4.2km、米代川とその支流の犀川が合流する地点の左岸にあたり、標高49mの微高地上に位置する。調査地の地番は二井田字上四羽出3番1で、平成24年度に実施した。大館市内に所在する埋蔵文化財包蔵地のうち、その多くは米代川及びその支流域に分布する。調査地付近にはその川の一つが縦断しており、遺跡の所在する可能性がある地区であることから調査を行った。

### (2) 調査の内容

今回の調査は、携帯電話無線基地局が建設される地区135㎡について実施した。2m×6mのトレンチを設定して調査を実施した。トレンチは、重機にて表土及び黒色土を除去した後、底面と壁面を精査し、埋蔵文化財の有無を調査した。基本層序は基盤層上に表土が堆積する単純なものである。以下に基本層序を示す。

I層 表土及び耕作土。

II層 褐色～にぶい黄褐色火山灰層。

重機によりII層を150cm下まで確認したが、同一の火山灰層が厚く堆積していた。

### (3) 調査の結果

調査の結果、遺構・遺物は確認されず、調査地内の大半は、土地改良、耕作等による削平がII層まで達していた。以上のように地形・土層等からみて、今回の調査対象地内には埋蔵文化財が存在する可能性は低く、保護措置は不要と考えるのが妥当と判断した。

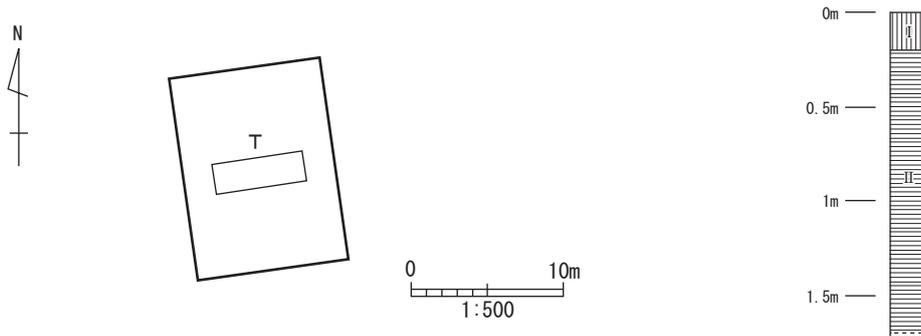


図25 調査位置図、土層柱状図（1：40）



調査区近景



調査状況



調査状況

図版11 調査状況



図 26 調査地区と周辺の地形 (1 : 2,500)

## 9 雪沢地区②（消防救急デジタル無線整備事業）

### (1) 調査地の位置と周辺環境

調査を実施した地区は、JR大館駅から東へ約10km、大館市の北東部に位置し、米代川支流の長木川上流部の右岸丘陵地に立地し、標高は海拔336mである。調査地の地番は雪沢字小滝沢13番1で、平成24年度に実施した。大館市内の遺跡の多くは丘陵を開析する沢の流域に分布する。調査地付近にはその沢の一つが横断しており、遺跡の所在する可能性がある地区であることから調査を行った。

### (2) 調査の内容

今回の調査は、デジタル無線基地局が建設される地区120㎡について実施した。2m×6mのトレンチを設定して調査を実施した。トレンチは、重機にて表土及び黒色土を除去した後、底面と壁面を精査し、埋蔵文化財の有無を調査した。基本層序は基盤をなす褐色粘質土層上に盛土が堆積する単純なものである。以下に基本層序を示す。

- I層 盛土。
- II層 褐色粘質土。

### (3) 調査の結果

調査の結果、遺構・遺物は確認されず、調査地は過去の土地造成による削平を受けていると考えられる。以上のように地形・土層等からみて、今回の調査対象地内には埋蔵文化財が存在する可能性は低く、保護措置は不要と考えるのが妥当と判断した。

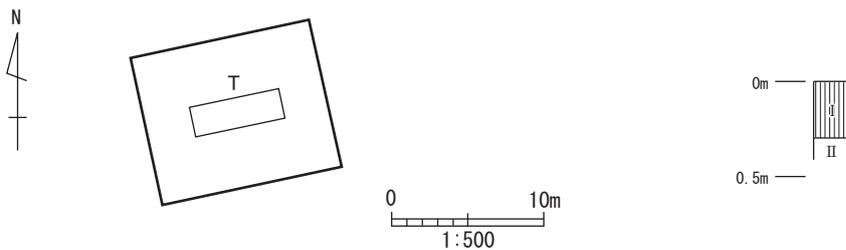


図27 調査位置図、土層柱状図（1：40）



調査区近景

調査状況

調査状況

図版12 調査状況

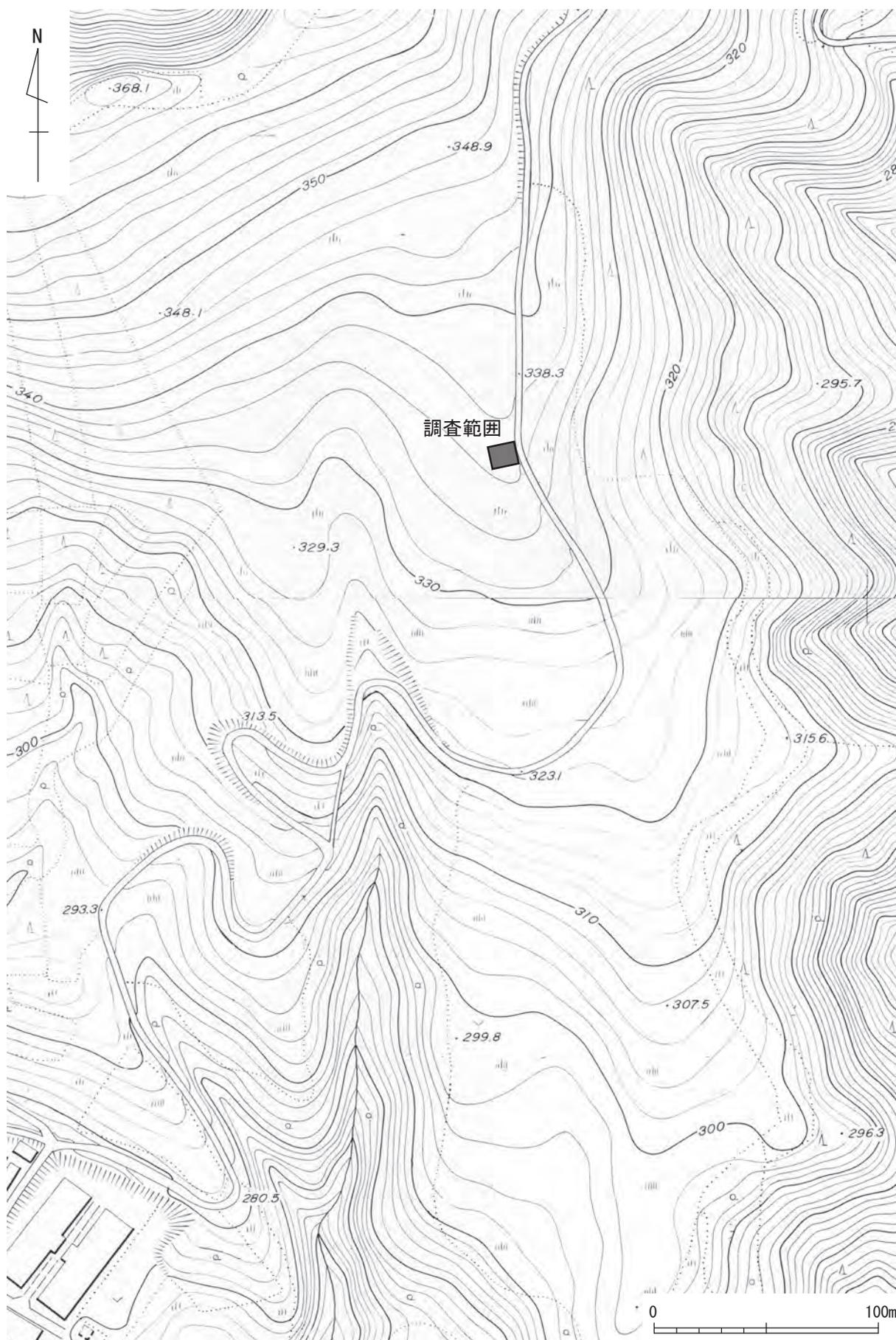


図 28 調査地区と周辺の地形 (1 : 2,500)

## 10 福館橋桁野遺跡隣接地（市道整備）

### (1) 遺跡の位置と周辺的环境

福館橋桁野遺跡は、下内川左岸台地上に所在する。本遺跡は、古くから知られる縄文～平安時代の集落跡及び遺物包含地（秋田県教育委員会登録番号 204-4-13）である。調査地の位置は遺跡南部の隣接地にあたり、標高は海拔 89 m である。本遺跡は、奥山潤氏が昭和 43・44 年度に一部発掘調査を行い、昭和 47 年度には、大館市史編さん事業として、発掘調査を実施している。この調査により、縄文前期～平安時代にかけての複合遺跡であることが明らかにされている。

福館橋桁野遺跡の周辺には、北約 1 km に大館野遺跡、北西隣に福館跡、東約 0.5 km に橋桁遺跡、南東約 0.7 km に国天然記念物芝谷地湿原植物群落、南西約 0.5 km に福館Ⅱ遺跡、南西約 1.2 km にはニッ森遺跡が分布している。

### (2) 調査の内容

今回の調査は、市道が建設される地区 3,995 m<sup>2</sup> について実施した。調査対象範囲内の路線センターラインを基準とし、20 m 毎に 2 m × 5 m のトレンチ（以下「TR」）を 15 本設定して調査した。TR は、重機にて表土及び黒色土を除去した後、底面と壁面を精査し、埋蔵文化財の有無を調査した。基本層序は基盤をなす褐色粘質土層上に腐植土層が堆積する単純なものである。以下に基本層序を示す。

I 層 表土及び耕作土。

II 層 黒色の色調を示す土層である。一部の箇所では a・b 層に細分される。

II a 層 黒色の色調を示す土層。

II b 層 黒色の色調を示す土層。小礫が少し混じる。

III 層 黒～暗褐色の色調を示す土層。II 層と IV 層の漸移層である。

IV 層 褐色の色調を示す粘質土層。

一部では削平により腐植土層が存在しない箇所もあった。また、荒蕪地となっていた TR 1～5 を設定した地区では、過去に廃土受け入れ場であったようで、盛土が厚く TR 2、4、5 で約 5 m まで掘削したが、IV 層を確認できなかった。

調査の結果、遺構は、検出されなかった。遺物は、TR 8 III 層より土師器片が 1 点（図版 14-1）確認されただけである。

なお、TR 6～8 を設定した畑の主に北側から、縄文土器片 10 点、土師器片 4 点、スクレイパー 2 点、部分的に刃部を持つ剥片 5 点、剥片 16 点、礫 3 点の計 40 点が表面採集された。

### (3) 調査の結果

今回の調査は、平成 24 年度に福館橋桁野遺跡の南側隣接地について実施した。しかし、上述のとおり、遺構は検出されず、遺物も 1 点のみ確認されただけであったので、調査地内が遺跡のエリアに入るとは考えがたい。したがって、今回の調査対象地内には遺跡が存在する可能性は低く、本発掘調査は不要と判断した。



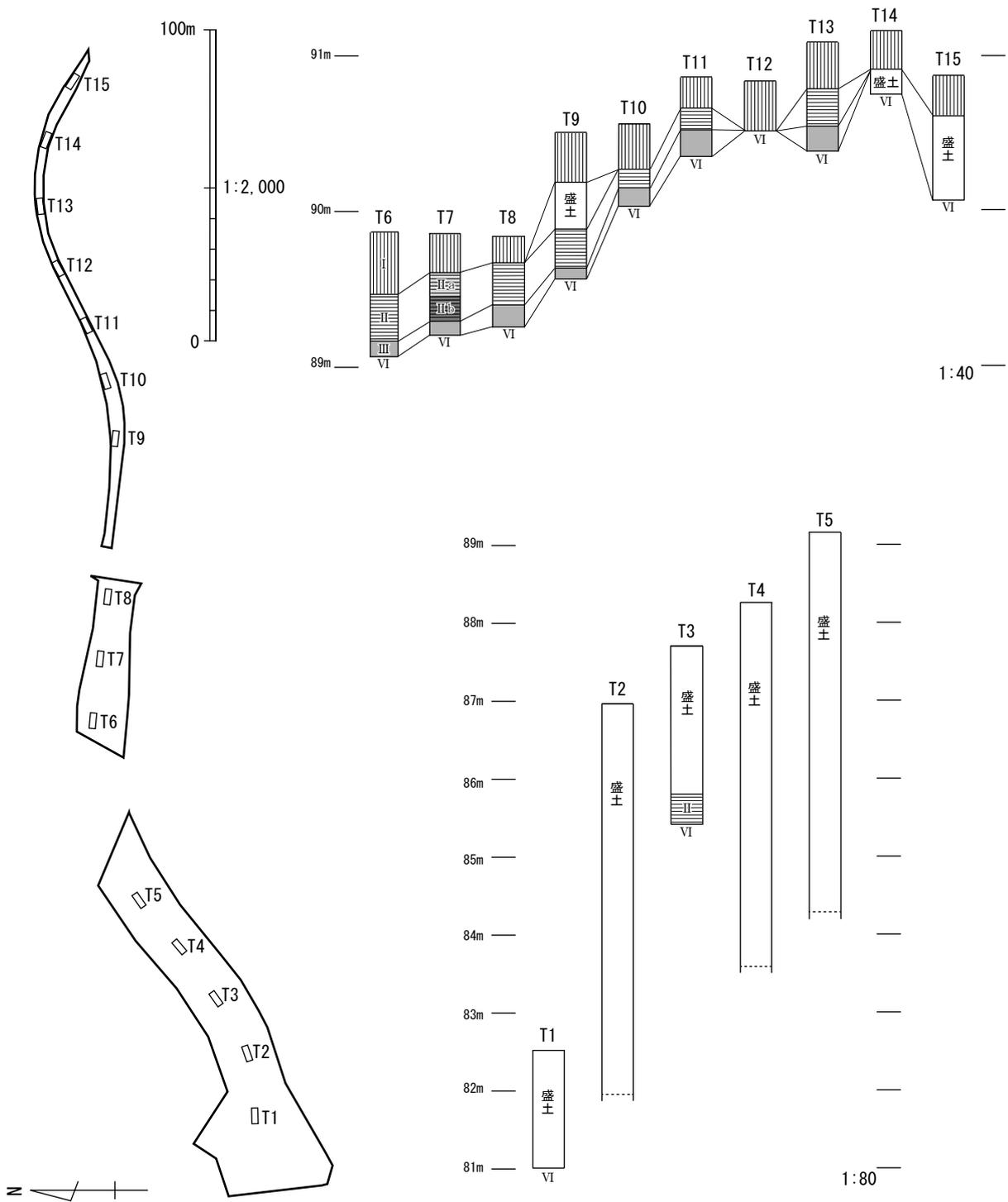


図30 調査位置図、土層柱状図（1：40・1：80）

表5 出土遺物一覧

調査区	分類					P					S			合計
	2	3	5	7	計	1		2	4	計				
						3	4							
TR 8				1	1								1	
表面採集	5	1	4	4	14	2	5	16	3	26	40			
合計	5	1	4	5	15	2	5	16	3	26	41			



T 2～5 調査区近景



T 6～8 調査区近景



T 9～15 調査区近景



T 1 調査状況



T 2 調査状況



T 3 調査状況



T 5 調査状況

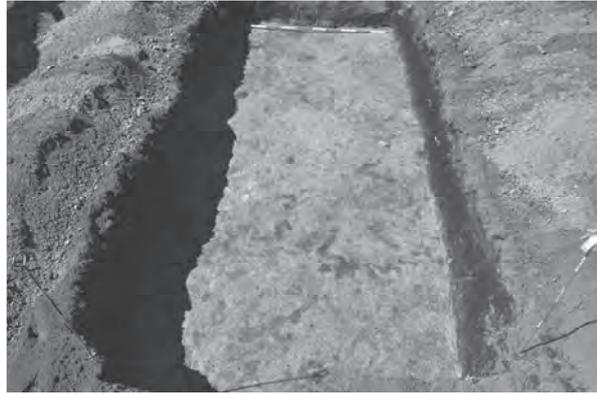


T 6 調査状況

図版13 調査状況(1)



T 7 調査状況



T 8 調査状況



T 9 調査状況



T 11 調査状況



T 12 調査状況



T 13 調査状況



T 15 調査状況



出土遺物

図版14 調査状況(2)と出土遺物

## 第3章 比内地区の調査

### 1 味噌内地区（公共下水道）

#### (1) 調査地の位置と周辺環境

調査を実施した地区は、JR扇田駅より南東へ約4km、大館市南東部の標高96～102mの段丘上に位置する。本地区は、大館盆地の南東部を開析する味噌内川の下流域にあたる。本地区の周辺には、東約1.1kmに只越下遺跡、北西約1kmのところに味噌内遺跡と宿内中岱遺跡、西約0.5kmに味噌内館下遺跡が分布する。したがって、遺跡の所在する可能性がある地区であることから平成23年度に調査を行った。

#### (2) 調査の内容

今回の調査は、下水道工事が行われる地区393㎡について実施した。調査区内に、40～80m毎に0.6～1.5m×1.5mのテストピットを設定して調査を実施した。テストピットは、重機を用いて盛土及び黒色土を除去した後、人力にて底面と壁面を精査し、埋蔵文化財の有無等を調査した。調査地内の基本層序は、基盤をなす黄褐色～灰黄褐色砂質土層上に腐植土層が堆積する単純なものである。以下に基本層序を示す。

- I層 黒色の色調を示す腐植土層である。
- II層 黒褐色の色調を示す腐植土層である。
- III層 暗褐色の色調を示す土層。II層とIV層の漸移層である。
- IV層 黄褐色砂質土層。
- V層 灰黄褐色砂質土層。

調査の結果、テストピット1・5で腐植土層が良好に確認されたほかは、基盤層より上の層は残存していなかった。遺構、遺物は確認されなかった。

#### (3) 調査の結果

調査地内は、黒色腐植土が残存するものの、遺構・遺物は確認されなかった。以上の結果から、調査地内には、埋蔵文化財は分布しないため、本調査は不要と判断した。

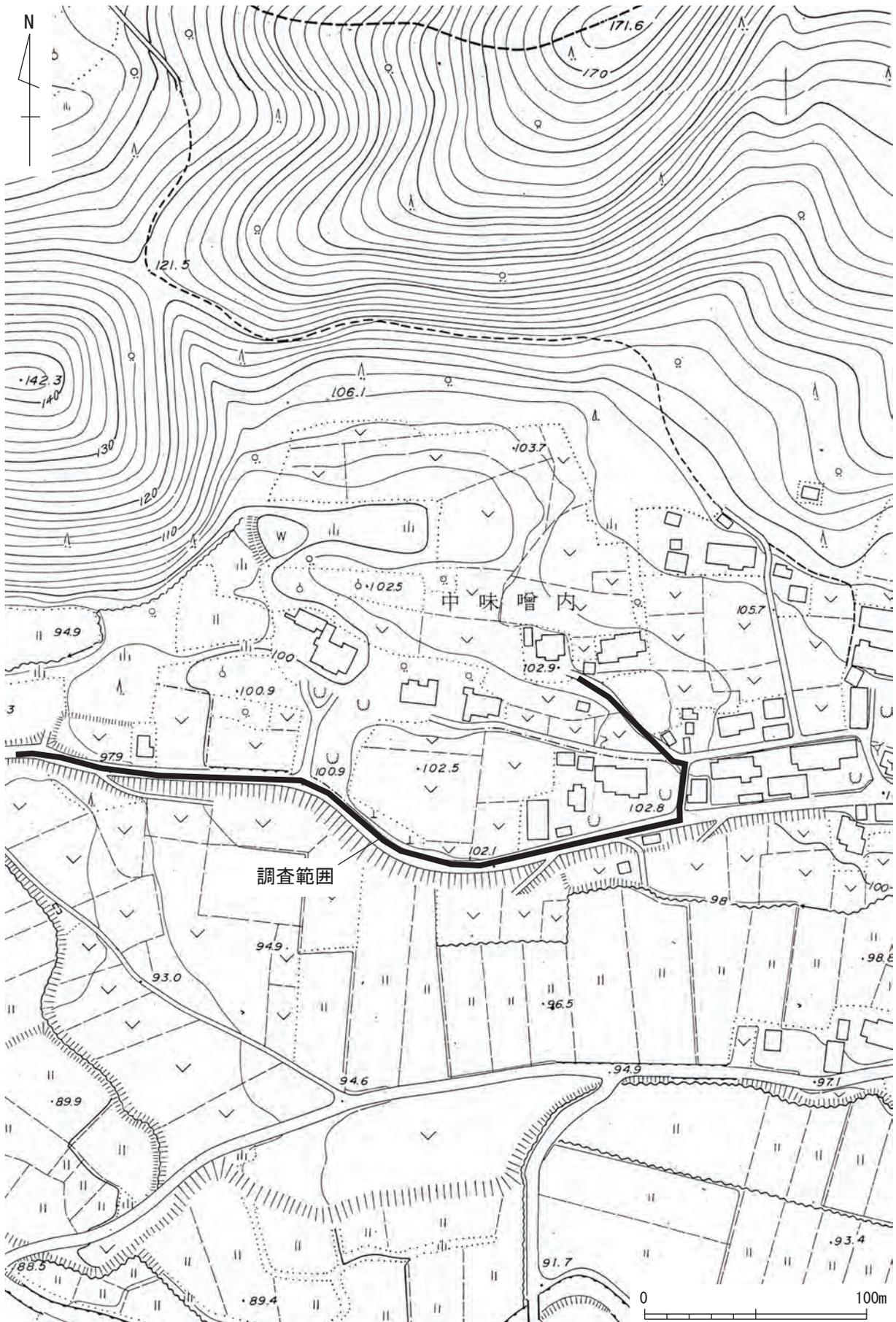


図31 調査地区と周辺の地形 (1 : 2,500)

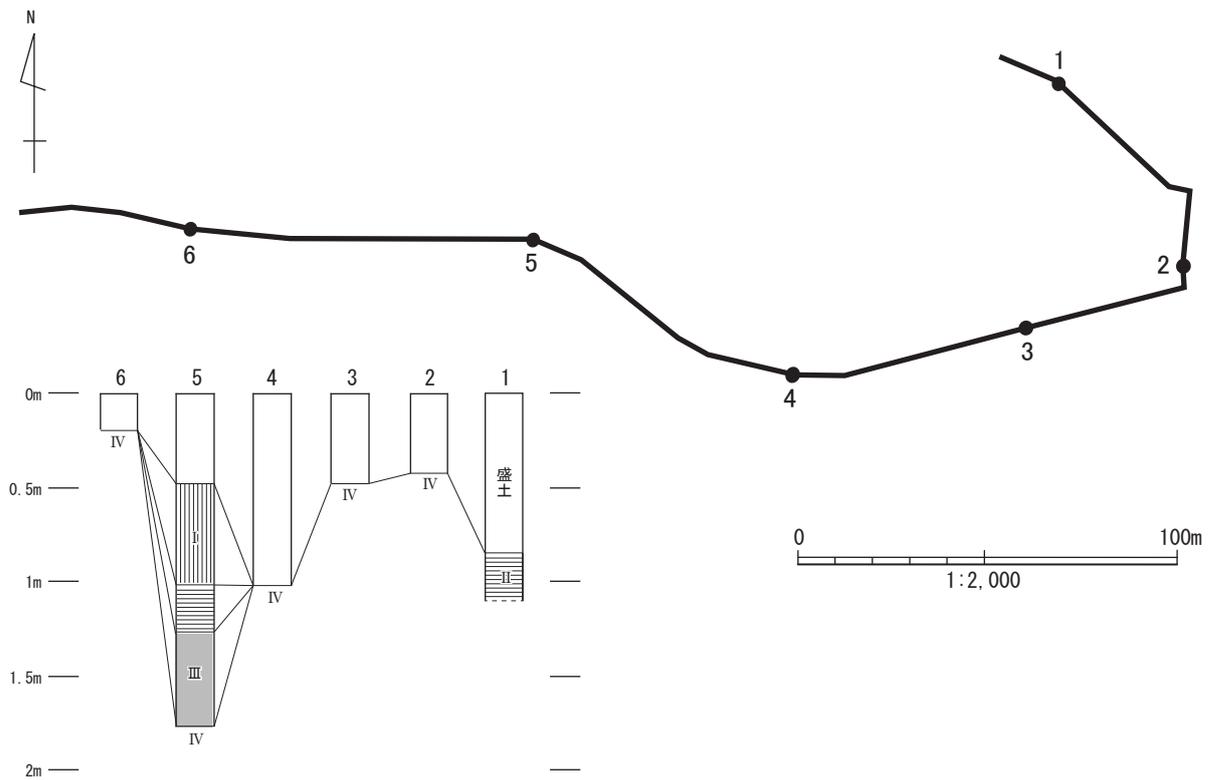


図 32 調査位置図、土層柱状図（1 : 40）



調査区近景



調査区近景



3 調査状況



5 調査状況

図版15 調査状況

## 2 鎌谷地沢遺跡（鶏糞処理施設建設）

### (1) 遺跡の位置と周辺環境

調査を実施した地区は、大館市域の南西部に位置し、二井田工業団地から南に約2.5 km、引欠川とその支流板戸川との間に形成された広大な台地上に立地し、北と南に小沢があり西側に張り出した舌状地形で、標高は海拔80 mである。調査地の地番は比内町八木橋字鎌谷地沢26番29で、平成23年度に実施した。

調査地と同台地上の引欠川左岸には、北約2.2～2.5 kmに二ツ森・二ツ森Ⅱの2遺跡が、南東約0.5 kmには細越遺跡が分布する。したがって、遺跡の所在する可能性がある地区であることから調査を行った。

### (2) 調査の内容

今回の調査は、開発予定地区約4,000 m<sup>2</sup>について実施した。調査対象範囲内に2.2～2.8 m×7～10 mのトレンチ（以下「TR」）を13本設定し重機により盛土及び黒色土を除去した後、人力にて底面と壁面を精査し、埋蔵文化財の有無等を調査した。

また、2 m×2～4 mのテストピット（以下「TP」）を13箇所設定し、人力により盛土及び黒色土を除去した後、同様に調査した。なお、必要に応じてTR及びTPの拡張を人力にて行った。遺跡内の基本層序は、杉の植林の際かその前の畑の頃か不明だが、造成によりⅢ層面まで削平されており、Ⅱ層はごく一部にしか確認されなかった。また、一部では地山面であるⅣ層まで削平が及んでいた。以下に基本層序を示す。

I層 表土。黒色土。

Ⅱ層 黒色土。

Ⅲ層 黒～暗褐色土。Ⅱ層とⅣ層の漸移層である。

Ⅳ層 黄褐色粘質土。

調査の結果、遺物は出土しなかったが、遺構はTR 5から落し穴状遺構1基が確認された。そのため、検出された遺構の可能性のある黒色土落込みは、TR 3からTR 10までは、半截して詳細な調査を行ったが、TR 11以降は検出にとどめた。検出された遺構及び遺構の可能性のある黒色土落込みは、以下のとおりである。

TR 5：落し穴状遺構1基

TR 10：土坑1基、黒色土落込み4箇所

TR 12：黒色土落込み6箇所

TP 15：焼土1箇所、黒色土落込み1箇所

TP 17：黒色土落込み2箇所

TR 9：土坑1基、柱穴様ピット1基

TR 11：黒色土落込み1箇所

TP 14：柱穴様ピット1基

TP 16：黒色土落込み2箇所

TP 21：黒色土落込み1箇所

### (3) 遺構



図33 調査地区と周辺の地形 (1:2,500)

落とし穴状遺構 1 (図 36)

**遺構** TR 5を調査中に黒色土の落込みを一部発見し、トレンチを拡張して全体形を確認した。平面形は長楕円形を呈する。確認面での規模は2.54 m×0.62 m、深さ0.96 mほどである。遺物は出土しなかった。

**覆土** 上部は黒色土に粒状のロームなどが混じる。下部はIV層主体で黒色土が粒状に混じる。

(4) 調査の結果

今回の調査により、縄文時代の遺構が検出されたことから、新規の遺跡として周知資料に登載することとした。新規に登載した遺跡の概要は、以下のとおりである。

- 遺跡の名称 鎌谷地沢遺跡
- 登載番号 204-12-50
- 種別 狩猟場
- 時代 縄文時代
- 所在地 比内町八木橋字鎌谷地沢 26-9 ほか
- 推定面積 約6,500 m<sup>2</sup>
- 標高 78～80 m
- 遺跡の現状 山林

調査の結果、分布密度は薄いものの、遺構が検出され、遺跡の存在が確認されたことから、開発を行う場合には事前に発掘調査が必要であると判断した。

なお、平成24年4月25日から8月8日まで原因者の協力のもと、発掘調査を実施した。

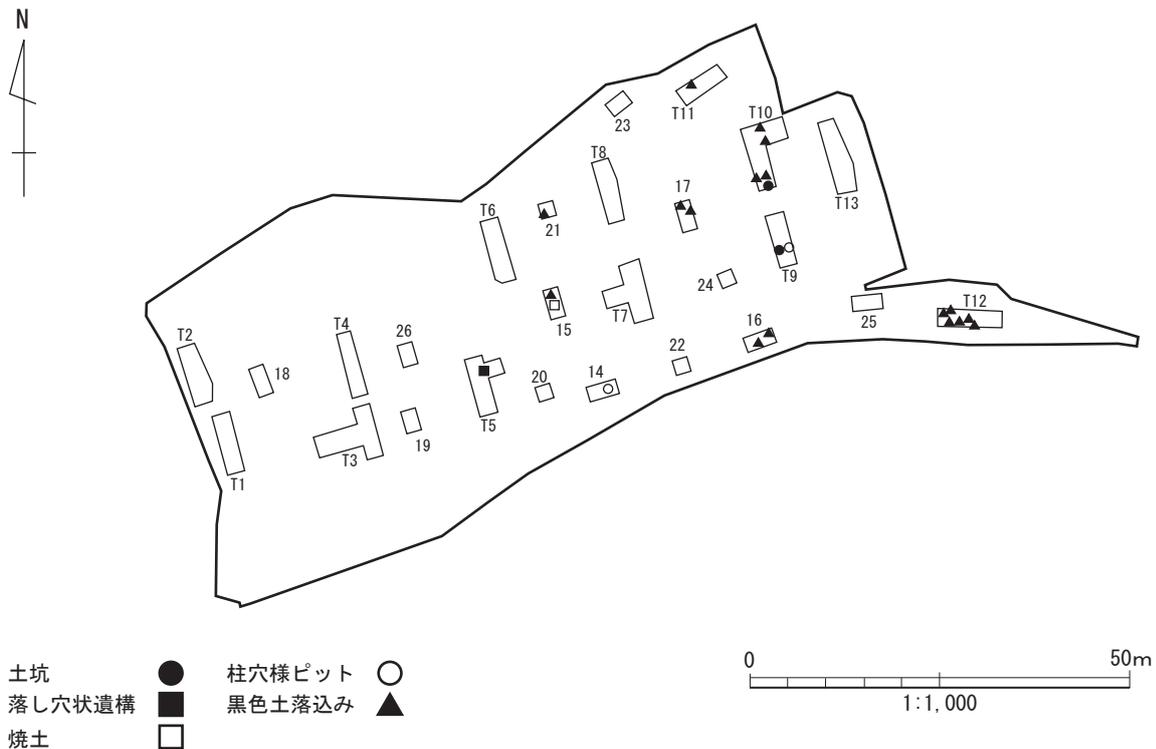


図34 調査位置図

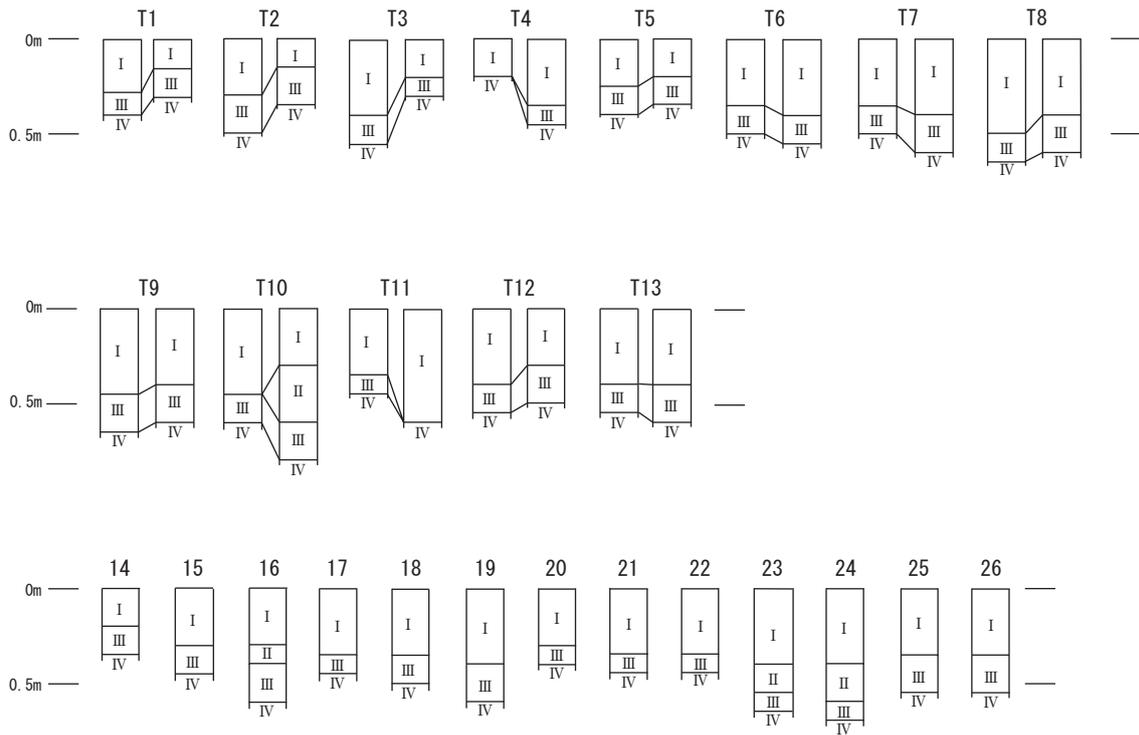


図35 土層柱状図 (1 : 40)

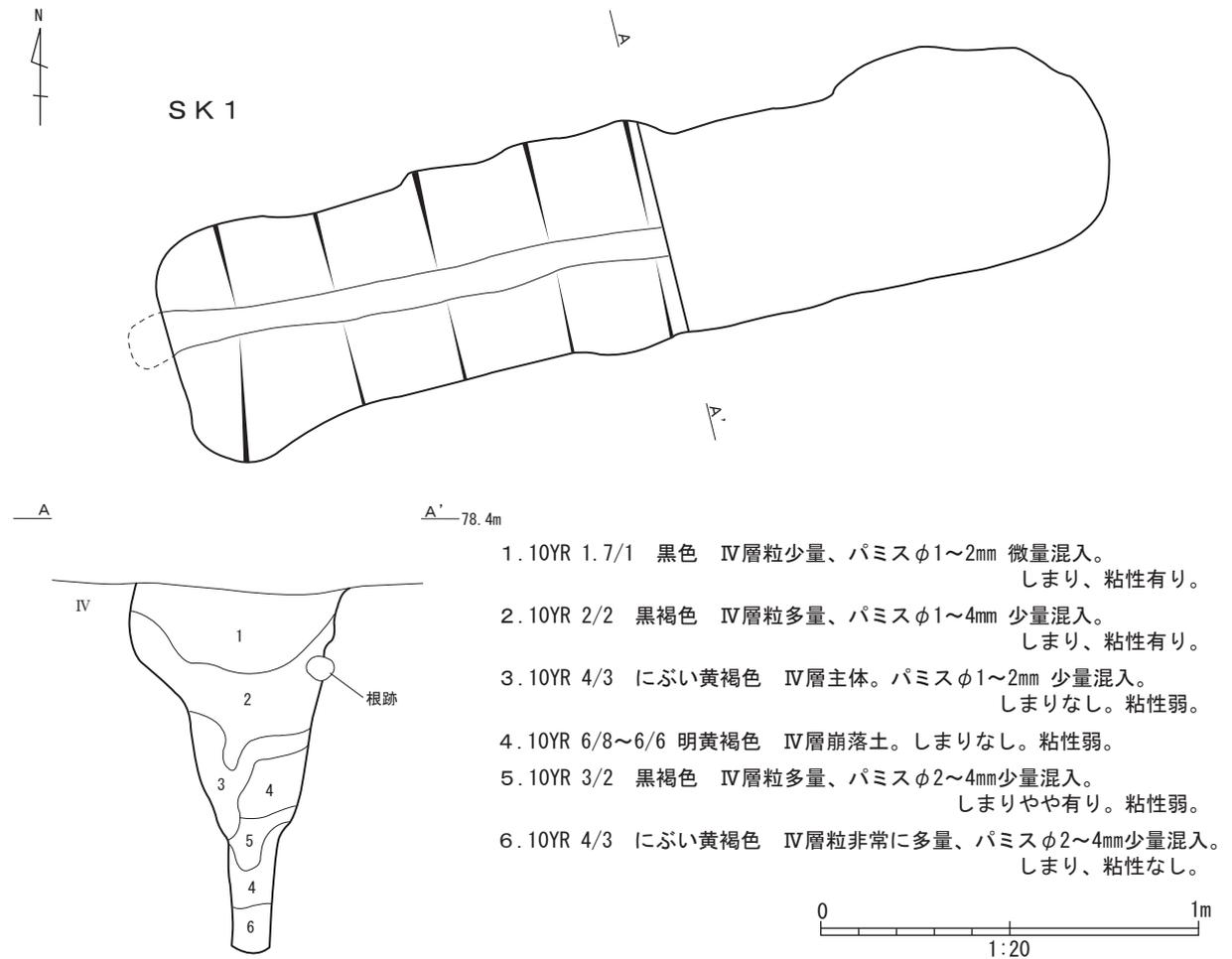


図36 落とし穴状遺構 1

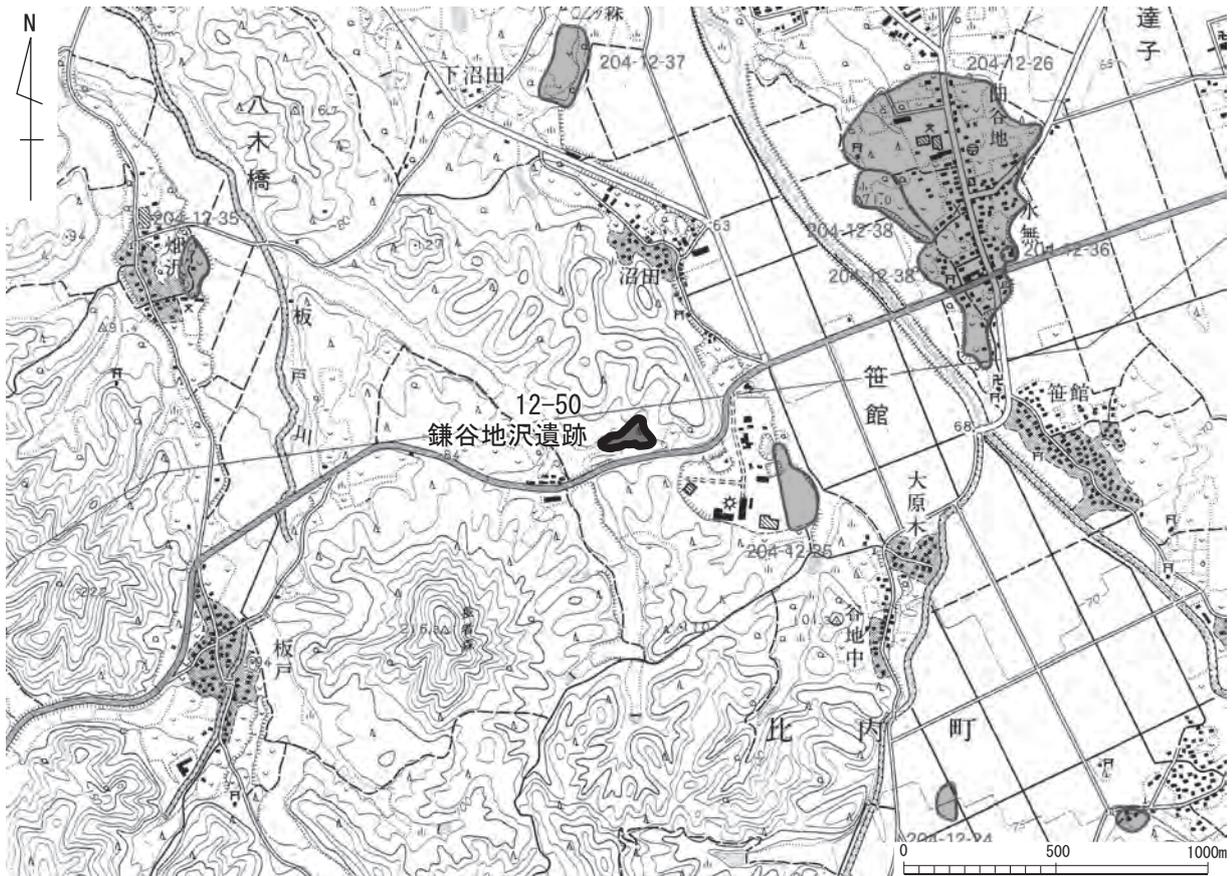


図37 鎌谷地沢遺跡の位置 (1 : 25,000)



図38 鎌谷地沢遺跡と周辺の地形 (1 : 2,500)

表6 種別遺構一覧

土坑	柱穴	焼土	その他	計
3	2	1	17	23

表7 遺構一覧

番号	位置	平面形	規模			長軸 (N-W)
			確認面	底面	深さ	
SK1	TR5	長楕円形	2.54×0.62	0.1×-	0.96	103°



調査区近景



調査区近景



T1 調査状況



T5 調査状況



落とし穴状遺構1検出状況

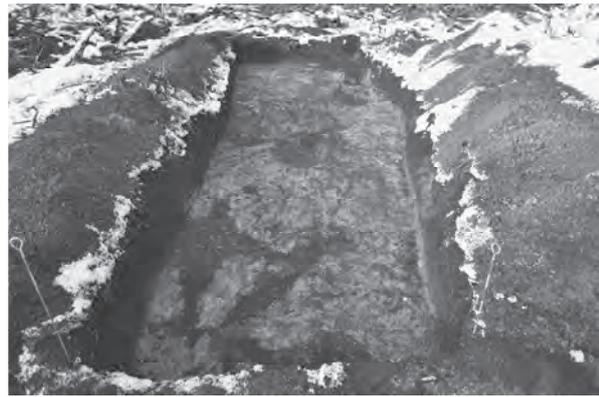


落とし穴状遺構1調査状況

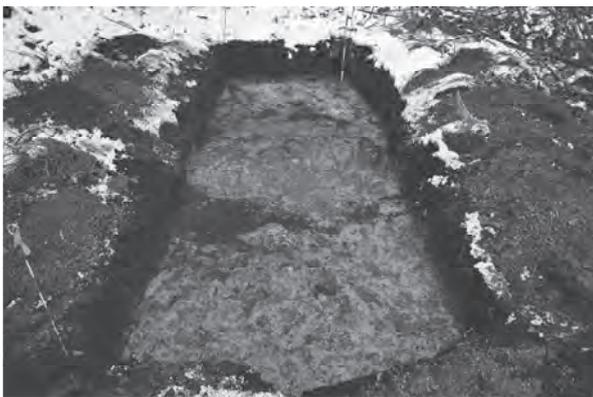
図版16 調査状況(1)



T 9 調査状況



T 10 調査状況



T 11 調査状況



T 12 調査状況



14 調査状況



15 調査状況



16 調査状況



17 調査状況

図版17 調査状況(2)

### 3 真館Ⅱ遺跡（福祉施設建設）

#### (1) 遺跡の位置と周辺環境

調査を実施した地区は、JR扇田駅より南東へ約2km、大館盆地南東部の台地上に位置する。本地区は、大館盆地の南東部を開析する犀川の下流域にあたる。本地区の周辺には、東約0.7kmに袖ノ沢遺跡と横沢遺跡、横沢Ⅱ遺跡、北東約0.6kmのところ到大岱遺跡、北約0.6kmのところ長岡城跡、南西約0.4kmに真館跡が分布する。

調査地の地番は比内町新館字真館22番ほかで、位置は北緯40度12分54秒、東経140度35分9秒、標高は海拔72～75mである。

#### (2) 調査の内容

今回の調査は、施設建設が計画されている対象地9,900㎡について実施した。調査対象地に、おおむね東西南北方向に20m毎に3m×5mのテストピット（以下「TP」）を設定して調査を実施した。TPは、重機を用いて表土及び黒色土を除去した後、人力にて底面と壁面を精査し、埋蔵文化財の有無等を調査した。調査地内の基本層序は、基盤をなす黄褐色粘土層上に黒色土が堆積する単純なものである。以下に基本層序を示す。

I層 表土。

II層 黒色の色調を示す腐植土層である。本層は、十和田a火山灰が介在することによりa～c層に細分される箇所もある。

II a層 黒色の色調を示す土層。

II b層 黒色の色調を示す土層。

II c層 黒色の色調を示す土層。II b層より若干明るい。

III層 暗褐色の色調を示す土層。II層とIV層の漸移層である。

IV層 黄褐色粘土層。

調査の結果、遺構はTP1より土坑1基、TP5より土坑1基、TP9より竪穴住居跡1軒、TP10より土坑1基、TP14より竪穴住居跡とみられる黒色土落込みを2箇所、TP18より竪穴住居跡1軒、TP24より柱穴様ピット1個、TP25より土坑1基を確認した。遺物はTP2より縄文土器片を2点、TP1・2・4・5・9・14・17・18より土師器片を55点、TP4・16・20・24より陶磁器片を10点、TP2・6より石器を3点得た。

#### (3) 遺構

##### 1) 竪穴住居跡

竪穴住居跡1（図42・図版20）

遺構 TP9から竪穴住居跡を1軒確認した。大半は調査区外のため、平面形は不明である。南東にカマドがある。

遺物 カマドを中心に土師器片が17点出土した（図版20-15～21）。



図 39 調査地区と周辺の地形 (1 : 2,500)

**竪穴住居跡 2** (図 42・図版 20)

**遺構** T P 18 から竪穴住居跡を 1 軒確認した。調査区外に東西に拡がり、北部は削平されていたため不明であるが、平面形は方形を呈するものと思われる。南側にカマドがある。

**覆土** 黒色土に粒状のロームなどが混じる。

**遺物** カマドを中心に土師器片が 99 点出土した (図版 20-20 ~ 31)。ほぼ甕の破片で、二次焼成を受け赤褐色に被熱しているもの (22・23・27 ~ 30) や、調整が粗雑で粘土紐の積上げ痕を残すもの (22・24・26・28・30) もある。また、カマド支脚に用いられていた土師器の甕は底部片で、底部外面は砂底である。口縁から体部上半を欠き二次焼成を受けている (31)。

## 2) 土坑

**土坑 1** (図 43・図版 20)

**遺構** T P 1 を調査中に黒色土の落込みを発見した。平面形は円形を呈する。確認面での規模は径 0.8 m、深さ 0.2 m ほどである。

**覆土** 黒色土に粒状のロームなどが混じる。

**遺物** 土師器の甕破片が 1 点出土した (14)。

**土坑 2** (図 43)

**遺構** T P 10 を調査中に黒色土の落込みを発見した。平面形は円形を呈する。確認面での規模は長径 0.9 m、短径 0.7 m、深さ 0.1 m ほどである。遺物は出土しなかった。

**覆土** 黒色土に粒状のロームなどが混じる。

**土坑 3** (図 43)

**遺構** T P 25 を調査中に黒色土の落込みを発見した。平面形は長楕円形を呈する。確認面での規模は長径 1.3 m、短径 0.9 m、深さ 0.1 m ほどである。遺物は出土しなかった。

**覆土** 暗褐色土に粒状のロームなどが混じる。

(4) **遺物** (図版 20)

遺構以外からの遺物は、縄文土器は十腰内 I 式土器片 2 点 (1・2) で、うち 1 点は器外面に赤色顔料で着色されている (2)。土師器は合計 58 点で、うち 44 点が T P 18 からの出土で、そのほとんどが甕の破片である。また、T P 1 からはロクロ成形の杯の破片が 1 点出土し (7)、T P 5 からは砂底の土師器の甕底部が 1 点出土した (10)。近世陶磁器は 16 点である。石器では、擦石 1 点 (3)、剥片 2 点 (4)、礫 2 点である。

(5) **調査の結果**

T P 1・5・9・10・18 では遺構が検出された。このことから、新規の遺跡として周知資料に登載することとした。新規に登載した遺跡の概要は、以下のとおりである。

遺跡の名称 真館Ⅱ遺跡

登 載 番 号 204-12-52  
 種 別 集落跡  
 時 代 縄文時代・平安時代  
 所 在 地 比内町新館字真館 22・29・32 番 1  
 推 定 面 積 約 5,300 m<sup>2</sup>  
 標 高 72 ~ 75 m  
 遺跡の現状 林地

なお、本遺跡は未調査である北側に範囲が広がる可能性がある。また、南西側の T P 25 より土坑が 1 基確認されたが、遺物は出土せず、周辺から遺構・遺物は確認されていない。したがって、今回は遺跡の範囲には含めなかった。

以上のことから、調査結果図に示したとおり、北東部の堅穴住居跡、土坑を包括し、遺構が確認されていない T P 4 ~ 24 の北端を結ぶ範囲を保護措置の必要な範囲と考える。措置の内容は、発掘調査が妥当と思われる。

今回の調査では、事業対象地の南西側から遺構・遺物は確認されず、埋蔵文化財包蔵地の範囲には含めなかった。しかしながら、本遺跡の周辺にも未発見の包蔵地が存在している可能性がある。これらの問題については、今後当地域を調査した段階で判断したい。

表 8 種別遺構一覧

堅穴	土坑	柱穴	計
4	4	1	9

表 9 遺構一覧

番 号	位 置	平面形	規 模			長 軸 (N-W)
			確認面	底面	深さ	
S I 1	T P 9		—	—	—	—
S I 2	T P 18	方形	—	—	0.34	—
S K 1	T P 1	円形	0.85×0.8	0.72×—	0.24	—
S K 2	T P 10	円形	0.95×0.69	0.6×—	0.12	148°
S K 3	T P 25	楕円形	1.32×0.9	1.25×0.81	0.12	35°

表10 遺構出土遺物一覧

分類 調査区遺構	P	合計
	7	
S I 1	17	17
S I 2	99	99
S K 1	1	1
合計	117	117

表11 遺構外出土遺物一覧

調査区	分類	P				S				合計
		5	7	8	計	1	2	4	計	
						6				
T P 1			1		1					1
T P 2		2	2		4	1	1		2	6
T P 4			1	1	2					2
T P 5			2		2					2
T P 6							1		1	1
T P 9			2		2					2
T P 14			2		2					2
T P 16				4	4					4
T P 17			1		1					1
T P 18			44		44					44
T P 20				1	1					1
T P 24				4	4					4
表面採集			3	6	9			2	2	11
合計		2	58	16	76	1	2	2	5	81

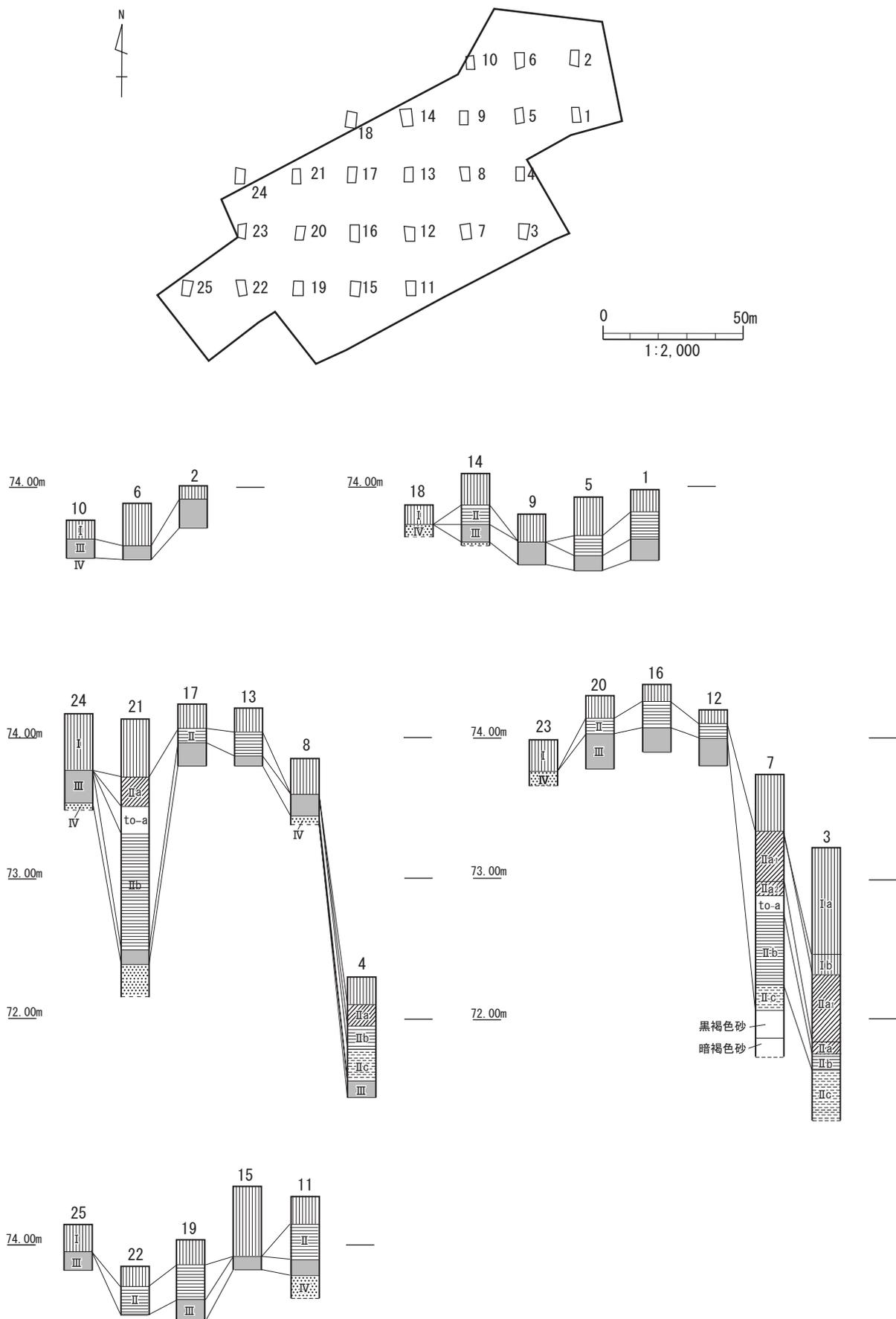


図40 調査位置図、土層柱状図（1：40）

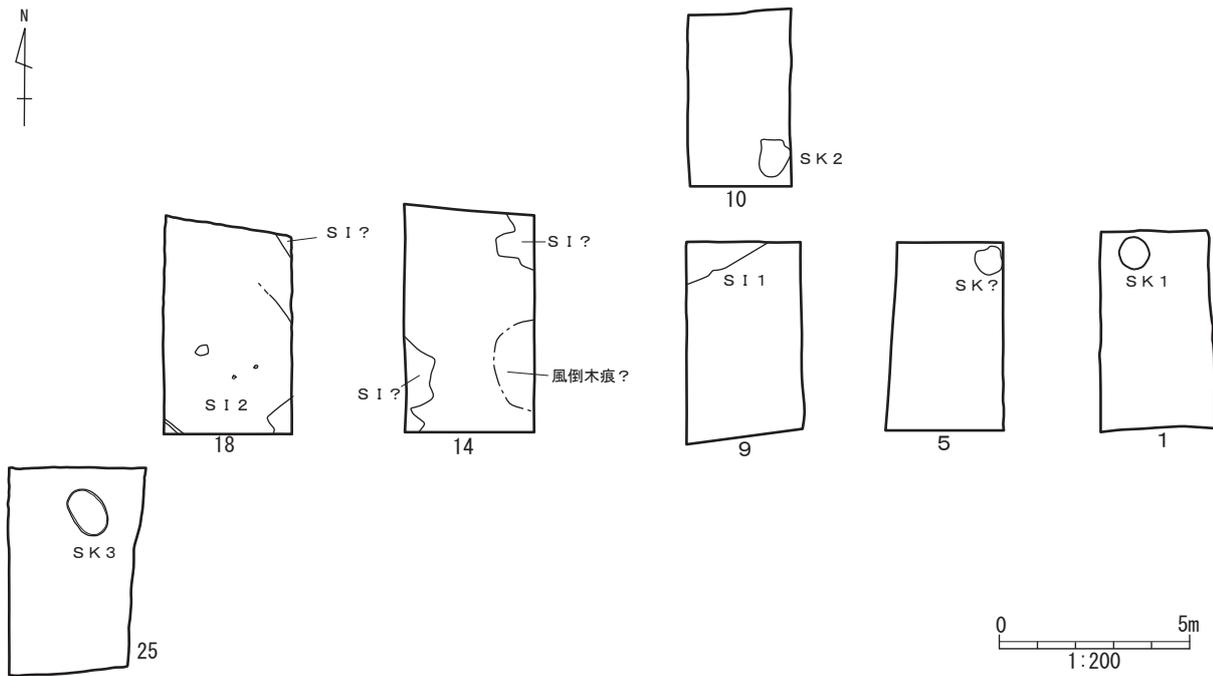


図 41 検出遺構図

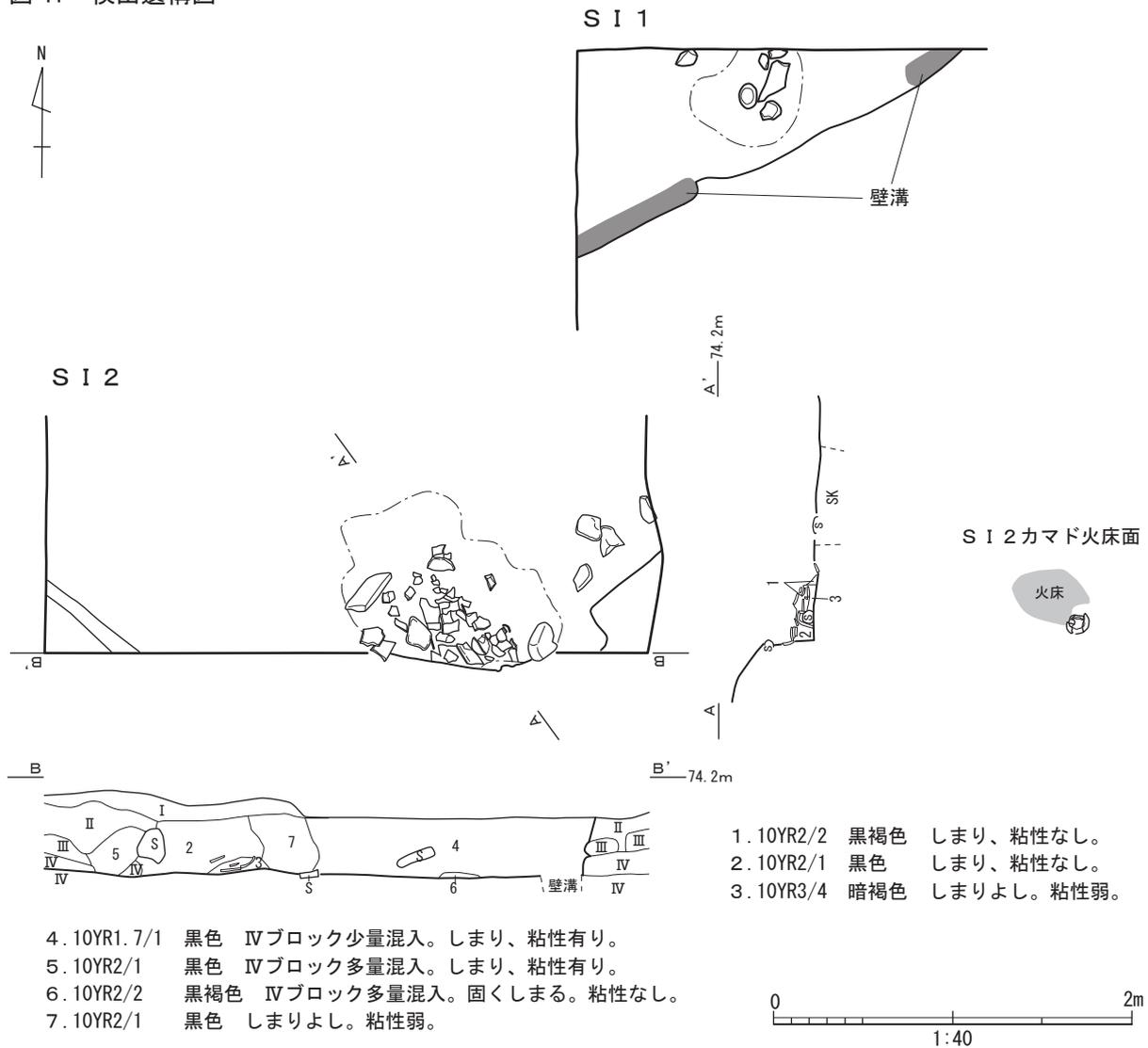
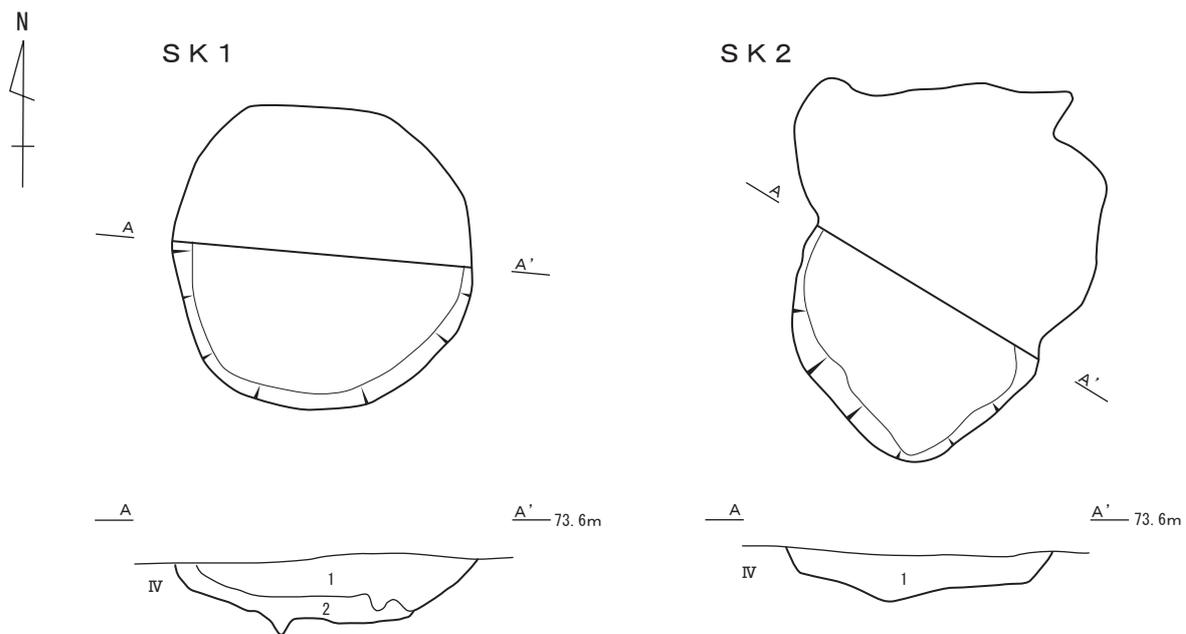
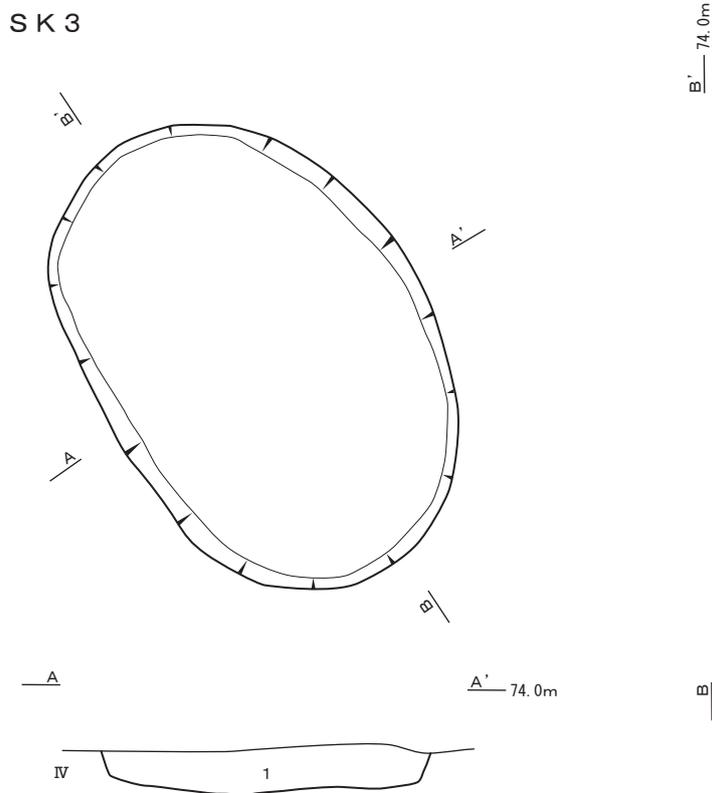


図 42 竪穴住居跡 1・2



- 1. 10YR2/1 黒色 IVブロック微量混入。
- 2. 10YR2/2 黒褐色 IVブロック少量混入。

- 1. 10YR2/2 黒褐色 IVブロック少量混入。



- 1. 10YR3/3 暗褐色 IVブロック少量混入。

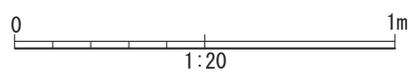


図 43 土坑 1・2・3



図44 真館Ⅱ遺跡の位置 (1 : 25,000)

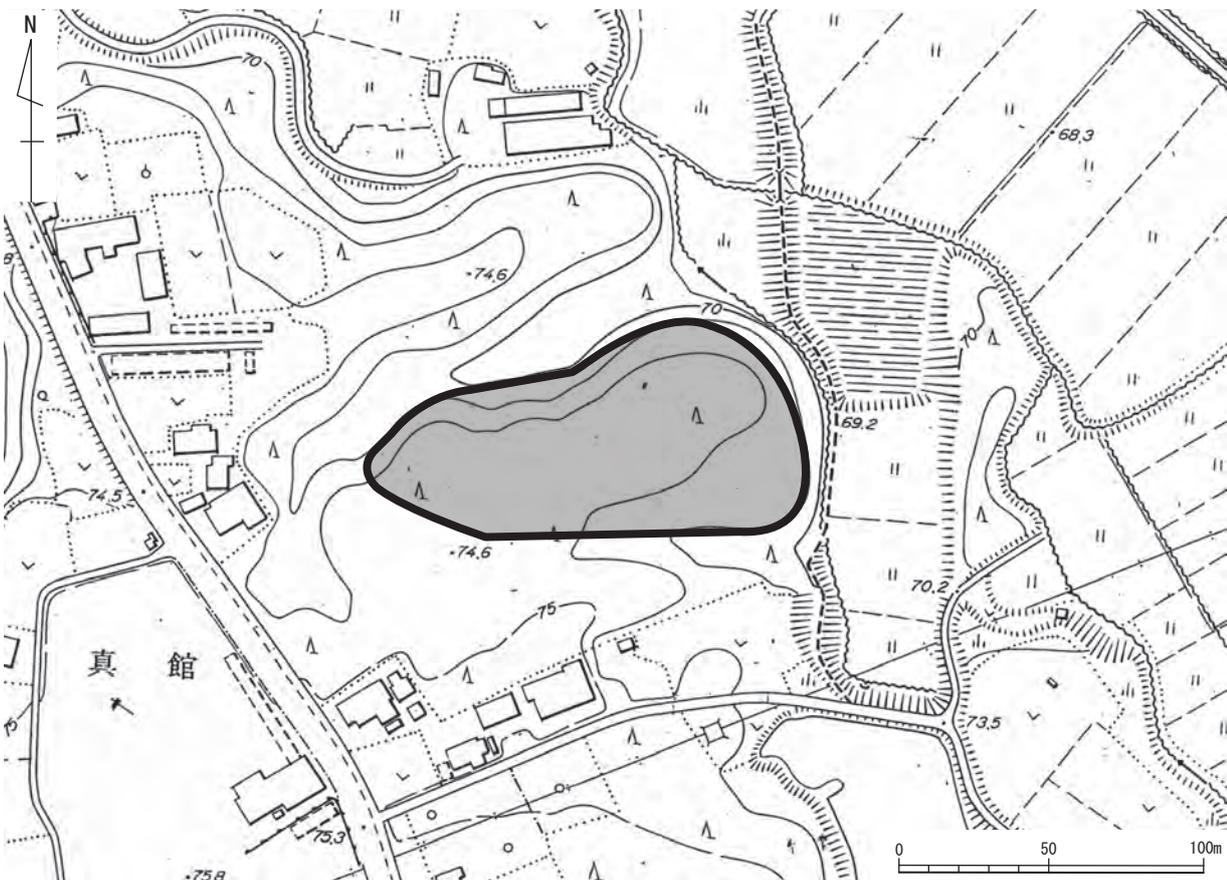


図45 真館Ⅱ遺跡と周辺の地形 (1 : 2,500)



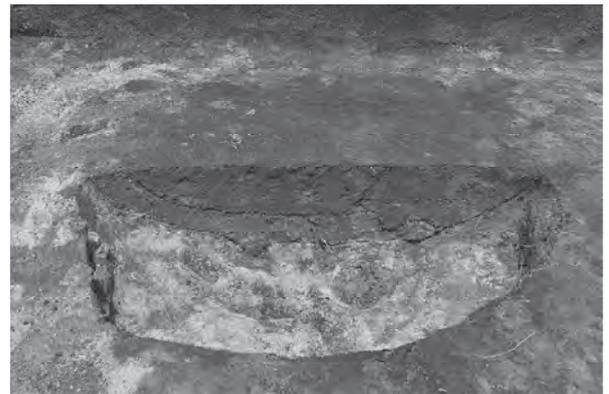
調査区近景



調査区近景



1 調査区状況



土坑 1



5 調査状況



土坑 2



9 調査状況



竪穴住居跡 1

図版18 調査状況(1)



10調査状況



14調査状況



18調査状況



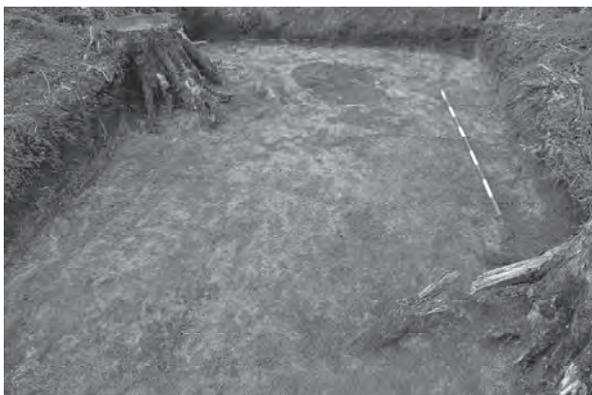
竪穴住居跡 2



竪穴住居跡 2 カマド



21調査状況

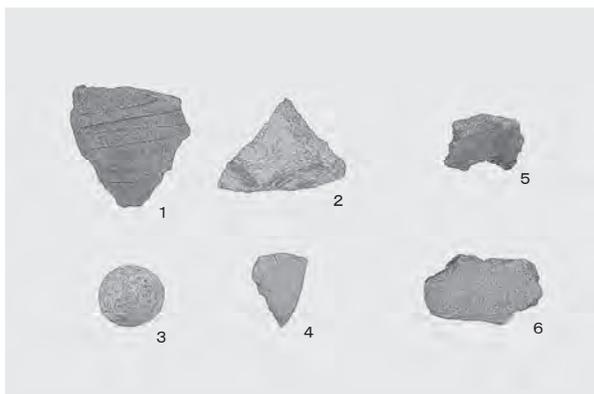


25調査状況

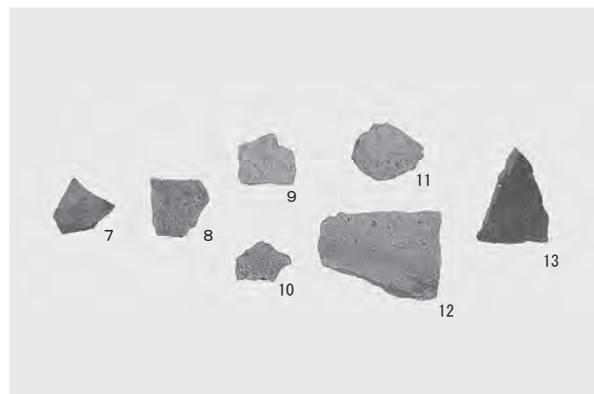


土坑 3

図版19 調査状況(2)



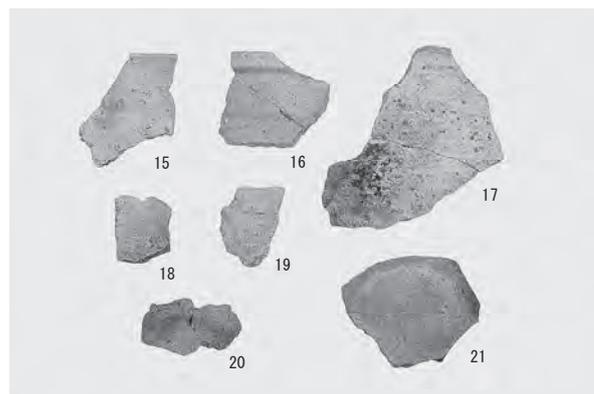
2出土遺物



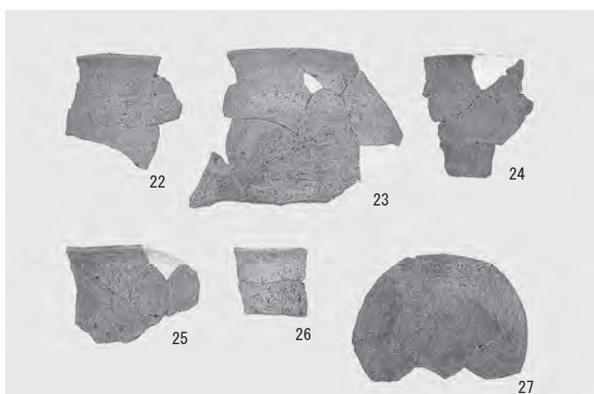
1・4・5・14・17出土遺物



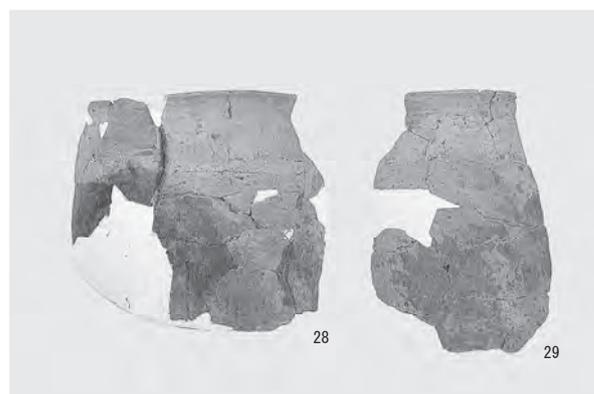
土坑 1 出土遺物



竪穴住居跡 1 出土遺物



竪穴住居跡 2 カマド 出土遺物 (1)



竪穴住居跡 2 カマド 出土遺物 (2)



竪穴住居跡 2 カマド 出土遺物 (3)



竪穴住居跡 2 カマド 支脚

図版20 出土遺物

## 第4章 田代地区の調査

### 1 菅谷地遺跡（畜舎造成工事）

#### (1) 遺跡の位置と周辺的环境

菅谷地遺跡は、大館市の北西部に位置し、JR奥羽本線早口駅から北に約8.5km、早口川支流の味噌内沢右岸の標高175～180mの台地上に立地する。周辺には西約1.4kmに大野遺跡と貝倉岱遺跡が分布する。調査地の地番は早口字菅谷地34番2で、平成23年度に実施した。

#### (2) 調査の内容

平成23年6月5日、養豚施設建設に係る土地造成工事中に、秋田県文化財保護監視員により遺跡の存在が発見され、市教委が遺跡であることを確認した。そこで、市教委が開発側と協議した結果、土地造成工事から免れ、Ⅱ層以下が残存し遺構の存在の可能性がある範囲の約1,400㎡を対象に遺跡範囲確認調査を実施することとした。

調査は、人力にて表土及び黒色土を除去した後、底面と壁面を精査し、埋蔵文化財の有無等を調査した。なお、開発者側の協力により一部については、重機を用いて表土及び黒色土を除去した。調査地内の基本層序は、基盤をなす黄褐色粘質土層上に黒色土が堆積する単純なものである。以下に基本層序を示す。

I層 表土。黒色土。

Ⅱ層 黒褐色土。

Ⅲ層 漸移層。調査区の一部にしか存在しない。

Ⅳ層 黄褐色粘質土。

調査の結果、遺構は、調査区中央部からコの字型を呈する石囲炉を伴う竪穴住居跡1棟と調査区北部から竪穴状遺構1基が検出された。どちらも調査区外の西へ広がる。遺物は、縄文土器片が71点、石器類84点が出土した。

#### (3) 遺構（図47）

竪穴住居跡（S I 13）は、表土から石囲炉を検出し、これにより竪穴住居跡として確認した。平面形は円形と推測されるが、規模等は不明である。石囲炉の規模は1.4m×1.1mほどで、炉の中央部には径約0.6mの範囲に焼土が確認された。竪穴状遺構（S I 12）は、半円形の黒色土の落ち込みで確認した。平面形は円形と推測され、調査区外の西へ広がる。確認面での規模は径4.4m、深さ0.6mほどで、炉跡は確認されなかった。どちらも確認調査では遺物の出土はなかった。

#### (4) 遺物（図版22）

土器は、71点のうち大半の66点が調査区中央部から出土した（14～28）。縄文時代前期に位

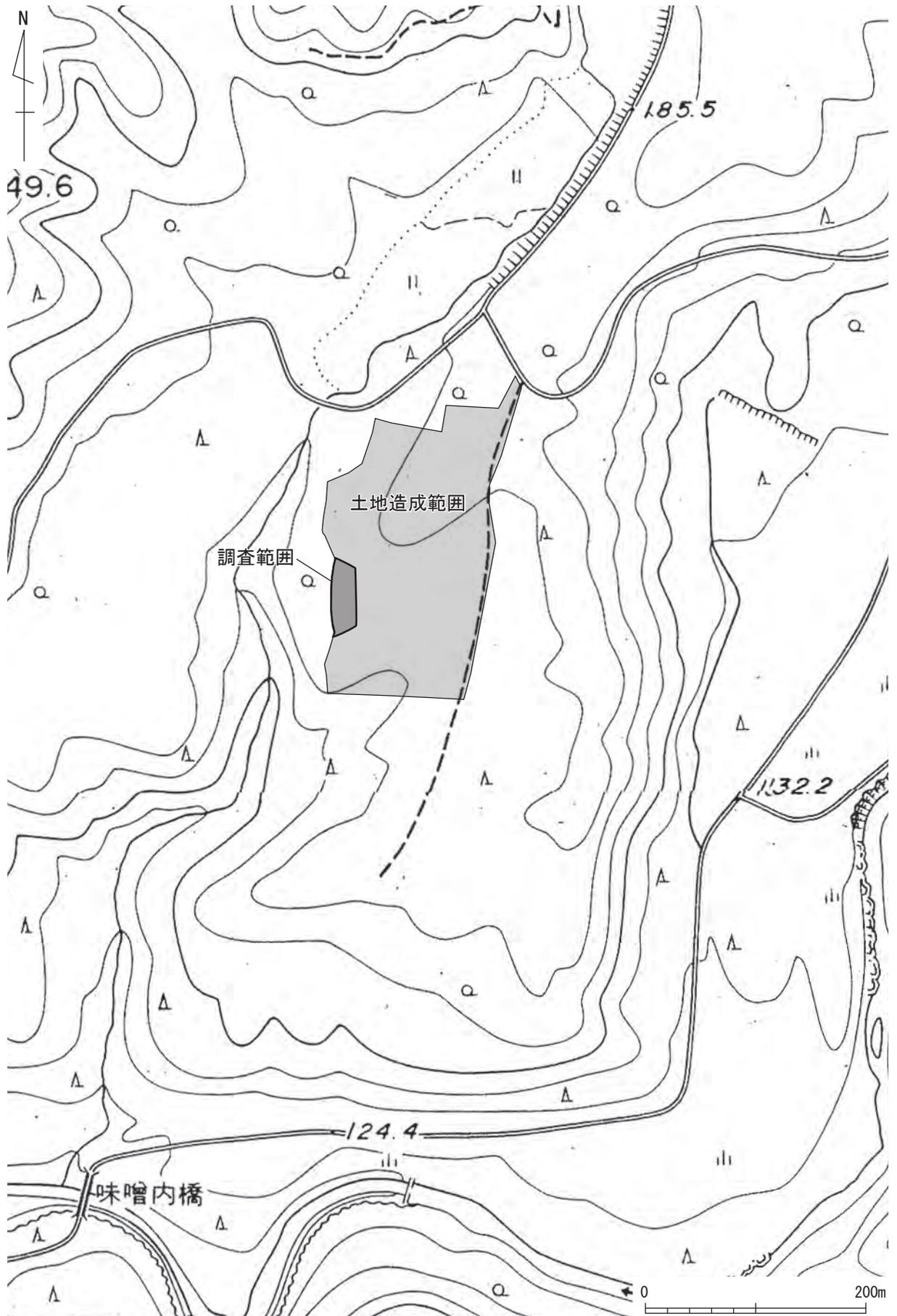


図46 調査地区と周辺の地形 (1 : 5,000)

置つけられるものが中心である。石器は、石鏃1点(29)、石筥3点(30・31・35)、石匙1点(32)、スクレイパー5点(33・34・36～38)。部分的な刃部を持つ剥片23点(10・11・42～47)、石斧4点(12・39～41)、凹石1点(13)、剥片31点(5～7)、石核6点(8・48・49)、礫9点の計84点である。

(5) 調査の結果

縄文時代の遺構・遺物が検出されたことから、新規の遺跡として周知資料に登載することとした。新規に登載した遺跡の概要は、以下のとおりである。

遺跡の名称 菅谷地遺跡  
 登載番号 204-15-66  
 種別 集落跡  
 時代 縄文時代  
 所在地 早口字菅谷地34番地2ほか  
 推定面積 約50,000㎡  
 標高 175～180m  
 遺跡の現状 山林ほか

調査の結果、遺構の検出及び遺物の出土があったため、発掘調査が必要と判断した。なお、確認調査開始時に土地造成工事によりⅠ～Ⅲ層が掘削され、Ⅳ層面(地山)が露出し、すでに遺構が検出されていた。このため、直ちに開発側と協議をし、造成工事から免れ遺構が残存する範囲を対象に確認調査と並行して本発掘調査を実施し、確認調査で検出した遺構も順次調査した。本調査を行った遺構は、確認調査で検出した遺構も含め、竪穴住居跡2軒、竪穴状遺構1基、土坑1基、フラスコ状土坑7基、落とし穴状遺構2基である。

なお、本遺跡の大部分は土地造成工事により未調査のまま消滅した。本遺跡は未調査である北側と西側に範囲が拡がると推定され、本遺跡の周辺にも未発見の包蔵地が存在している可能性がある。今後も当地域の分布調査等を必要に応じて行っていかなければならない。

表12 種別遺構一覧

堅穴	計
2	2

表13 遺構一覧

番号	位置	平面形	規模			長軸(N-W)
			確認面	底面	深さ	
S I 12	調査区中央	円形?	—	—	—	—
S I 13	調査区北部	円形	4.4×—	—	0.6	—

表14 遺構外出土遺物一覧

分類	P			S										合計
	2	5	計	1						2	3	4	計	
				1	3	4	5	7	小計					
調査区														
調査区北部	4		4							4	2	2	8	12
調査区中央	65	1	66	1	9	20	3		33	20	3	6	62	128
調査区南部	1		1			3	1	1	5	7	1	1	14	15
合計	70	1	71	1	9	23	4	1	38	31	6	9	84	155

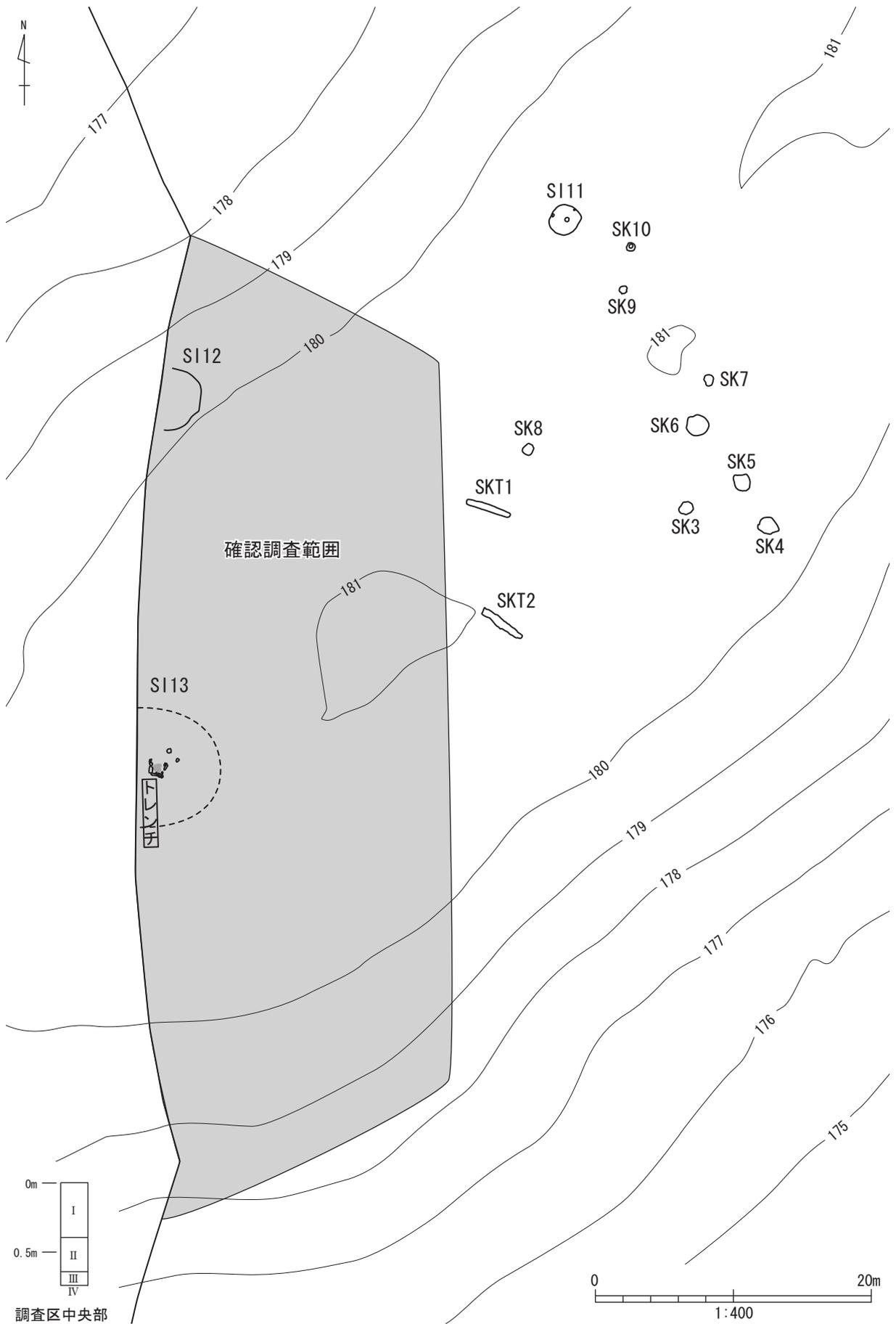


図47 検出遺構図、土層柱状図（1：40）

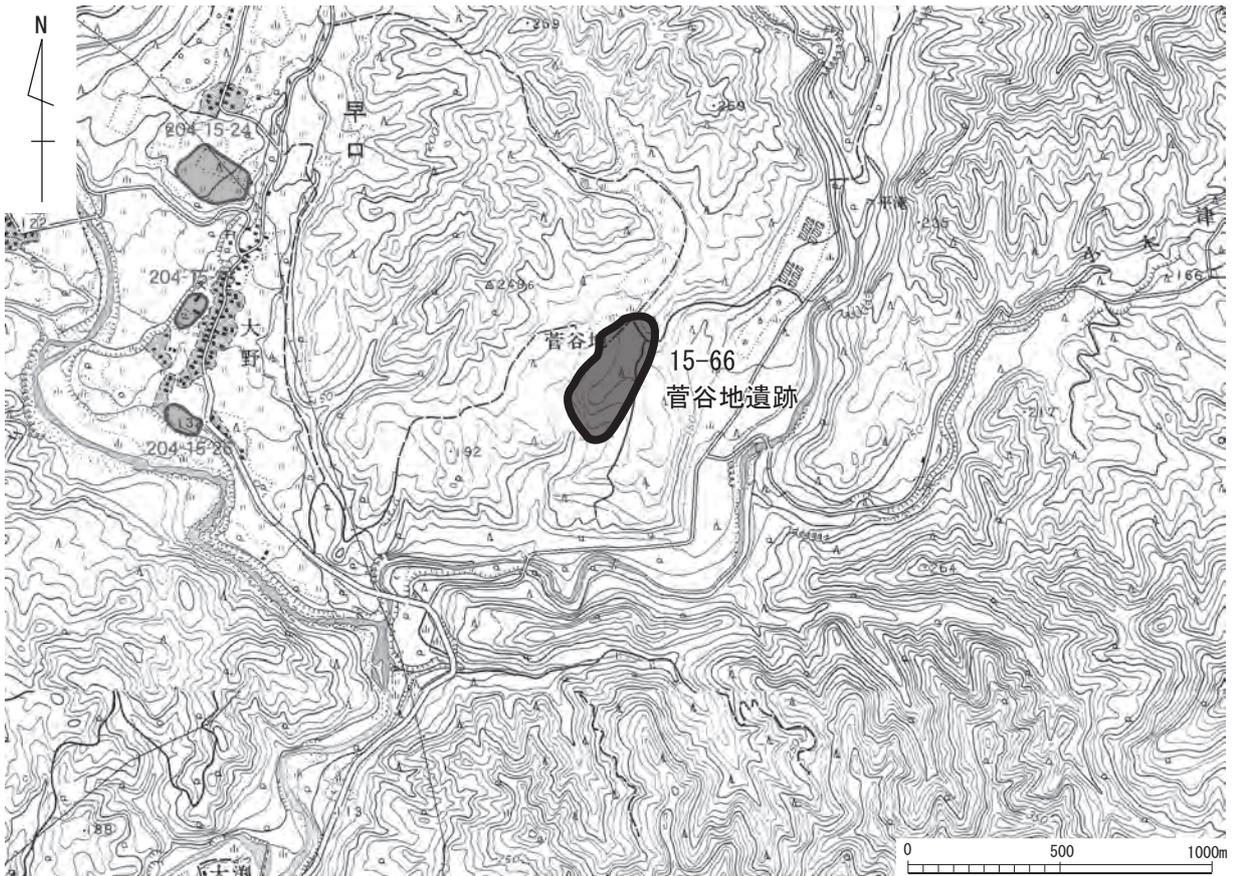


図48 菅谷地遺跡の位置 (1 : 25, 000)

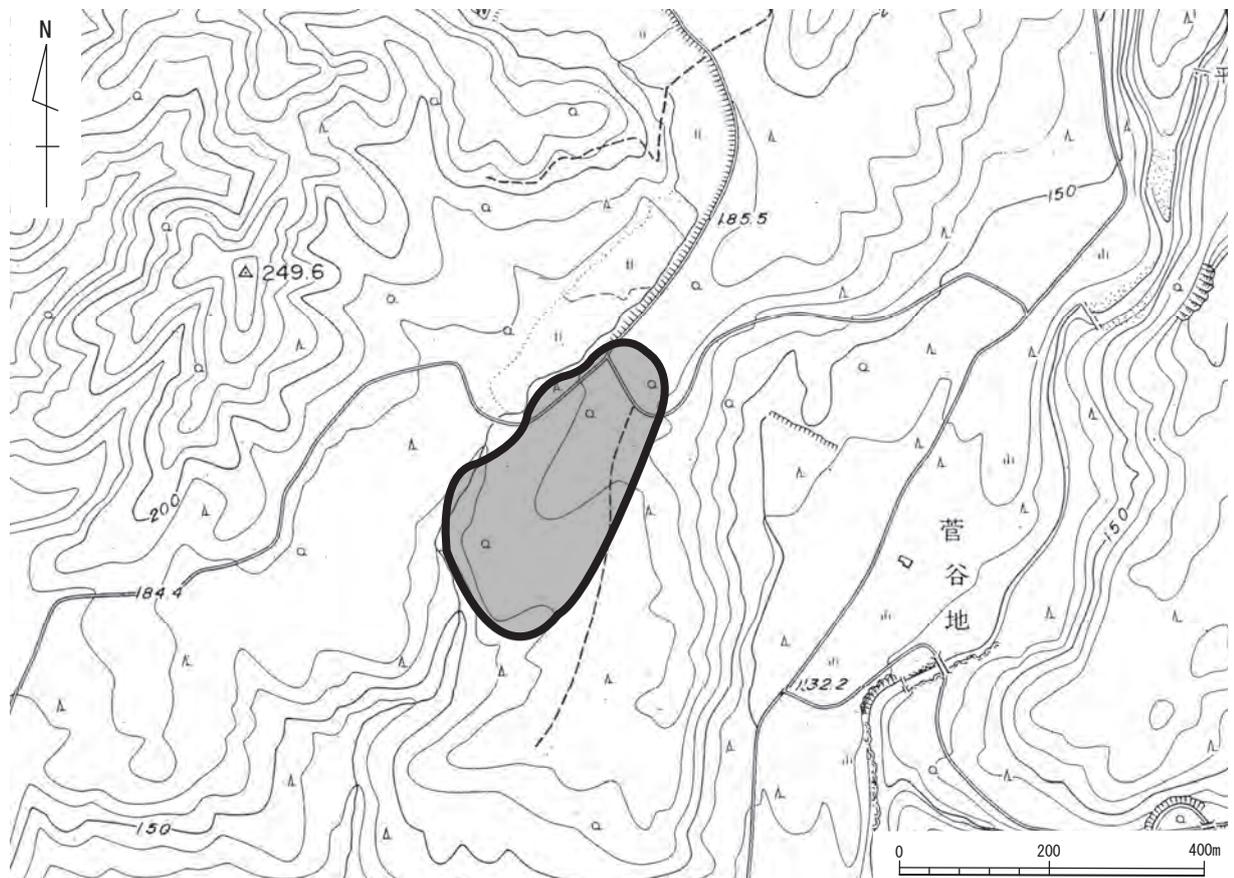


図49 菅谷地遺跡と周辺の地形 (1 : 10, 000)



調査区遠景



調査区近景



調査区北部調査状況



調査区中央部調査状況



調査区南部調査状況



竪穴住居跡13石囲炉検出状況

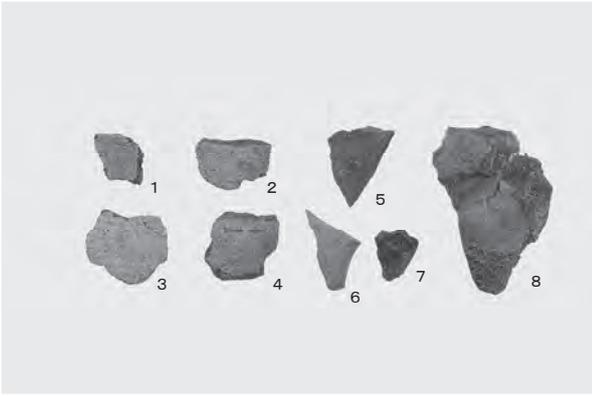


竪穴状遺構12検出状況

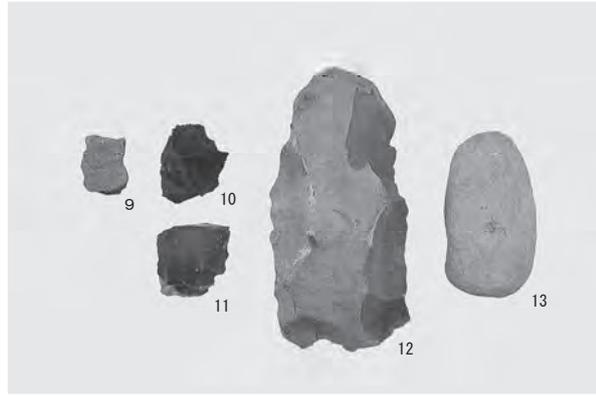


竪穴状遺構12調査状況

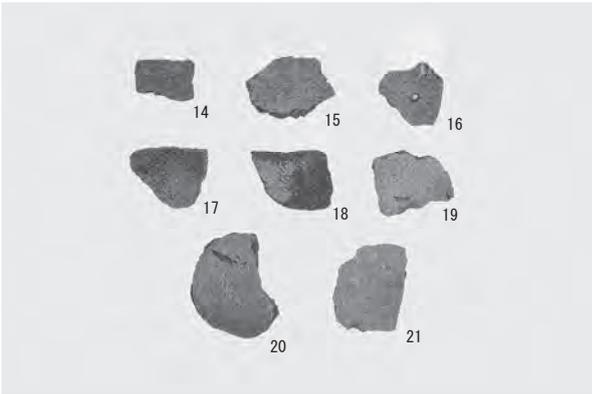
図版21 調査状況



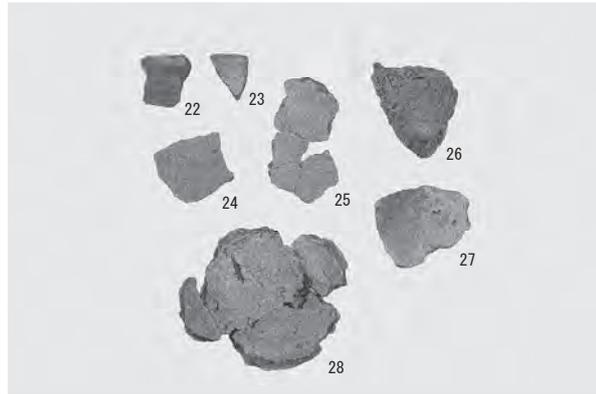
調査区北部出土遺物



調査区南部出土遺物



調査区中央部出土土器(1)



調査区中央部出土土器(2)



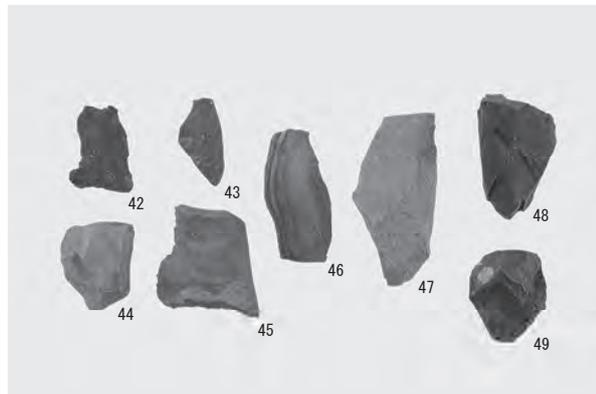
調査区中央部出土石器(1)



調査区中央部出土石器(2)



調査区中央部出土石器(3)



調査区中央部出土石器(4)

図版22 出土遺物

## 2 山田地区（公共下水道）

### (1) 調査地の位置と周辺的环境

調査を実施した地区は、J R 早口駅より北へ約 3.5 k m、大館盆地の北西部を開析する岩瀬川の下流域に位置し、標高は海拔 60 m である。本地区の周辺には、北約 0.5 k m のところに中茂屋遺跡、南東約 0.5 k m のところに茂屋下岱遺跡が分布する。大館市内の遺跡の多くは丘陵を開析する川・沢の流域に分布する。調査地付近にはその川の一つが縦断しており、遺跡の所在する可能性がある地区であることから平成 23 年度に調査を行った。

### (2) 調査の内容

今回の調査は、下水道工事が行われる 2 地区の計 353 m<sup>2</sup> について実施した。調査区内に、任意に 1 m × 1.2 ~ 2 m のテストピットを設定して調査を実施した。テストピットは、重機を用いて盛土及び黒色土を除去した後、人力にて底面と壁面を精査し、埋蔵文化財の有無等を調査した。基本層序は、基盤をなす灰黄褐色～にぶい黄褐色土層上に黒色土が堆積する単純なものである。以下に基本層序を示す。

I 層 黒色の色調を示す腐植土層である。

II 層 黒褐色～暗褐色の色調を示す土層である。I 層と III 層の漸移層である。

III 層 灰黄褐色～にぶい黄褐色の色調を示す土層。

IV 層 褐色の色調を示す。礫が多量に混じる。

調査の結果、テストピット 1・2 で腐植土層が良好に確認され、テストピット 4・5 では沢を埋め立てられたと考えられる盛土層が確認されたほかは、基盤層より上の層はほとんど残存していなかった。遺構は、テストピット 2 から黒色土の落込みを 1 箇所検出したが、遺物はなく、掘り込み面から新しい時代のもと考えられる。そのほかの遺構・遺物は確認されなかった。

### (3) 調査の結果

調査の結果、調査地内から黒色土の落込み 1 箇所を検出したものの、埋蔵文化財には該当しないと判断した。以上のように地形・土層等からみて、今回の調査対象地内には埋蔵文化財が存在する可能性は低く、保護措置は不要と考えるのが妥当と判断した。

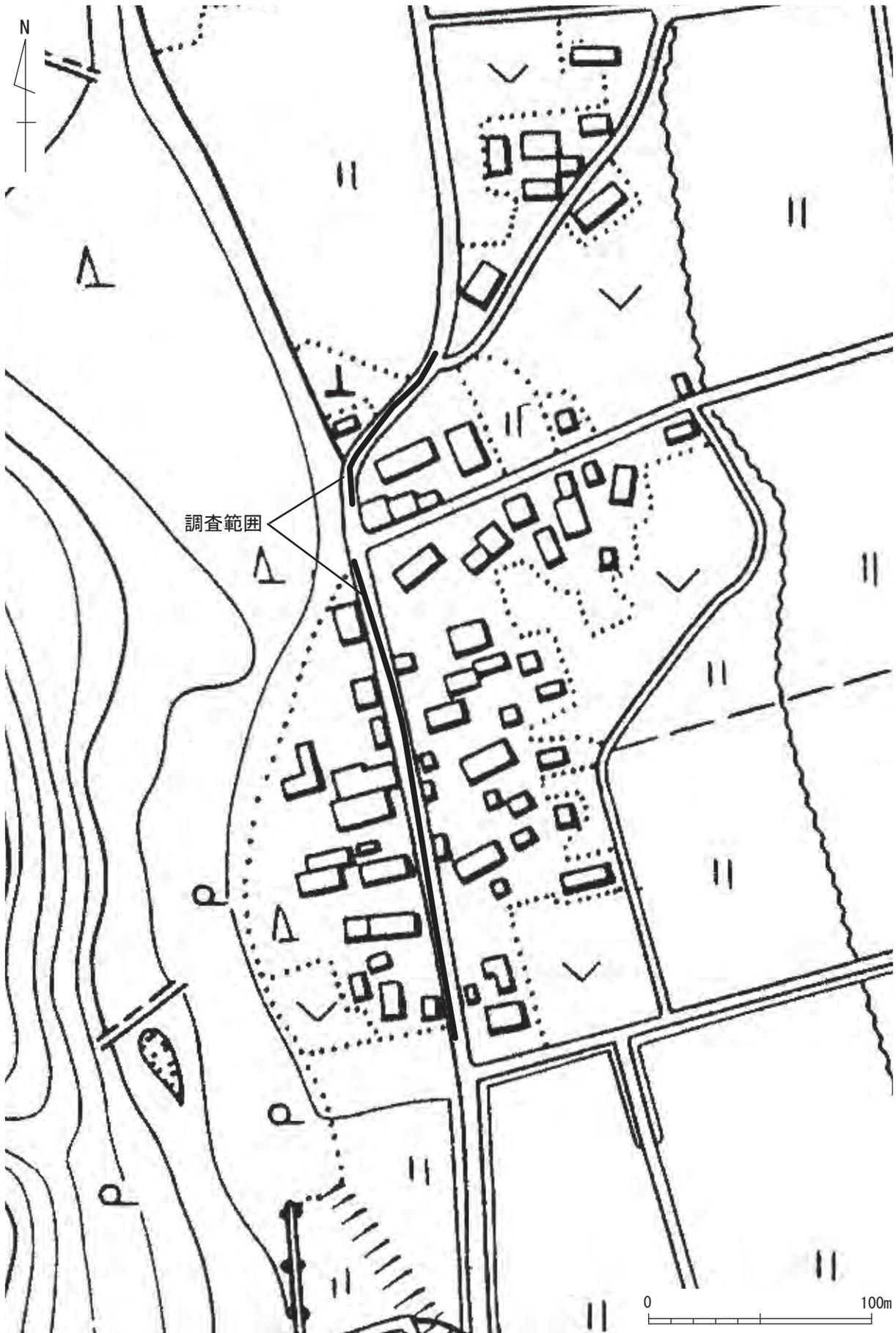


図 50 調査地区と周辺の地形 (1 : 2,500)

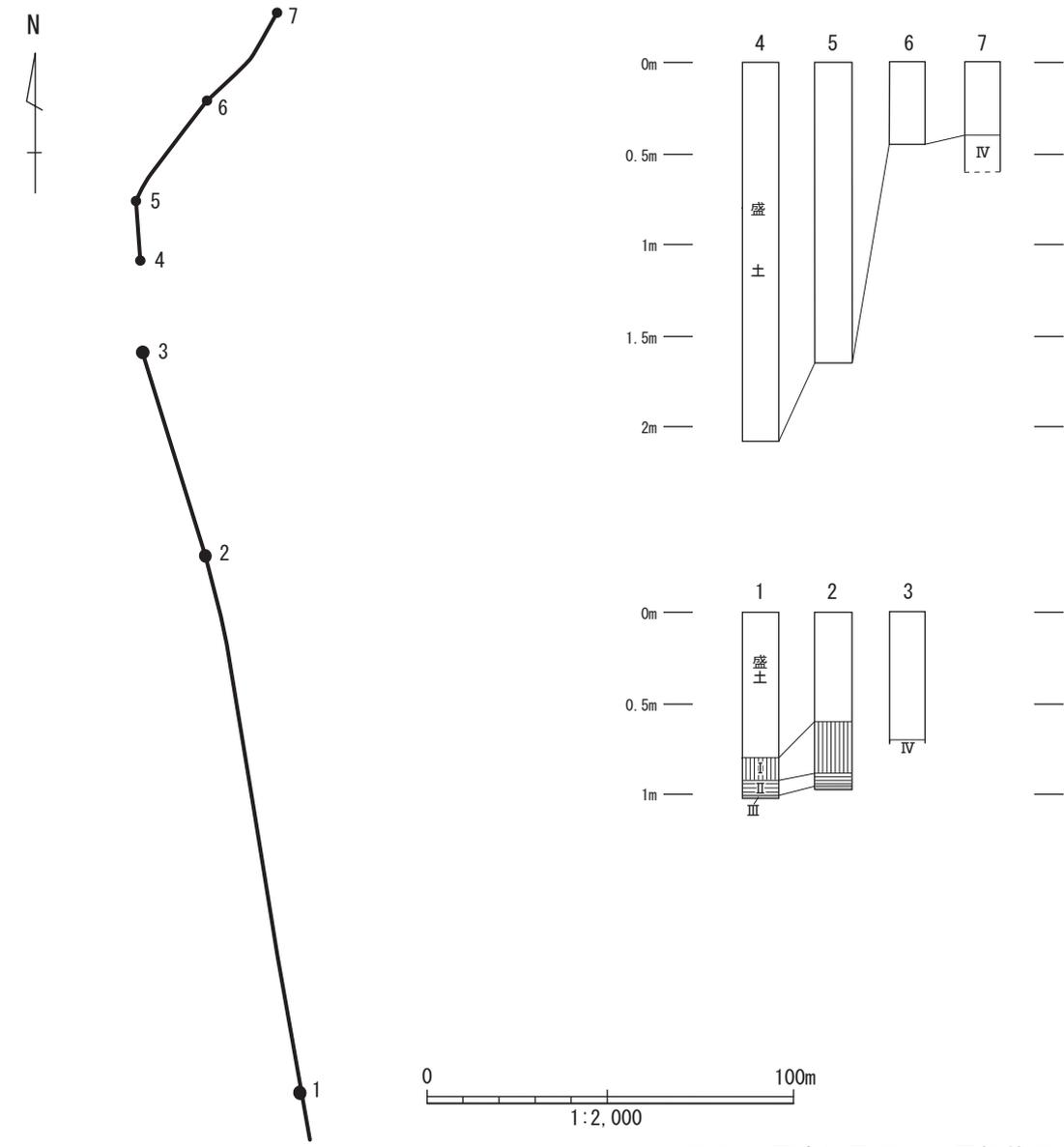


図 51 調査位置図、土層柱状図 (1 : 40)



図版23 調査状況

### 3 大川目元渡遺跡（養豚企業誘致）

#### (1) 遺跡の位置と周辺環境

調査を実施した地区は、大館市の北西部に位置し、山瀬ダムから北西に約3.5 km、大川目川右岸の標高約330 mの広大な丘陵上に立地する。調査地の南約2.5 kmの板沢を挟んだ対岸の平滝地区には、平滝A～E遺跡の5遺跡が分布する。大館市内の遺跡の多くは丘陵を開析する川・沢の流域に分布する。調査地付近にはその沢の一つが縦断しており、遺跡の所在する可能性がある地区であることから平成23年度に調査を行った。

#### (2) 調査の内容

今回の調査は、養豚企業誘致により土地造成工事が予定されている地区のうち約12,000 m<sup>2</sup>について実施した。調査対象範囲内に2～3 m×2.5～3.5 mのテストピット（以下「TP」）を20 m間隔に33箇所設定し、重機により表土及び黒色土を除去した後、人力にて底面と壁面を精査し、埋蔵文化財の有無等を調査した。また、必要に応じてTPの拡張を人力にて行った。調査地内は、牧場用地とするために過去に大規模な造成が行われており、標高が低い場所では、盛土下に旧表土以下が確認され、造成により沢状地形が埋め立てられている箇所もあった。また、標高が高い場所では、削平が地山面まで及んでいた。以下に基本層序を示す。

I層 表土。

II層 盛土。

III層 黒色土。旧表土。

IV層 黒褐色土。TP 26でのみ確認。

V層 黒褐色土。IV層とVI層の漸移層である。

VI層 黄褐色粘質土。

調査の結果、遺構は、TP 27・31から土坑が各1基とTP 13から土坑1基、柱穴様ピット1基が検出された。遺物は、TP 25・26・32から縄文土器片3点、TP 26・32から石器3点が出土した。

#### (3) 遺構

##### 土坑1（図54）

**遺構** TP 13を調査中に黒色土の落込みを発見した。平面形は長楕円形を呈する。確認面での規模は0.9 m×0.6 m、深さ0.1 mほどである。遺物は出土しなかった。

**覆土** 黒色土に粒状のロームなどが混じる。

##### 土坑2（図55・図版25）

**遺構** TP 27を調査中に黒色土の落込みを一部発見し、トレンチを拡張して全体形を確認した。平面形は円形を呈する。確認面での規模は径1.4 m、深さ0.5 mほどである。

**覆土** 黒色土に粒状のロームなどが混じる。色調により2層に分かれる。

**遺物** 縄文前期土器片5点（6～8）、剥片1点（9）が出土した。

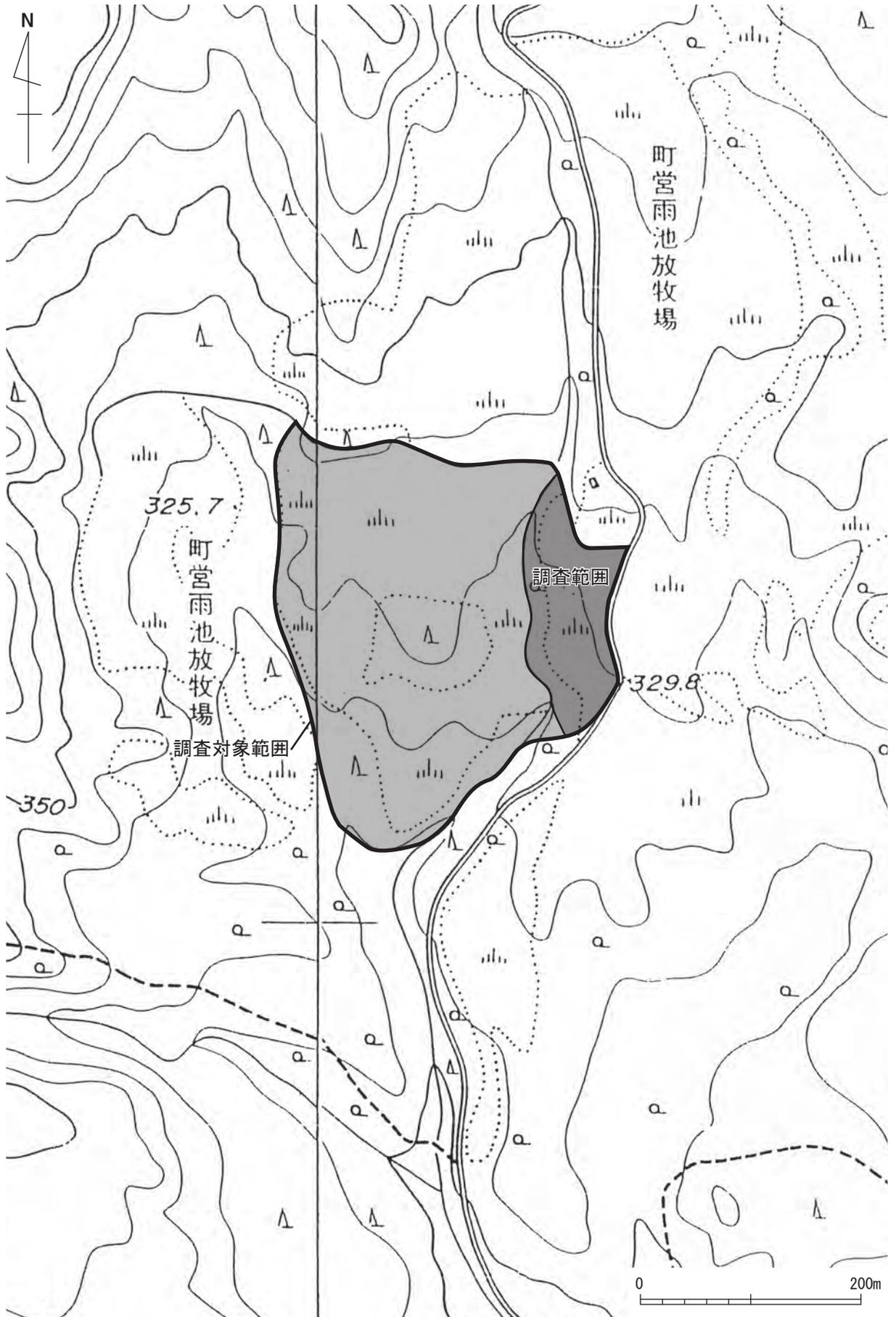


図 52 調査地区と周辺地形 (1 : 5,000)

土坑3 (図54)

**遺構** TP31を調査中に黒色土の落込みを発見した。平面形は楕円形を呈する。確認面での規模は0.8m×0.6m、深さ0.1mほどである。遺物は出土しなかった。

**覆土** 黒色土に粒状のロームなどが混じる。

(4) 遺物 (図版25)

今回の調査で遺構以外から得た遺物は、縄文前期土器片2点(1・2)、縄文後期土器片1点、剥片1点(3)、石核2点(4・5)の合計6点である。

(5) 調査の結果

今回の調査により、縄文時代の遺構・遺物が検出されたことから、新規の遺跡として周知資料に登載することとした。新規に登載した遺跡の概要は、以下のとおりである。

遺跡の名称 大川目元渡遺跡  
 掲載番号 204-15-67  
 種別 集落跡  
 時代 縄文時代  
 所在地 早口字大川目元渡 338番地ほか  
 推定面積 約45,000㎡  
 標高 320～330m  
 遺跡の現状 山林ほか

調査の結果、調査対象範囲の一部から遺構・遺物が検出され、遺跡が存在することが確認されたことから、遺跡範囲内において開発を行う場合には事前に発掘調査が必要であると判断した。

なお、平成23年度調査対象としなかった養豚企業誘致予定地範囲内にも遺跡の存在が疑われることから、今後も継続して試掘調査を実施していく予定である。

また、本遺跡は未調査である東側と南側に範囲が広がると推定され、本遺跡の周辺にも未発見の包蔵地が存在している可能性がある。今後も当地域の分布調査等を必要に応じて行っていかなければならない。

表15 種別遺構一覧

土坑	柱穴	計
3	1	4

表16 遺構一覧

番号	位置	平面形	規模			長軸(N-W)
			確認面	底面	深さ	
SK1	TP13	長楕円形	0.94×0.58	—	0.09	50°
SK2	TP27	円形	1.45×1.39	1.34×—	0.49	—
SK3	TP31	楕円形	0.76×0.6	—	0.08	71°

表17 遺構出土遺物一覧

分類	P		S	合計
	調査区	遺構		
SK2	5	1	6	

表18 遺構外出土遺物一覧

分類	P			S			合計
	調査区	2	5	計	2	3	
TP25	1		1				1
TP26	1		1		1	1	2
TP32		1	1	1	1	2	3
合計	2	1	3	1	2	3	6

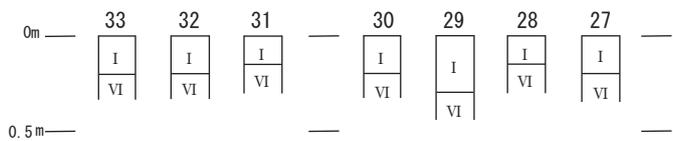
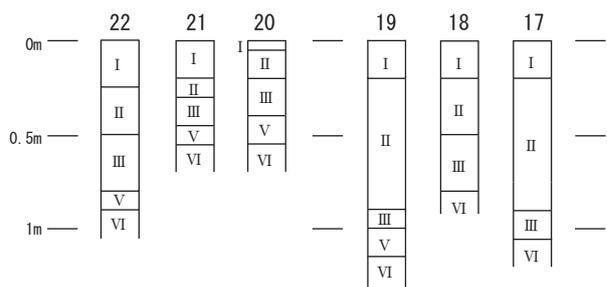
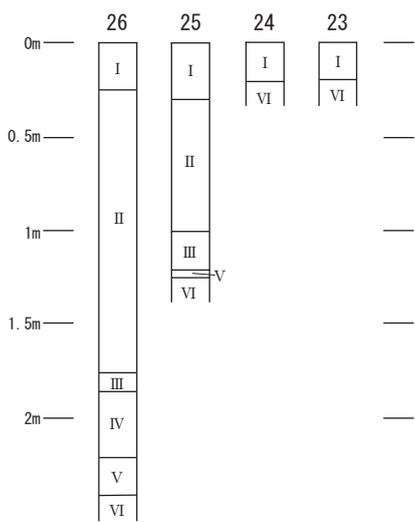
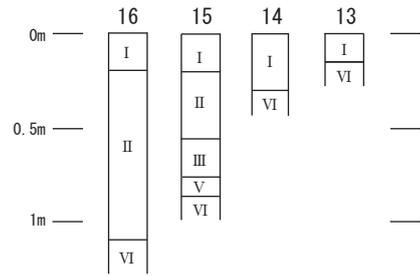
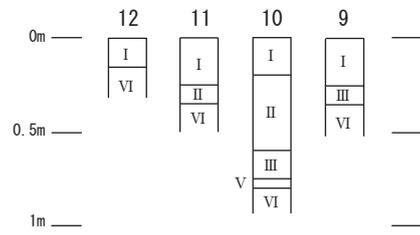
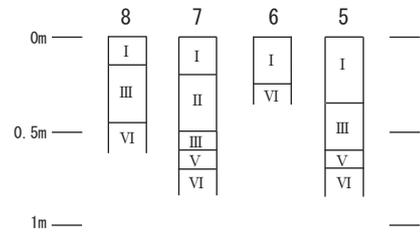
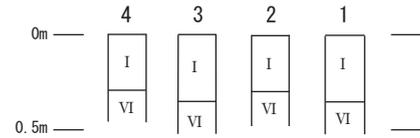
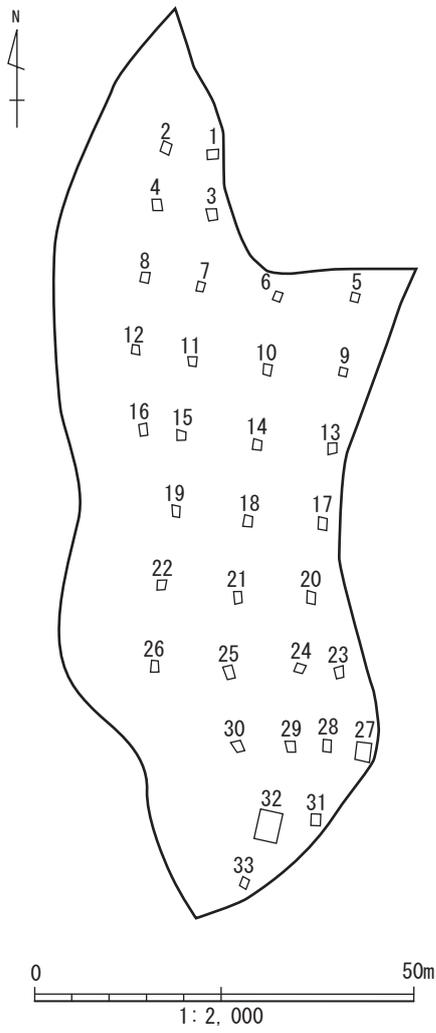


図 53 調査位置図、土層柱状図 ( 1 : 40 )

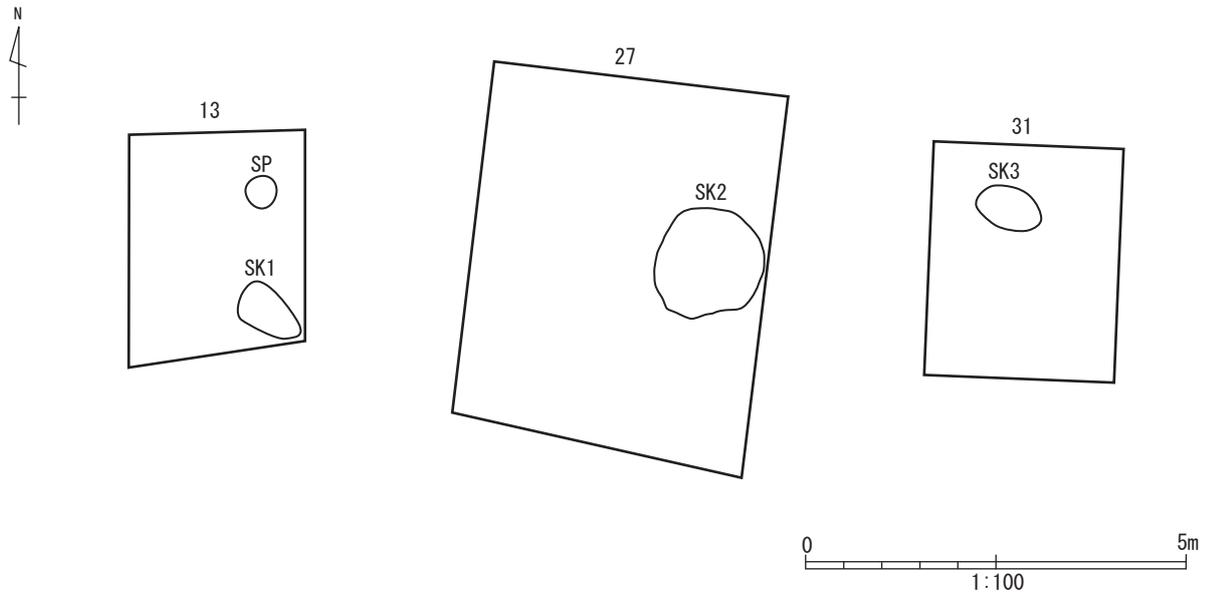


図54 検出遺構図

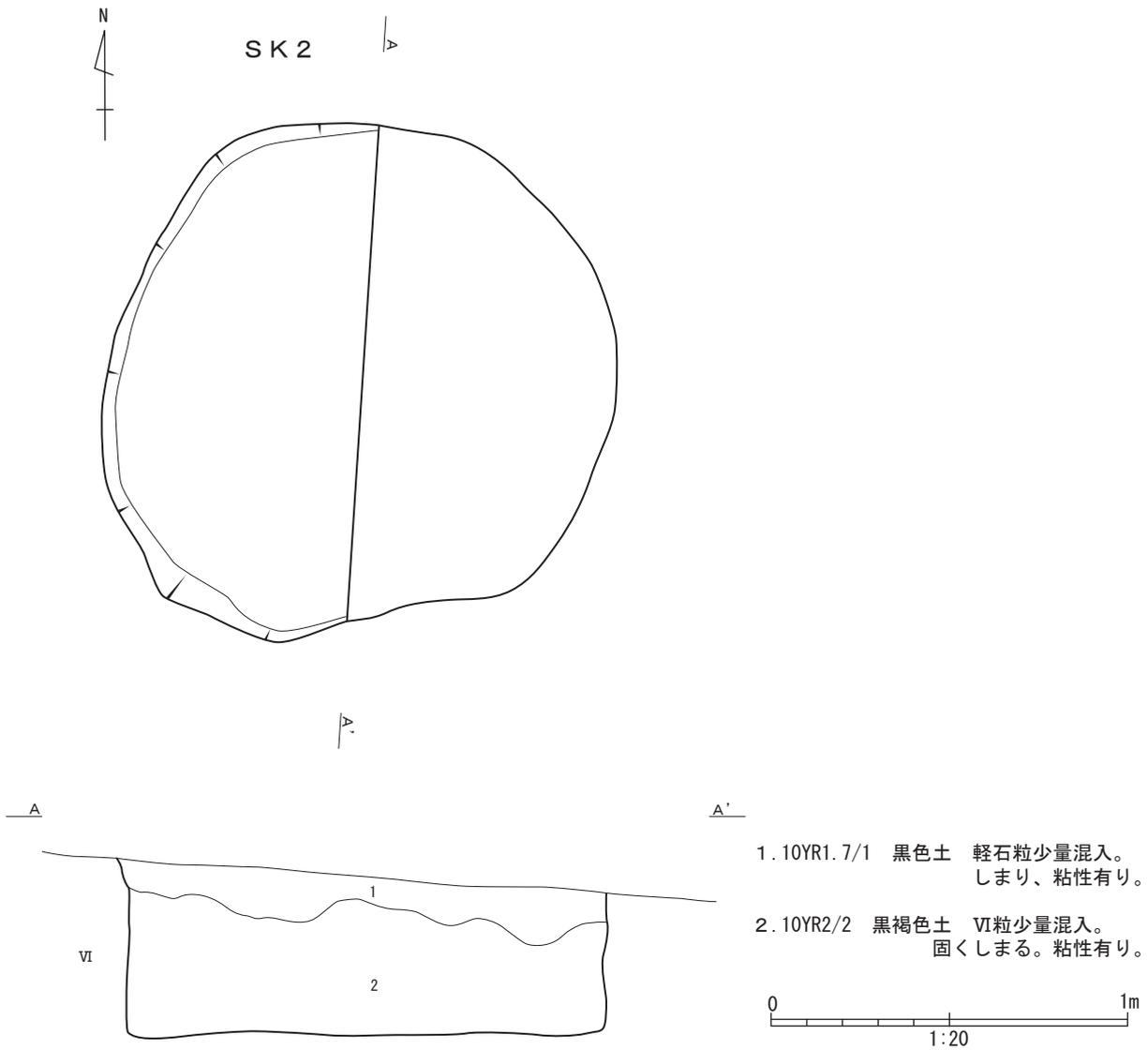


図55 土坑2

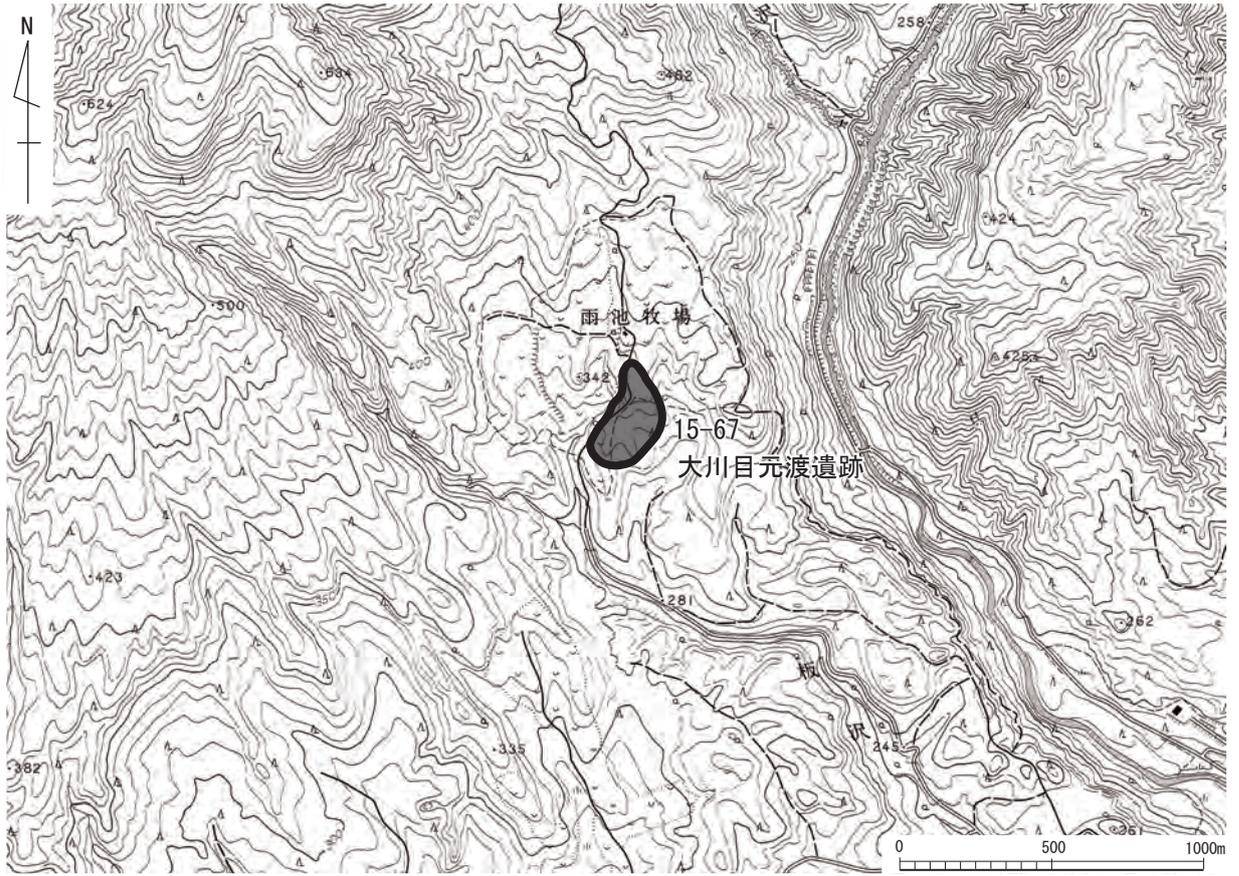


図56 大川目元渡遺跡の位置 (1 : 25,000)

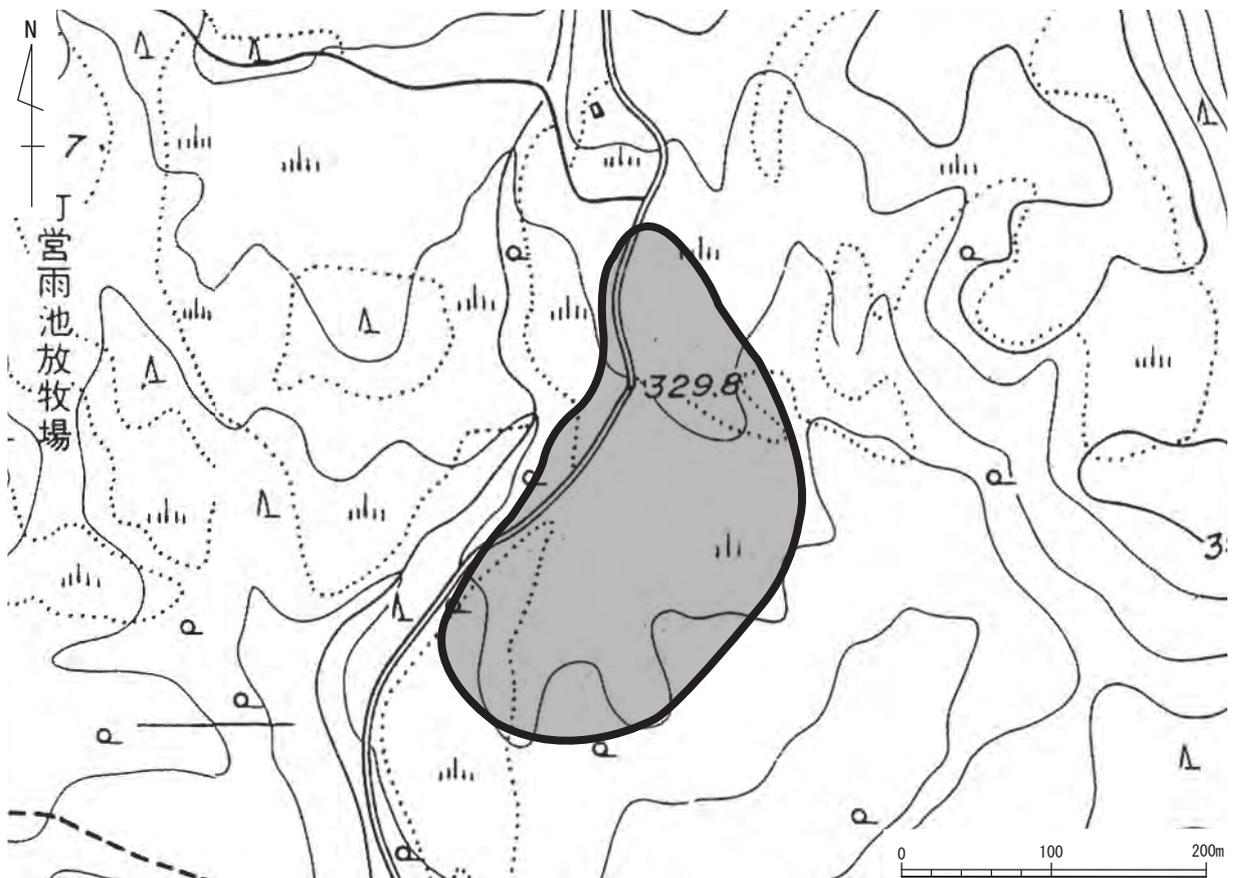


図57 大川目元渡遺跡と周辺の地形 (1 : 5,000)



調査区近景



調査区近景



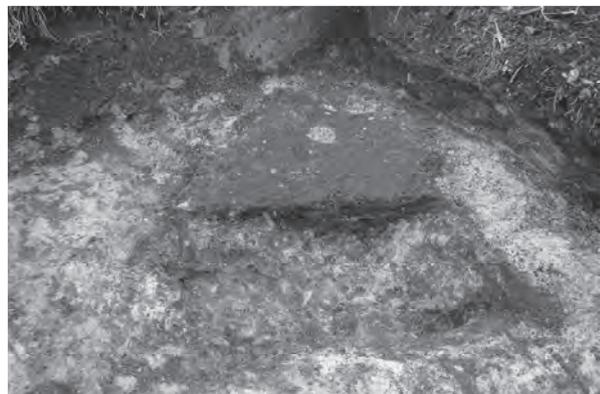
2 調査状況



7 調査状況



13調査状況



土坑 1



16調査状況

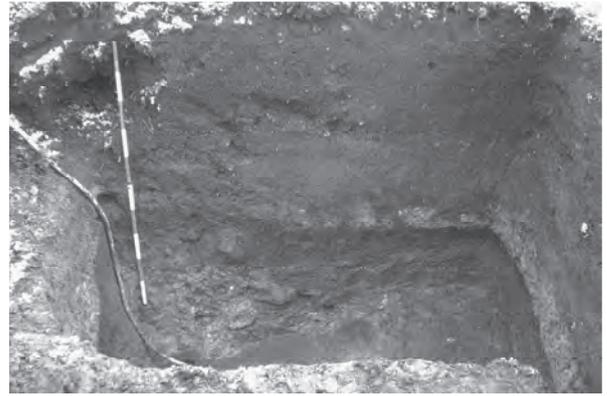


17調査状況

図版24 調査状況(1)



21調査状況



26調査状況



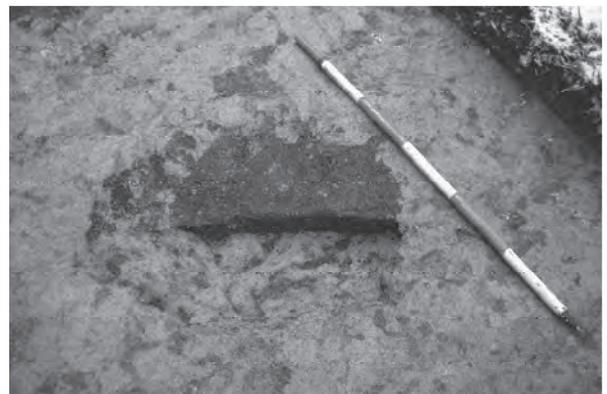
27調査状況



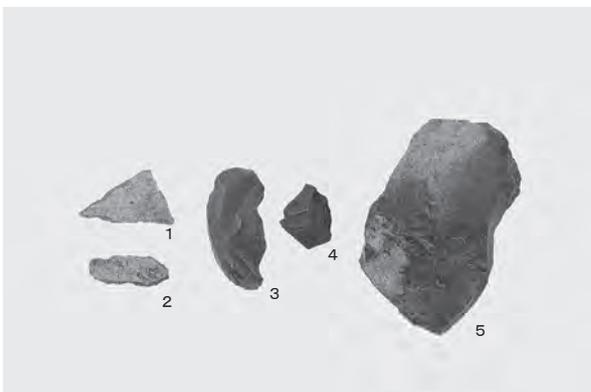
土坑 2



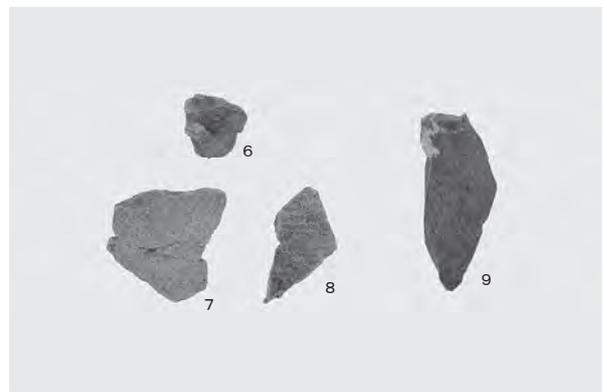
31調査状況



土坑 3



出土遺物



土坑 2 出土遺物

図版25 調査状況(2)と出土遺物

## 4 本郷IV遺跡隣接地（携帯電話無線基地局）

### (1) 遺跡の位置と周辺の環境

本郷IV遺跡は、JR奥羽本線早口駅から北西に約2.5km、大館盆地の北西部を開析する早口川の下流域に位置する。調査地は、遺跡の西側隣接地にあたり、標高は海拔約62mである。本遺跡の周辺には、北約0.6kmに県指定史跡矢石館遺跡、周囲0.1～0.2kmのところには本郷I～III遺跡が分布している。

本遺跡は、平成9年度に田代町史編集委員会が実施した分布調査により発見された縄文時代の遺物包含地（秋田県教育委員会登載番号204-15-46）で、本遺跡における発掘調査の履歴はなく、周辺地域での試掘調査も実施されていない。

### (2) 調査の内容

今回の調査は、携帯電話無線基地局が建設される地区100㎡について実施した。2m×5mのトレンチを設定して調査を実施した。トレンチは、重機により表土及び黒色土を除去した後、底面と壁面を精査し、埋蔵文化財の有無を調査した。基本層序は、腐植土層等は削平により残存しておらず、基盤をなす黄褐色土層上に盛土が堆積する単純なものである。以下に基本層序を示す。

I層 盛土。

II層 黄褐色粘質土。

### (3) 調査の結果

調査の結果、調査地は以前、住宅が建てられていたようで、その建設時か解体時と思われる整地により地山まで削平され、遺構及び遺物は確認されなかった。したがって、今回の調査対象地内には遺跡が存在する可能性は低く、保護措置は不要と考えるのが妥当と判断した。

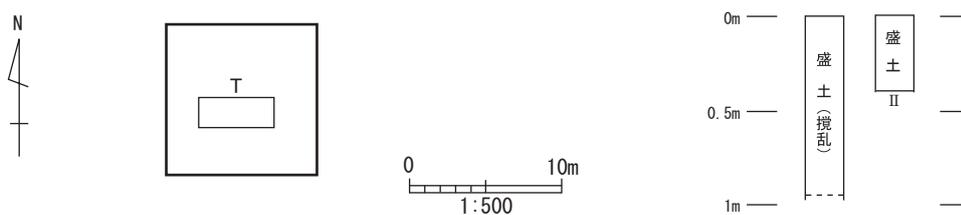


図58 調査位置図、土層柱状図（1：40）



図版26 調査状況

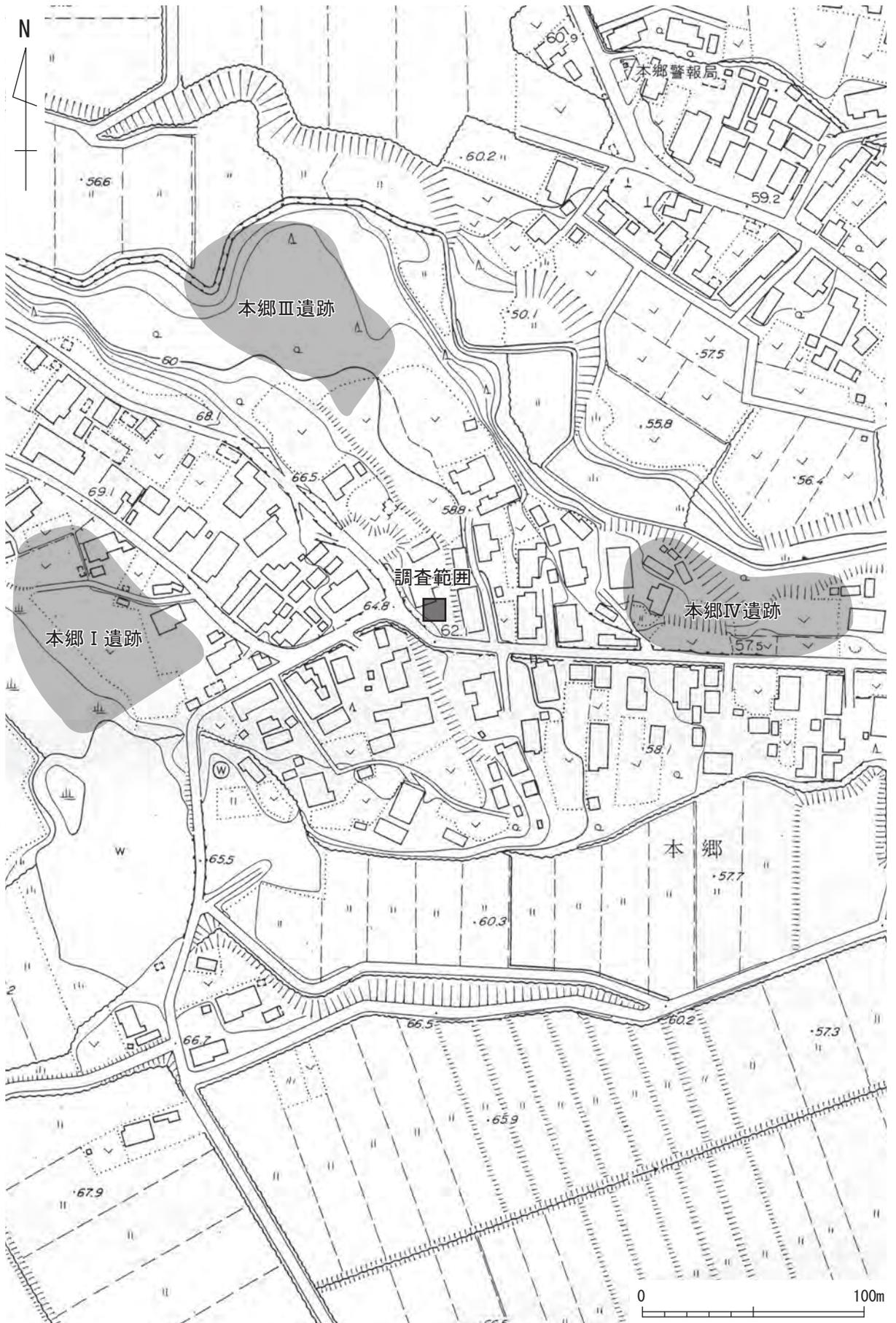


図 59 調査地区と周辺の地形 (1 : 2,500)

## 5 中茂屋遺跡隣接地（公共下水道）

### (1) 遺跡の位置と周辺の環境

中茂屋遺跡は、JR早口駅より北へ約4km、大館盆地の北西部を開析する岩瀬川の下流域に位置する。調査地は、遺跡の東側隣接地にあたり、標高は海拔61～64mである。本遺跡の周辺には、北東約0.7kmのところ、茂屋東遺跡、北約0.4kmに上茂屋遺跡、南東約1.1kmに茂屋下岱遺跡が分布する。

本遺跡は、縄文時代の遺物包含地（秋田県教育委員会登録番号204-15-62）で、本遺跡における発掘調査の履歴はないが、周辺地域では、遺跡南側の地区で平成23年度に試掘調査を実施している（第4章2節）。

### (2) 調査の内容

今回の調査は、下水道工事が行われる地区424㎡について実施した。調査区内に、任意に2m×2mのテストピット（以下「TP」）を設定して調査を実施した。TPは、重機を用いて盛土及び黒色土を除去した後、人力にて底面と壁面を精査し、埋蔵文化財の有無等を調査した。基本層序は、基盤をなす褐色土層上に黒色土が堆積する単純なものである。以下に基本層序を示す。

I層 黒色の色調を示す腐植土層である。

II層 黒色の色調を示す腐植土層である。I層よりやや明るい。

III層 黒褐色～暗褐色の色調を示す土層である。II層とIV層の漸移層である。

IV層 褐色の色調を示す土層。

調査の結果、TP7から柱穴1個を検出し、TP5・7から計3点の縄文土器片を得た（図版27-1・2）。柱穴内から加工痕をもつ根石1個（図版27-3）が出土したが、ほかに遺物は出土しなかった。縄文土器はI～III層から出土したが、TP5・6には遺物包含層に相当するII層はすでに消失したものとみられる。

### (3) 調査の結果

今回の調査は、平成24年度に中茂屋遺跡の東側隣接地について実施した。調査の結果、上述のとおり、TP1～4の区間については、遺構は検出されず、遺物はTP2表土より近世陶磁器片1点が出土したのみで、遺跡が存在する可能性は低く、本発掘調査は不要と判断した。

一方、TP5～7の区間については、TP7から時期不明の柱穴1個を検出し、TP5・7から縄文土器片が3点出土したことから、遺跡範囲が東側へ広がる可能性があるため、より詳細な調査が必要と判断し、平成24年9月20日から10月6日まで確認調査を実施した。この調査の結果は、次節で述べる。



図 60 調査地区と周辺の地形 (1 : 2, 500)

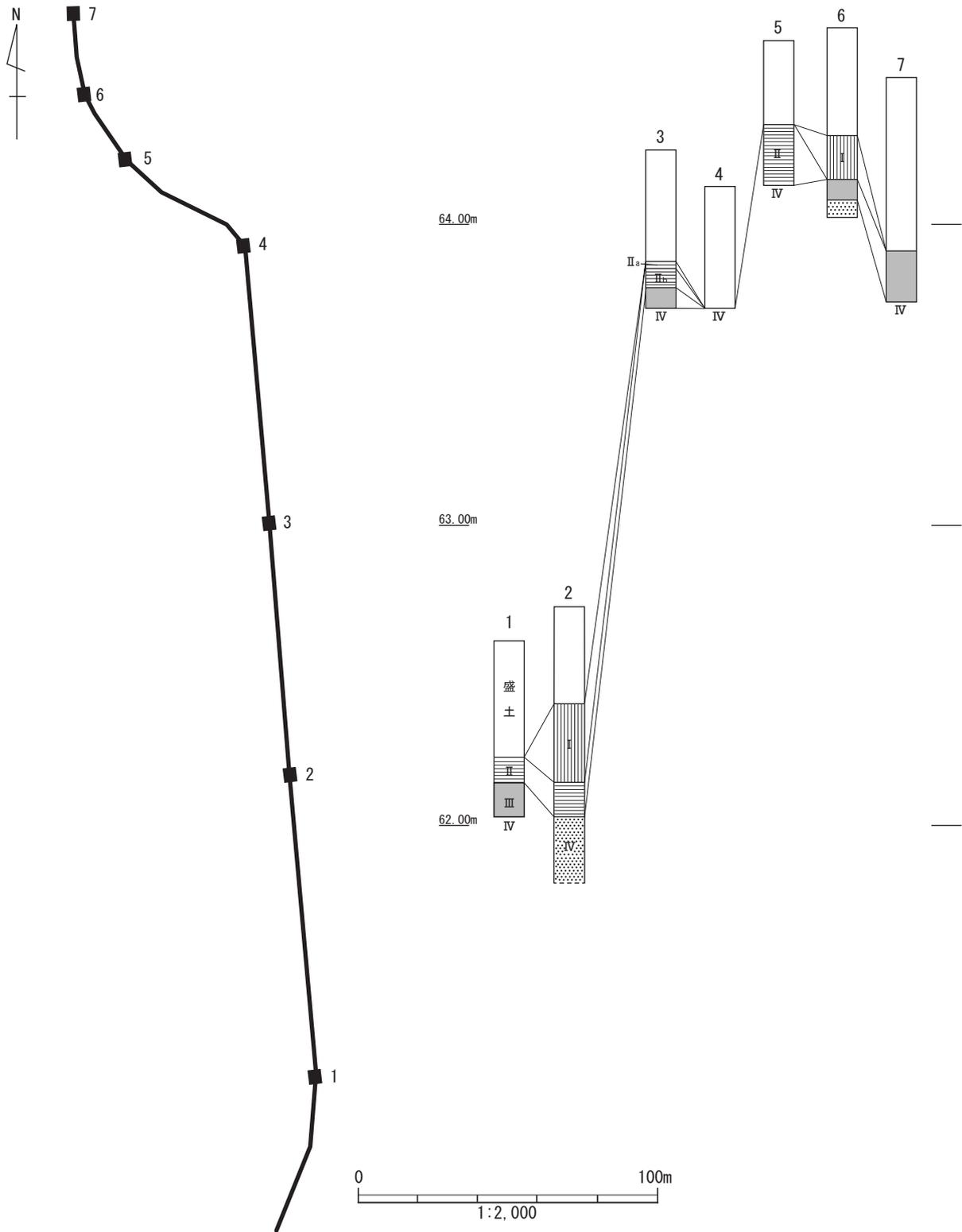


図 61 調査位置図、土層柱状図 (1 : 40)

表19 種別遺構一覧

柱穴	計
1	1

表20 遺構出土遺物一覧

分類	S	合計
	調査区遺構	4
TP 7 SP	1	1

表21 遺構外出土遺物一覧

分類	P			合計	
	調査区	2	3		8
TP 2				1	1
TP 5			1		1
TP 7	2				2
合計	2	1	1	1	4



調査区近景



2 調査状況



4 調査状況



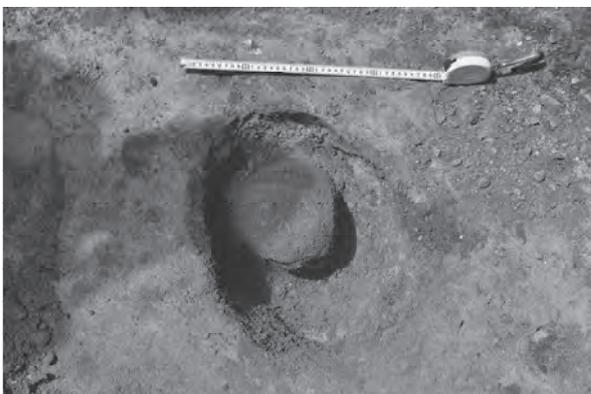
5 調査状況



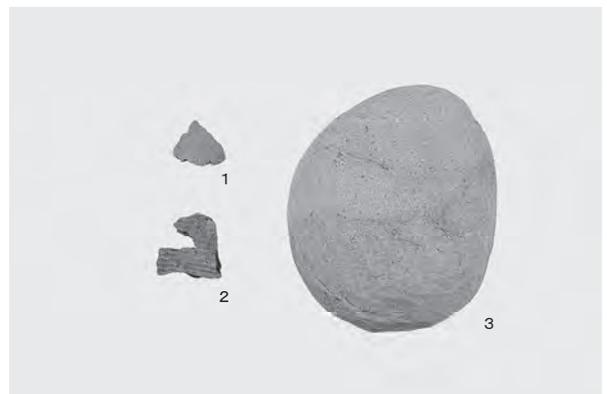
6 調査状況



7 調査状況



7 柱穴調査状況



出土遺物

図版27 調査状況と出土遺物

## 6 中茂屋遺跡（公共下水道）

### (1) 遺跡の位置と周辺の環境

中茂屋遺跡の位置と周辺の環境については、前節で述べたとおりである。今回の調査は、前節の調査により、縄文土器片が出土し、再度確認調査が必要と判断した区間について実施した。

### (2) 調査の内容

試掘調査で縄文土器片が出土した地区 95 m<sup>2</sup>について実施した。調査区内に、トレンチ（以下「TR」）を8本設定して調査を実施した。TRは、重機を用いて盛土及び黒色土を除去した後、人力にて底面と壁面を精査し、埋蔵文化財の有無等を調査した。

調査の結果、TR 1から柱穴様ピット1基、TR 2から土坑1基、溝跡1条、TR 3から土坑2基、TR 6・7から竪穴建物跡1棟を検出し、遺物はTR 2～7から縄文土器片201点、土師器3点、石器類58点、礫4点が出土した。また、調査地南西部の中茂屋遺跡範囲内の畑から、295点の縄文土器片、32点の石器を表採した。

### (3) 遺構

#### 1) 土坑

##### 土坑1（図63）

**遺構** TR 2を調査中に黒色土の落込みを発見した。平面形は円形を呈する。確認面での規模は径1.1 m、深さ0.1 mほどである。遺物は出土しなかった。

**覆土** 黒色土にブロック状のロームなどが混じる。

#### 2) 溝跡

##### 溝跡2（図64）

**遺構** TR 2を調査中に黒色土の落込みを発見した。調査区を東西方向に横断する。確認面での規模は幅2.2 m、深さ0.4 mほどである。遺物は出土しなかった。

**覆土** 黒色土に粒状のロームなどが混じる。また、拳～人頭大の礫が大量に混入していた。

### (4) 遺物（図版29）

今回の調査により遺物は、縄文土器が前期～中期のものを中心として496点、土師器が3点（10・11）得られた。TR 3からは縄文時代中期の北陸地方の新保式系土器の深鉢口縁部破片1点（4）が出土した。石器では、石錐1点、石匙1点（5）、スクレイパー8点（2・12・24・36）、部分的な刃部を持つ剥片16点（6・7・25～29）、石斧1点（23）、擦石1点（37）、凹石1点（38）、剥片53点、石核5点（30）、礫7点の計94点である。

(5) 調査の結果

TR 1からは柱穴様ピット1基を検出したのみで、これ以上の調査は必要ないと判断した。一方、TR 2～7からは縄文時代の遺構・遺物が検出されたため、工事に先立ち発掘調査が必要と判断した。なお、工期が迫っていることから、確認調査と並行し本調査にも取り掛かり、平成24年11月8日まで本調査を行った。

今回の調査結果により、従来よりも中茂屋遺跡の範囲が東側に広がることを確認された。したがって、平成24年10月29日付け24郷博発第48号で秋田県教育委員会へ、遺跡の内容変更を通知した(図65・66)。

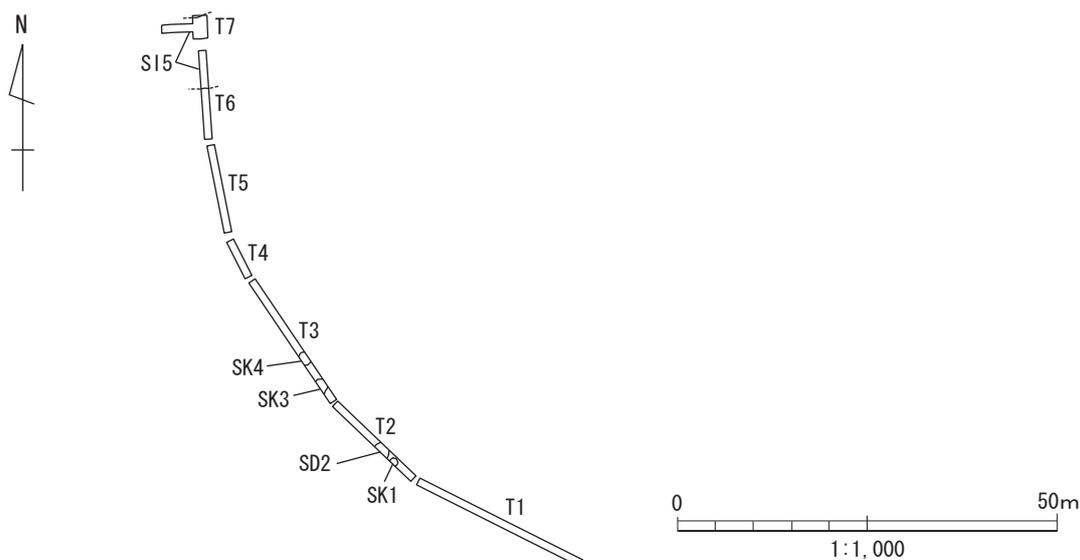


図62 調査位置図

表22 種別遺構一覧

竪穴	土坑	溝跡	柱穴	計
1	3	1	1	6

表23 遺構一覧

番号	位置	平面形	規模			長軸 (N-W)
			確認面	底面	深さ	
SK 1	TR 2	円形	1.1×-	0.87×-	0.1	-
SD 2	TR 2	-	2.2×-	1.52×-	0.38	145°

表24 遺構外出土遺物一覧

調査区	分類	P					S										合計			
		2	4	5	7	計	1							2	3	4		計		
							2	3	4	5	6	7	小計							
TR 2		3				3		1							1				1	4
TR 3		19	1			20		1	5						6	5	1		12	32
TR 4		4		2		6			1						1	4		3	8	14
TR 5					3	3		1							1	2			3	6
TR 6		104				104		1	9	1					11	11	2	1	25	129
TR 7		68				68		1			1	1			3	10			13	81
表面採集		291		4		295	1	4	1						6	21	2	3	32	327
合計		489	1	6	3	499	1	9	16	1	1	1		29	53	5	7	94	593	

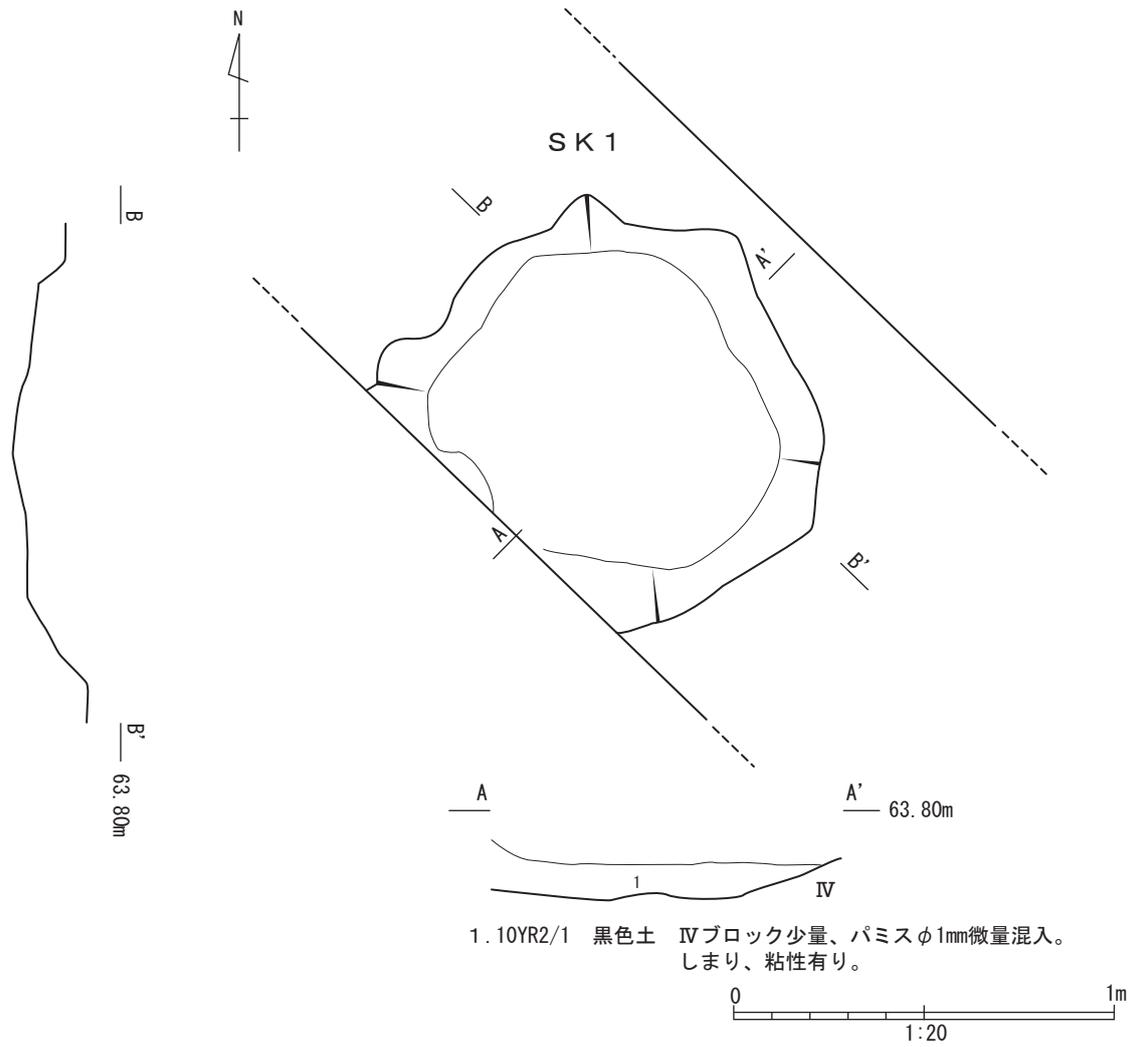


図63 土坑 1

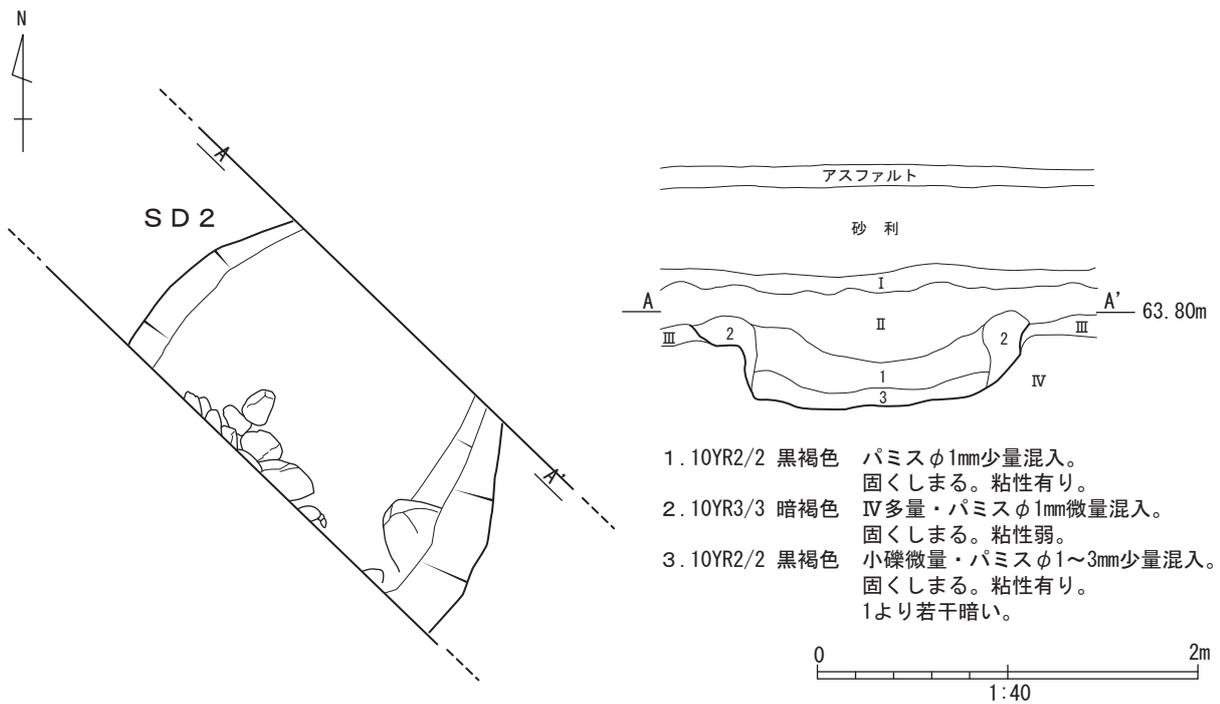


図64 溝跡 2



図65 中茂屋遺跡の位置 (1 : 25,000)

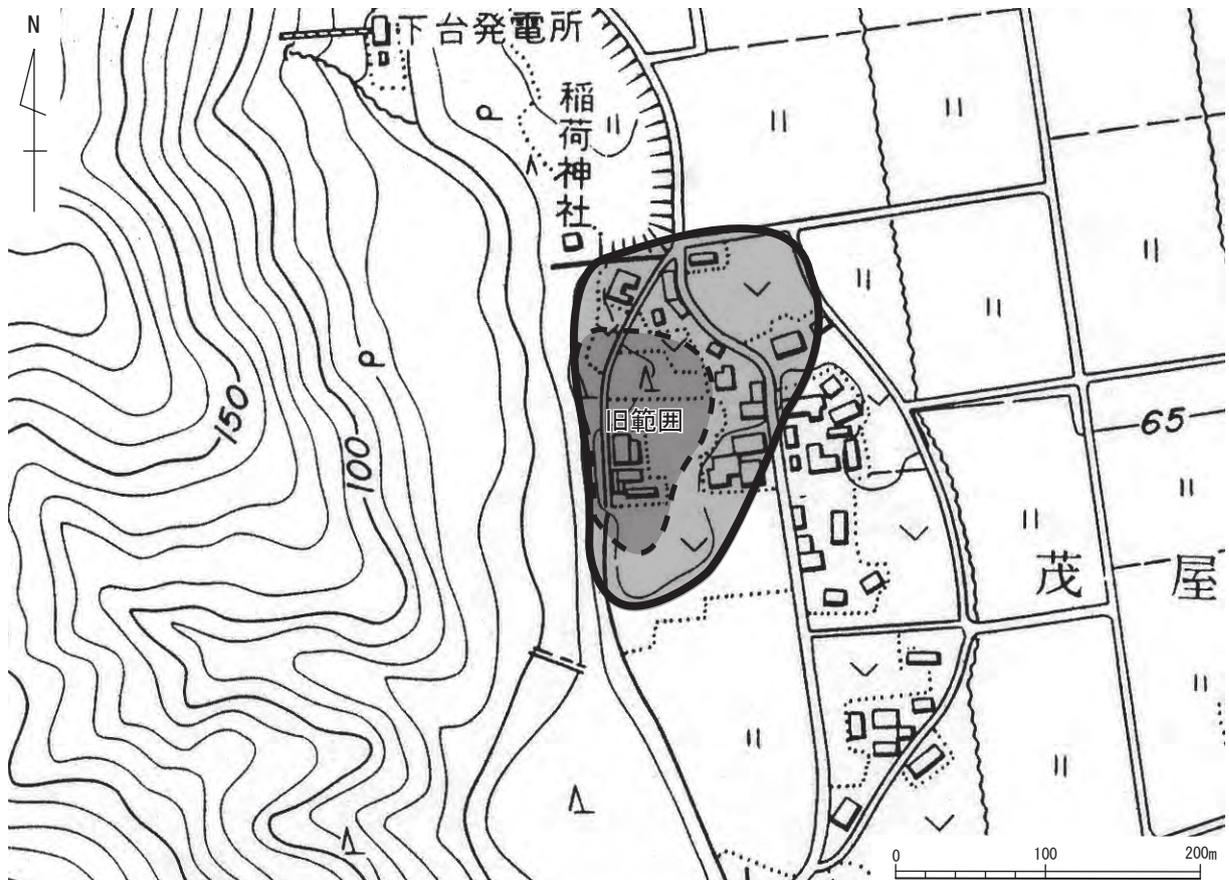


図66 中茂屋遺跡と周辺の地形 (1 : 5,000)



調査区近景



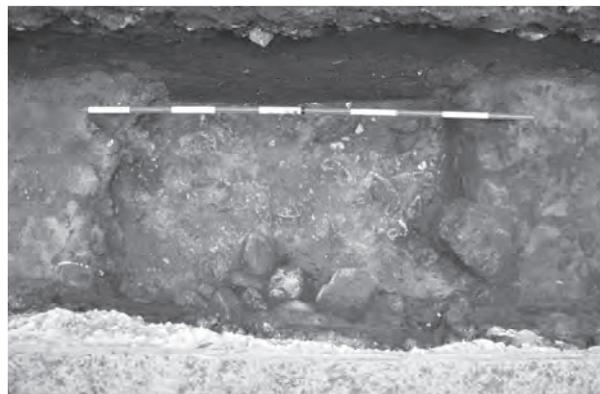
T 1 調査状況



T 2 調査状況



土坑 1



溝跡 2



T 3 調査状況



T 4 調査状況

図版28 調査状況(1)



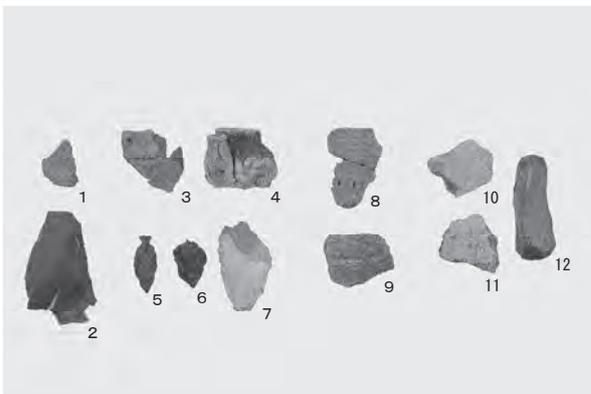
T 5 調査状況



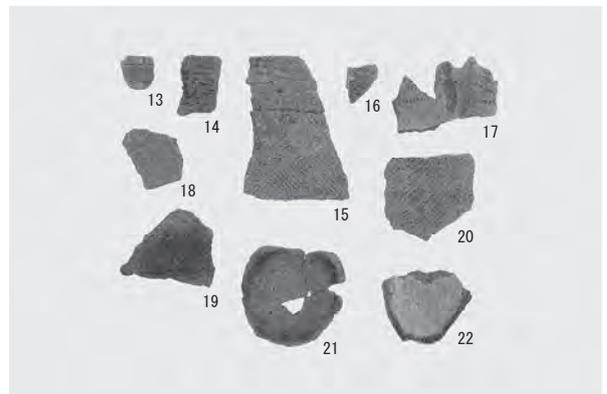
T 6 調査状況



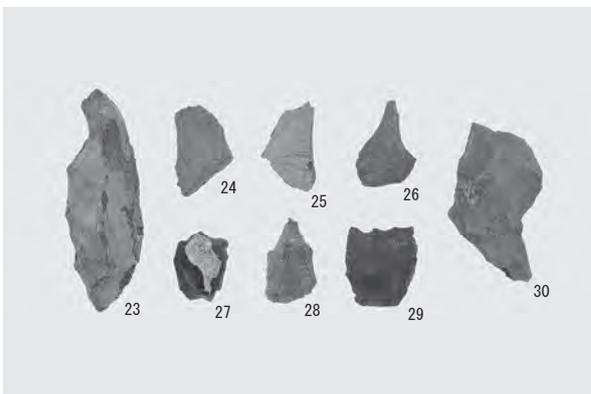
T 7 調査状況



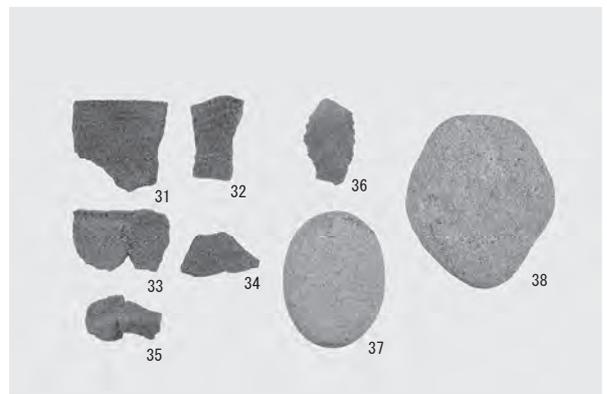
T 2～5 出土遺物



T 6 出土土器



T 6 出土石器



T 7 出土遺物

図版29 調査状況(2)と出土遺物

## 7 大川目元渡遺跡隣接地（養豚企業誘致）

### (1) 遺跡の位置と周辺環境

大川目元渡遺跡の位置と周辺環境については、第4章3節で述べたとおりである。今回の調査位置は、本遺跡を発見した調査区とは小沢を挟んで西側に隣接しており、遺跡の所在する可能性がある地区であることから、平成24年度に調査を実施した。

### (2) 調査の内容

今回の調査は、養豚企業誘致により土地造成工事が予定されている地区のうち約20,000㎡について実施した。調査対象範囲内に2m×3mのテストピット（以下「TP」）を20m間隔を基本として40箇所を設定し、重機により表土及び黒色土を除去した後、底面と壁面を精査し、埋蔵文化財の有無を調査した。また、重機の立ち入れない山林部分には2m×2mと2m×3mのTPを2箇所を設定して、人力にて調査を行った。調査地内は、牧場用地とするために過去に大規模な造成が行われており、ほとんどのTPで削平が地山面まで及んでいた。なお、一部では盛土下に旧表土以下が確認され、造成により沢状地形が埋め立てられている箇所もあった。以下に基本層序を示す。

- I層 表土。
- II層 盛土。
- III層 黒色土。旧表土。
- IV層 暗褐色土。III層とV層の漸移層である。
- V層 黄褐色粘質土。
- VI層 明黄褐色礫層。

調査の結果、遺構は確認されなかった。遺物はTP1盛土から縄文土器片2点が出土した。小破片で磨耗しているため、明確ではないが2群に分類した。

### (3) 調査の結果

調査の結果、遺構は確認されず、遺物も縄文土器片2点のみの出土であったことから、今回の調査対象地内には埋蔵文化財が存在する可能性は低いと判断した。したがって、保護措置は不要と考えるのが妥当と判断した。

なお、遺物の出土が微量ながらあったことから、造成以前は遺跡が存在した可能性がある。ことから、平成24年度調査対象としなかった西側隣接地において、次年度以降も継続して試掘調査を実施していく予定である。

表25 出土遺物一覧

分類	P	合計
調査区	2	
TP1	2	2

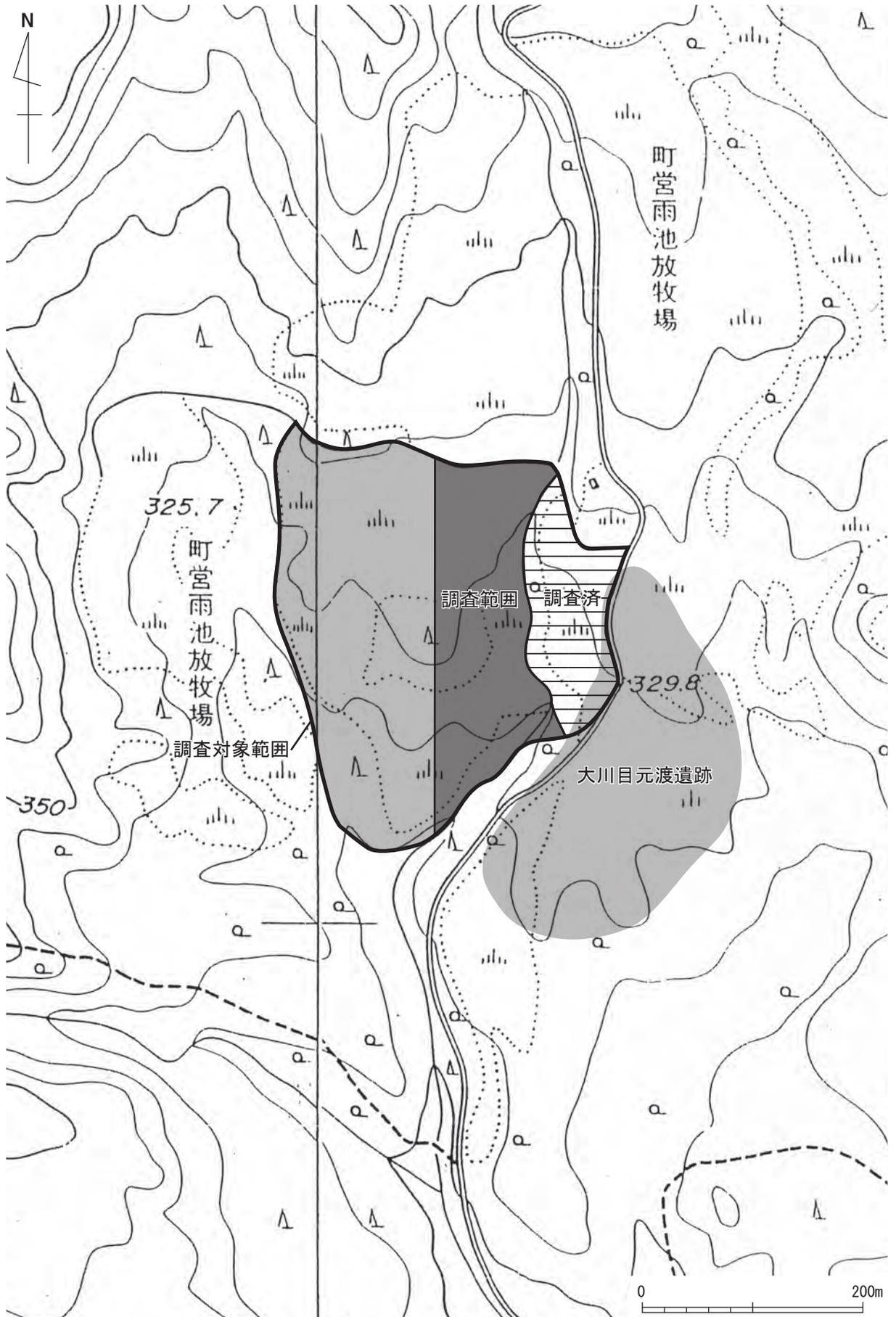


図 67 調査地区と周辺地形 (1 : 5,000)

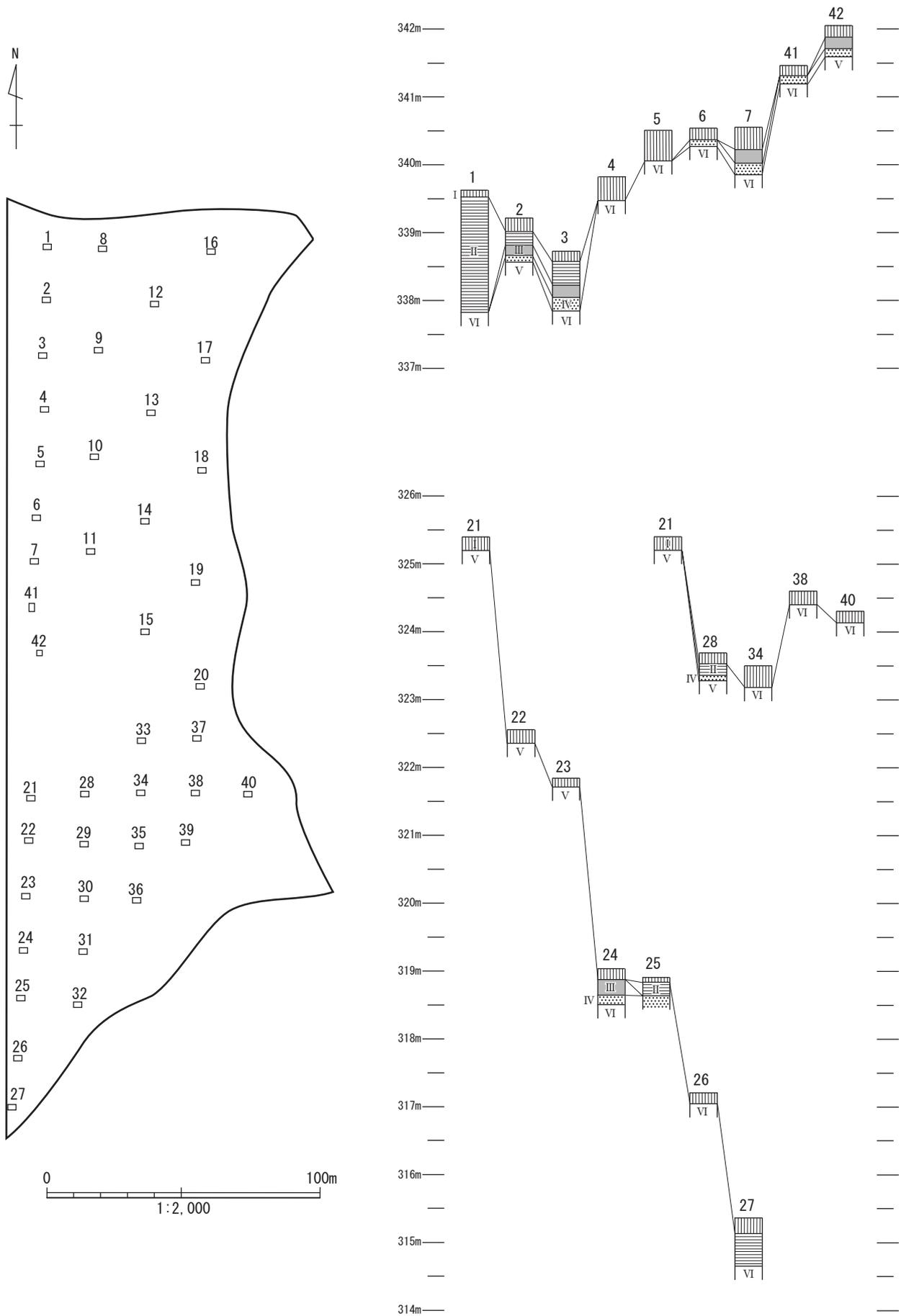


図 68 調査位置図、土層柱状図 (1 : 80)



調査区遠景



調査区近景



調査区近景



1 調査状況



23 調査状況



27 調査状況



40 調査状況



42 調査状況

図版30 調査状況

## 8 大岱中岱遺跡隣接地（消防救急デジタル無線整備事業）

### (1) 遺跡の位置と周辺の環境

大岱中岱遺跡は、JR早口駅より北西へ約7km、大館盆地の北西部を開析する早口川の中流域に位置する。調査地は、遺跡の南側隣接地にあたり、標高は海拔約120mである。本遺跡の周辺には、東約0.5kmに大岱遺跡、南約0.4kmに地森岱Ⅱ遺跡が分布している。

本遺跡は、平成9年度に田代町史編集委員会が実施した分布調査により発見された縄文時代の遺物包含地（秋田県教育委員会登録番号204-15-27）で、本遺跡における発掘調査の履歴はなく、周辺地域での試掘調査も実施されていない。

### (2) 調査の内容

今回の調査は、デジタル無線基地局が建設される地区120㎡について実施した。2m×5mのトレンチを設定して調査を実施した。トレンチは、重機により表土及び黒色土を除去した後、底面と壁面を精査し、埋蔵文化財の有無を調査した。基本層序は、基盤をなす褐色粘質土層上に盛土が堆積する単純なものである。以下に基本層序を示す。

- I層 表土及び耕作土。
- II層 盛土。
- III層 漸移層。南側に一部のみ残存。
- IV層 褐色粘質土。

### (3) 調査の結果

調査の結果、遺構及び遺物は確認されなかった。調査地は以前、ホップ畑として利用されていたようで、その時と思われる整地によりほぼIV層まで削平されていた。以上のように地形・土層等からみて、今回の調査対象地内には埋蔵文化財が存在する可能性は低く、保護措置は不要と考えるのが妥当と判断した。

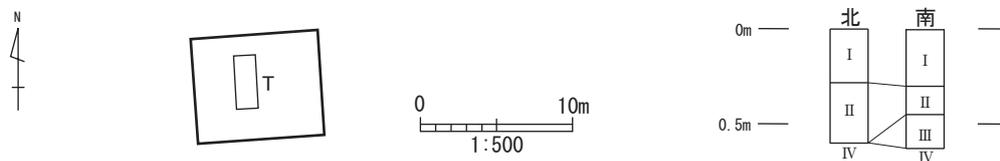


図69 調査位置図、土層柱状図（1：40）



調査区近景

調査状況

調査状況

図版31 調査状況

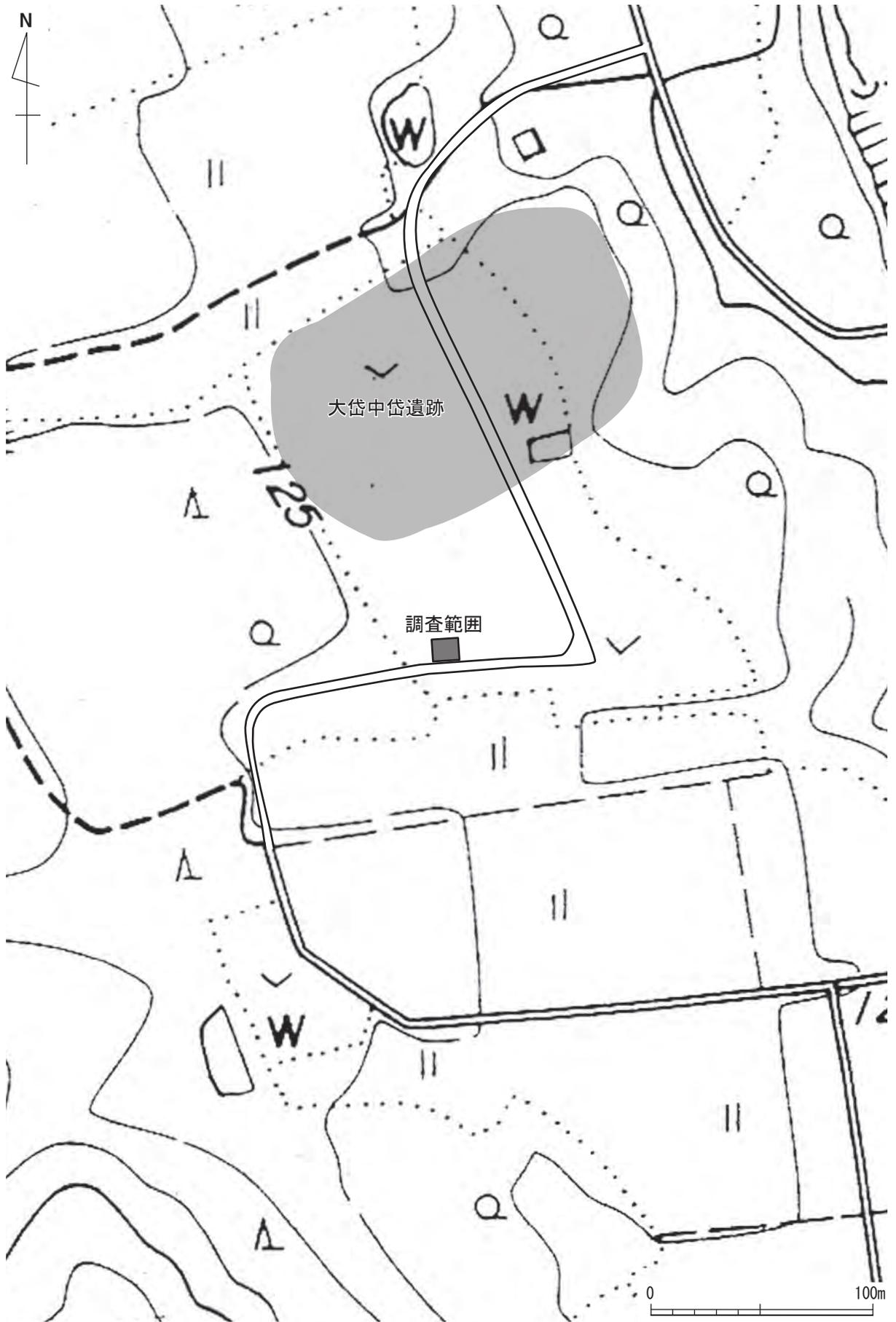


图 70 調査地区と周辺地形 (1 : 2,500)

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	おおだてしないいせきしょうさいぶんぶちょうさほうこくしょ (3)							
書名	大館市内遺跡詳細分布調査報告書 (3)							
副書名								
巻次								
シリーズ名	大館市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第7集							
編著者名	滝内 亨・嶋影 壮憲							
編集機関	大館郷土博物館							
所在地	〒017-0012 秋田県大館市釈迦内字獅子ヶ森1番地 TEL 0186 - 48 - 2119 FAX 0186 - 48 - 2512							
発行機関	大館市教育委員会							
所在地	〒018-3595 秋田県大館市早口字上野43番地1 TEL 0186 - 43 - 7111 FAX 0186 - 54 - 6100							
発行年月日	2013年3月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
ゆきさわちく 雪沢地区①	あきたけんおおだてしゆきさわ 秋田県大館市雪沢	05204	—	40° 17' 57"	140° 42' 29"	20110730	5	詳細分布調査
はなおかちく 花岡地区	あきたけんおおだてしはなおかまち 秋田県大館市花岡町		—	40° 19' 59"	140° 33' 7"	20110730	5	
からさわちく 柄沢地区	あきたけんおおだてしからさわ 秋田県大館市柄沢		—	40° 16' 4"	140° 34' 57"	20110817 ～ 20110909	270	
かすだいせき 粕田遺跡	あきたけんおおだてしはなおかまち 秋田県大館市花岡町		4-8	40° 20' 20"	140° 34' 17"	20110819	5.5	
おおびらちく 大披地区	あきたけんおおだてしおおびらき 秋田県大館市大披		—	40° 17' 27"	140° 30' 11"	20111025	10	
あしだこうわたいいせき 芦田子上岱遺跡	あきたけんおおだてしあしだこ 秋田県大館市芦田子		4-49	40° 18' 10"	140° 35' 32"	20111117 ～ 20111201 ・ 20121106 ～ 20121109 ・ 20121121 ～ 20121218	755	
おおだてのいせきりんせつち 大館野遺跡隣接地	あきたけんおおだてしかすだ 秋田県大館市粕田		4-5	40° 20' 8"	140° 34' 56"	20120518	10	
いいだちく 二井田地区	あきたけんおおだてしいだ 秋田県大館市二井田		—	40° 15' 4"	140° 32' 14"	20120823	12	
ゆきさわちく 雪沢地区②	あきたけんおおだてしゆきさわ 秋田県大館市雪沢		—	40° 18' 17"	140° 40' 31"	20121120	12	
ふくだてはしげたのいせきりんせつち 福館橋桁野遺跡隣接地	あきたけんおおだてしわかかない 秋田県大館市釈迦内		4-13	40° 19' 31"	140° 34' 31"	20120911 ～ 20120920	150	
みそないちく 味噌内地区	あきたけんおおだてしひないまちみそない 秋田県大館市比内町味噌内		—	40° 12' 7"	140° 36' 17"	20110915 ～ 20110916	12	
かまやちきわいせき 鎌谷地沢遺跡	あきたけんおおだてしひないまちやぎはし 秋田県大館市比内町八木橋		12-50	40° 12' 9"	140° 33' 7"	20121203 ～ 20121224	381	
しんだて2いせき 真館Ⅱ遺跡	あきたけんおおだてしひないまちいだて 秋田県大館市比内町新館		12-52	40° 12' 54"	140° 35' 9"	20120710 ～ 20120801	375	
すがやちいせき 菅谷地遺跡	あきたけんおおだてしやぐち 秋田県大館市早口		15-66	40° 20' 40"	140° 24' 13"	20110611 ～ 20110616	1,400	
やまだちく 山田地区	あきたけんおおだてしやまだ 秋田県大館市山田		—	40° 18' 10"	140° 27' 19"	20110830 ・ 20111124	20	

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
おおかわめもとわたりいせき 大川目元渡遺跡	あきたけんおおだてしいわせ 秋田県大館市岩瀬	05204	15-67	40°23'29"	140°26'39"	20111125 ～ 20111202	267.5	詳細分布調査
ほんごう4いせきりんせつち 本郷IV遺跡隣接地	あきたけんおおだてしはやぐち 秋田県大館市早口		15-46	40°17'19"	140°25'27"	20120518	10	
なかもやいせき 中茂屋遺跡	あきたけんおおだてしやまだ 秋田県大館市山田		15-62	40°18'27"	140°27'16"	20120808 ～ 20120809 ・ 20120920 ～ 20121006	123	
おおかわめもとわたりいせきりんせつち 大川目元渡遺跡隣接地	あきたけんおおだてしいわせ 秋田県大館市岩瀬		15-67	40°23'30"	140°26'34"	20121024 ～ 20121117	250	
おおたいなかたいいせきりんせつち 大岱中岱遺跡隣接地	あきたけんおおだてしはやぐち 秋田県大館市早口		15-27	40°18'51"	140°23'18"	20121120	10	
所収遺跡名	種別		主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
菅谷地遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡、竪穴状遺構		縄文土器、石器	新発見		
芦田子上岱遺跡	散布地	縄文・平安	土坑		縄文土器、石器、 鉄関連遺物			
大川目元渡遺跡	集落跡	縄文	土坑、柱穴		縄文土器、石器	新発見		
鎌谷地沢遺跡	狩猟場	縄文	落し穴状遺構、柱穴		なし	新発見		
真館II遺跡	集落跡	縄文・平安	竪穴住居跡、土坑		縄文土器、土師器、 石器	新発見		
中茂屋遺跡	集落跡	縄文	竪穴建物跡、土坑、溝跡		縄文土器、石器	範囲変更		
要約	<p>平成23～24年度は21箇所の開発事業予定地内の詳細分布調査を実施した。その結果、「菅谷地遺跡」、「大川目元渡遺跡」、「鎌谷地沢遺跡」、「真館II遺跡」を新規遺跡として登録した。</p> <p>本発掘調査が必要と判断したのは5遺跡である。そのうち「菅谷地遺跡」、「鎌谷地沢遺跡」、「中茂屋遺跡」については本調査を実施した。「真館II遺跡」は事業範囲から外され現地保存されることとなった。「大川目元渡遺跡」については引き続き事業者と調整を図っていくこととした。</p>							

大館市文化財調査報告書第7集

---

**大館市内遺跡詳細分布調査報告書（3）**

発行日 平成25年3月28日  
編集 大館郷土博物館  
大館市釈迦内字獅子ヶ森1番地  
発行 大館市教育委員会  
大館市早口字上野43番地1  
印刷 株式会社 大館印刷  
大館市字馬喰町35番地

---